

NAKAOZAKO - Archaeological site

中尾迫遺跡

平成17年3月

鹿児島県指宿市教育委員会

序　　言

中尾追遺跡は、平成5年度に鹿児島県文化財課が実施したサンオーシャンリゾート計画に伴う分布調査で、畑地内から数点の弥生土器が表面採集されて、その存在が明らかになりました。平成8年度は、広域営農団地農道整備事業に伴う確認調査が実施され、さらに、平成9年度には、鹿児島県農政部、指宿市耕地課の協力を得て農道建設予定地の全面的な発掘調査が行われました。

発掘調査の結果、中尾追遺跡は、近世・近代と弥生時代前期末・中期・後期終末にかけて、指宿の先人たちが自然とともに豊かな生活を営んでいたことが分かりました。

近世・近代におきましては、中尾追遺跡の地は畑地として利用され、多くの栽培物の保存を目的とした貯蔵穴が掘られていました。

また、弥生時代の遺物包含層からは多くの弥生土器や軽石加工品、石器類が出土し、建物の柱穴等のピットや土坑も多数検出されました。

特記すべき点としては、弥生時代に帰属する土器焼成坑が発見されたことです。弥生時代に帰属する土器焼成坑としては、鹿児島県では初例であり、一躍注目を浴びました。

中尾追遺跡で発見されました土器焼成坑は、関係機関の御配慮・御理解を頂きまして、国指定史跡指宿橋本札川遺跡歴史公園内に保存を目的として移設保存を行いました。

現在、市内をはじめ県内の児童・生徒に、土器の製作方法を伝えるための貴重な教材として活用を図っています。

本報告書は、このような中尾追遺跡の発掘調査結果を報告するものです。中尾追遺跡で大きな成果を挙げることができましたのも、関係機関、各位の御理解と御協力のおかげと感謝申し上げる次第です。

平成17年3月

指宿市教育委員会
教育長 林 賢一郎

例 言

1. 本書は、平成9年6月16日から平成9年10月15日まで実施した、鹿児島県指宿市西方字中尾追に所在する中尾追遺跡の埋蔵文化財発掘調査報告書である。
2. 発掘調査は、鹿児島耕地事務所と指宿市が委託契約を締結し、指宿市教育委員会で実施した。社会教育課の鎌田洋昭が主に担当し、下山 覚、中摩浩太郎、渡部徹也がそれぞれ担当した。
3. 発掘調査報告書作成は、鹿児島耕地事務所と指宿市が委託契約を締結し、指宿市教育委員会で実施した。社会教育課の鎌田洋昭が主に担当し、中摩浩太郎、渡部徹也から助言・協力を頃いた。出土遺物の実測・トレースは、それぞれ分担した。
4. 発掘調査での遺構検出や出土遺物状況の写真撮影・執筆については、鎌田洋昭が行った。
5. 発掘調査での地層・火山灰については、鹿児島県立武岡台高等学校の成尾英仁先生（当時、鹿児島県立博物館学芸員）から御教示を得た。
6. 出土遺物の整理・実測・分類については、鹿児島国際大学の中園聰教授から御教示を得た。
7. 土器焼成坑について九州内の事例や研究論文等について、福岡大学の小田富士雄教授と小郡市教育委員会の宮田浩之氏から御教示を得た。さらに、鹿児島国際大学の上村後雄教授（当時、鹿児島大学教授）と大西智和助教授（当時、鹿児島大学埋蔵文化財調査室）、鹿児島大学の本田道輝助教授、中村直子助教授（当時、鹿児島大学埋蔵文化財調査室）に遺構について御指導を頂いた。
8. 発掘調査に伴う自然科学分析（植物珪酸体分析・胎土分析・年代測定分析）については、株式会社 古環境研究所に委託し協力を頂いた。その分析結果報告は、本報告書の「第三編 自然科学分析編」に掲載している。
9. 発掘調査での基本測量及び遺構図面作成については、株式会社 埋蔵文化財サポートシステムに委託し、協力を頂いた。
10. 本報告書のレベルは、全て絶対高である。また、図中に用いられている座標値は、国土座標系第2系に準ずる。
11. 遺物観察表、遺物実測図、遺構図の表記凡例は、下記及び『橋半礼川遺跡Ⅲ』（1992、指宿市教育委員会）と『水迫遺跡Ⅰ』（2000、指宿市教育委員会）に準ずる。
12. 発掘調査で得た全ての成果については、指宿市考古博物館 時遊館C O C C O はしむれで保管し、活用している。
13. 発掘調査員（平成9年度）
井上ヒサ子、徳永しげ子、下之園トシ子、林山イネ、吉元トシエ、竹下カツエ、浜崎イチ子、阿久根ノリ子、吉留紀代子、東 富子、吉元まり子、谷門節子、新小田千恵子、室屋のぞみ、新留スズ子、福重ちえ子、中水優子、石川伊律子、今村律子、浜崎美根子、上原節男、富田昭雄、打越辰巳、
14. 室内整理員
平成9年度：前田恵子、清 秀子、竹下珠代
平成16年度：清 秀子、竹下珠代、松元かおり、馬場畑梨沙、松山麻弥
15. 観察表表記凡例
土器の混和材【カ：角閃石、セ：石英、ウ：雲母、金：金雲母、白：白色粒、黒：黒色粒、赤：赤色粒、黒曜：黒曜石、黒曜岩、小レ：小礫】
16. 図中表記凡例
 - ・軽石製加工品、石器実測図中の←→と網掛け範囲は、廢面を示す。
 - ・軽石製加工品、石器実測図中、石器頸が欠損あるいは切断が認められる場合は、破線で推定復元線を入れた。
 - ・軽石製加工品、石器実測図中のa～fは、裏開面を示す。
 - ・石器表面に見られる節理面は斜線で示し、自然面（縦面）は点で示した。
 - ・出土遺物実測図左下には、掲載番号と（ ）内に出土番号を並記した。

章目次 CONTENTS

第一編 発掘調査編	
第1章 中尾追遺跡の環境	1
第1節 中尾追遺跡の立地	1
第2節 周辺の遺跡と中尾追遺跡	4
第2章 発掘調査の経緯と組織	7
第1節 発掘調査の経緯	7
第2節 発掘調査・報告書作成組織	8
第3章 発掘調査	9
第1節 発掘調査区の設定	9
第2節 基本層序	11
(1)火山性噴出物堆積層の概要	11
(2)中尾追遺跡基本層序	11
第3節 近世・近代の調査	15
(1)発掘調査	15
(2)遺構	15
①土坑	15
②溝状造構	15
③ピット	21
第4節 弥生時代の調査	23
(1)発掘調査	23
(2)遺構	23
①上器焼成坑	23
②土坑	27
③ピット	35
(3)遺物	35
①土器集中部	35
(i)土器集中部①	35
(ii)土器集中部②	37
②第3層出土遺物	42
(i)土器	42
(ii)軽石製加工品	52
(iii)石器	52
③第3層上部出土遺物	57
(i)土器	57
④第3層下部出土遺物	61
(i)遺構埋土出土遺物	61
(ii)土器	61
(iii)軽石製加工品	69
⑤第4層出土遺物	77
(i)土器	77
(ii)軽石製加工品	79
(iii)石器	79
⑥表探一般遺物	90
(i)土器	90
(ii)軽石製加工品	90
(4)発掘調査写真	109
第二編 遺構保存編	116
第三編 自然科学分析編	120
I.植物珪酸体分析	122
II.樹種同定分析	126
III.蛍光X線分析	127
III.放射性炭素年代測定分析	131
第四編 発掘調査成果編	134

図版目次 FIGURES

第1図	中尾迫遺跡の位置図	S = 1/75,000	2
第2図	中尾迫遺跡の地形図	S = 1/15,000	3
第3図	中尾迫遺跡周辺の遺跡	S = 1/50,000	5
第4図	中尾迫遺跡調査区の位置図	S = 1/1,000	9
第5図	中尾迫遺跡の調査区図	S = 1/200	10
第6図	中尾迫遺跡断面実測図	S = 1/40	12-13
第7図	基本層序と各遺跡との対比図		14
第8図	近世・近代の遺構配置図	S = 1/160	16-17
第9図	近世・近代帰属の土坑平面図	S = 1/80	19
第10図	近世・近代帰属の土坑断面図	S = 1/60	20
第11図	近世・近代帰属のピット平面・断面図	S = 1/20	22
第12図	弥生時代帰属の遺構配置図	S = 1/160	24-25
第13図	土器焼成坑平面・断面図	S = 1/30	26
第14図	土器焼成坑内出土遺物実測図	S = 1/2	27
第15図	土坑平面・断面図	S = 1/40	28
第16図	ピット検出状況図	S = 1/150	29
第17図	ピット平面・断面図①	S = 1/20	30
第18図	ピット平面・断面図②	S = 1/20	31
第19図	ピット平面・断面図③	S = 1/20	32
第20図	ピット平面・断面図④	S = 1/20	33
第21図	第3層出土遺物分布図	S = 1/200	36
第22図	第3層土器集中部①平面・断面図①	S = 1/10	38
第23図	第3層土器集中部①平面・断面図②	S = 1/10	39
第24図	第3層土器集中部②平面・断面図	S = 1/10	40
第25図	第3層出土遺物実測図①	S = 1/2	43
第26図	第3層出土遺物実測図②	S = 1/2	44
第27図	第3層出土遺物実測図③	S = 1/2	46
第28図	第3層出土遺物実測図④	S = 1/2	47
第29図	第3層出土遺物実測図⑤	S = 1/2	48
第30図	第3層出土遺物実測図⑥	S = 1/2	49
第31図	第3層出土遺物実測図⑦	S = 1/2	53
第32図	第3層出土遺物実測図⑧	S = 1/2	54
第33図	第3層出土遺物実測図⑨	S = 1/2 · 1/1	55
第34図	第3層上部出土遺物分布図	S = 1/200	58
第35図	第3層上部出土遺物実測図①	S = 1/2	59
第36図	第3層上部出土遺物実測図②	S = 1/2	60
第37図	第3層下部出土遺物分布図	S = 1/200	62
第38図	第3層下部造構埋土出土遺物実測図	S = 1/2	63
第39図	第3層下部出土遺物実測図①	S = 1/2	65
第40図	第3層下部出土遺物実測図②	S = 1/2	66
第41図	第3層下部出土遺物実測図③	S = 1/2	67
第42図	第3層下部出土遺物実測図④	S = 1/2	68
第43図	第3層下部出土遺物実測図⑤	S = 1/2	70
第44図	第3層下部出土遺物実測図⑥	S = 1/2	71
第45図	第3層下部出土遺物実測図⑦	S = 1/2	72
第46図	第3層下部出土遺物実測図⑧	S = 1/2	73
第47図	第3層下部出土遺物実測図⑨	S = 1/2	74
第48図	第4層出土遺物分布図	S = 1/200	78
第49図	第4層出土遺物実測図①	S = 1/2	80
第50図	第4層出土遺物実測図②	S = 1/2	81
第51図	第4層出土遺物実測図③	S = 1/2	82
第52図	第4層出土遺物実測図④	S = 1/2	84
第53図	第4層出土遺物実測図⑤	S = 1/2	85
第54図	第4層出土遺物実測図⑥	S = 1/2	86
第55図	第4層出土遺物実測図⑦	S = 1/3	87
第56図	表探・一般遺物実測図	S = 1/2	91

別図 別図1 近世・近代遺構配置図(S=1/100)

別図2 弥生時代遺構配置図・第3層出土遺物分布図(S=1/100)

別図3 第4層出土遺物分布図(S=1/100)

表目次 Tables

第1表	中尾迫遺跡周辺の遺跡一覧表	6
第2表	土坑法量表	18
第3表	ピット法量表	21
第4表	ピット法量表	34
第5表	土器集中部①・②出土遺物一覧表	41
第6表	第3層出土遺物観察表①	50
第7表	第3層出土遺物観察表②	51
第8表	第3層出土遺物観察表③	56
第9表	第3層上部出土遺物観察表	57
第10表	第3層下部遺構埋土出土遺物観察表	61
第11表	第3層下部出土遺物観察表①	75
第12表	第3層下部出土遺物観察表②	76
第13表	第3層下部出土遺物観察表③	76
第14表	第4層出土遺物観察表①	88
第15表	第4層出土遺物観察表②	89
第16表	第4層出土遺物観察表③	89
第17表	表採遺物観察表	90
第18表	一般遺物観察表	90
第19表	出土遺物台帳①	92
第20表	出土遺物台帳②	93
第21表	出土遺物台帳③	94
第22表	出土遺物台帳④	95
第23表	出土遺物台帳⑤	96
第24表	出土遺物台帳⑥	97
第25表	出土遺物台帳⑦	98
第26表	出土遺物台帳⑧	99
第27表	出土遺物台帳⑨	100
第28表	出土遺物台帳⑩	101
第29表	出土遺物台帳⑪	102
第30表	出土遺物台帳⑫	103
第31表	出土遺物台帳⑬	104
第32表	出土遺物台帳⑭	105
第33表	出土遺物台帳⑮	106
第34表	出土遺物台帳⑯	107
第35表	出土遺物台帳⑰	108

写真目次 Plates

写真1	土器焼成坑内出土遺物写真(表面)	27	写真60	表探・一般遺物写真(内面・裏面)	91
写真2	土器焼成坑内出土遺物写真(裏面)	27	写真61	中尾追跡空撮写真①	109
写真3	第3層出土遺物写真①(外面)	43	写真62	中尾追跡空撮写真②	109
写真4	第3層出土遺物写真①(内面)	43	写真63	発掘調査状況写真	110
写真5	第3層出土遺物写真②(外面)	44	写真64	西壁地層断面(SP5-SP6)①写真	110
写真6	第3層出土遺物写真②(内面)	44	写真65	西壁地層断面(SP5-SP6)②写真	110
写真7	第3層出土遺物写真③(外面)	46	写真66	北壁地層断面(SP7-SP8)写真	110
写真8	第3層出土遺物写真③(内面)	46	写真67	第3層土器集中部①-バット南壁断面写真	110
写真9	第3層出土遺物写真④(外面)	47	写真68	調査区西侧地層堆積状況写真	110
写真10	第3層出土遺物写真④(内面)	47	写真69	南区土坑67-68-69完掘状況写真	111
写真11	第3層出土遺物写真⑤(外面)	48	写真70	土坑49-63検出状況写真	111
写真12	第3層出土遺物写真⑤(内面)	48	写真71	土坑45-46検出状況写真	111
写真13	第3層出土遺物写真⑥(外面)	49	写真72	土坑3・4・5・7・8・9検出状況写真	111
写真14	第3層出土遺物写真⑥(内面)	49	写真73	土坑3・4・5・7・8・9完掘状況写真	111
写真15	第3層出土遺物写真⑦(表面)	53	写真74	土坑1完掘状況写真	111
写真16	第3層出土遺物写真⑦(裏面)	53	写真75	第3層土器集中部①検出状況写真①	112
写真17	第3層出土遺物写真⑧(表面)	54	写真76	第3層上器集中部①検出状況写真②	112
写真18	第3層出土遺物写真⑧(裏面)	54	写真77	第3層土器集中部①検出状況写真③	112
写真19	第3層出土遺物写真⑨(表面)	55	写真78	第3層上器集中部②検出状況写真	112
写真20	第3層出土遺物写真⑨(裏面)	55	写真79	第3層遺物出土状況写真	112
写真21	第3層上部出土遺物写真①(外面)	59	写真80	第3層遺物(No.210)出土状況写真	112
写真22	第3層上部出土遺物写真①(内面)	59	写真81	第4層遺物(No.322)出土状況写真	113
写真23	第3層上部出土遺物写真②(外面)	60	写真82	弥生時代ビット42-43断面検出写真	113
写真24	第3層上部出土遺物写真②(内面)	60	写真83	弥生時代ビット25断面検出写真	113
写真25	第3層下部構造埋土出土遺物写真(外面)	63	写真84	弥生時代ビット23-24完掘状況写真	113
写真26	第3層下部構造埋土出土遺物写真(内面)	63	写真85	弥生時代土坑完掘状況写真①	113
写真27	第3層下部出土遺物写真①(外面)	65	写真86	弥生時代土坑完掘状況写真②	113
写真28	第3層下部出土遺物写真①(内面)	65	写真87	弥生時代土器焼成坑完掘状況写真①	114
写真29	第3層下部出土遺物写真②(外面)	66	写真88	弥生時代土器焼成坑完掘状況写真②	114
写真30	第3層下部出土遺物写真②(内面)	66	写真89	弥生時代土器焼成坑完掘状況写真③	114
写真31	第3層下部出土遺物写真③(外面)	67	写真90	弥生時代土器焼成坑先行レンチ断面写真①	114
写真32	第3層下部出土遺物写真③(内面)	67	写真91	弥生時代土器焼成坑先行レンチ断面写真②	114
写真33	第3層下部出土遺物写真④(外面)	68	写真92	弥生時代土器焼成坑内写真	114
写真34	第3層下部出土遺物写真④(内面)	68	写真93	遺構保存処置作業状況写真①	118
写真35	第3層下部出土遺物写真⑤(外面)	70	写真94	遺構保存処置作業状況写真②	118
写真36	第3層下部出土遺物写真⑤(内面・断面)	70	写真95	遺構保存処置作業状況写真③	118
写真37	第3層下部出土遺物写真⑥(外面)	71	写真96	遺構保存処置作業状況写真④	118
写真38	第3層下部出土遺物写真⑥(外面)	71	写真97	遺構保存処置作業状況写真⑤	118
写真39	第3層下部出土遺物写真⑦(表面)	72	写真98	遺構保存処置作業状況写真⑥	118
写真40	第3層下部出土遺物写真⑦(側面・裏面)	72	写真99	遺構保存処置作業状況写真⑦	119
写真41	第3層下部出土遺物写真⑧(表面)	73	写真100	遺構保存処置作業状況写真⑧	119
写真42	第3層下部出土遺物写真⑧(裏面)	73	写真101	遺構保存処置作業状況写真⑨	119
写真43	第3層下部出土遺物写真⑨(表面)	74	写真102	遺構保存処置作業状況写真⑩	119
写真44	第3層下部出土遺物写真⑨(裏面)	74	写真103	遺構保存処置状況写真①	119
写真45	第4層出土遺物写真①(外面)	80	写真104	遺構保存処置状況写真②	119
写真46	第4層出土遺物写真①(内面)	80	写真105	蛍光X線分析資料	129
写真47	第4層出土遺物写真②(外面)	81	写真106	分析資料SP1	129
写真48	第4層出土遺物写真②(内面)	81	写真107	分析資料SP2	129
写真49	第4層出土遺物写真③(外面)	82	写真108	分析資料SP3	129
写真50	第4層出土遺物写真③(内面・底面)	82	写真109	分析資料SP4	129
写真51	第4層出土遺物写真④(外面)	84	写真110	分析資料SP5	129
写真52	第4層出土遺物写真④(内面)	84	写真111	分析資料SP6	130
写真53	第4層出土遺物写真⑤(外面)	85	写真112	分析資料SP7	130
写真54	第4層出土遺物写真⑤(内面)	85	写真113	分析資料SP8	130
写真55	第4層出土遺物写真⑥(表面)	86	写真114	分析資料SP9	130
写真56	第4層出土遺物写真⑥(裏面)	86	写真115	分析資料SP10	130
写真57	第4層出土遺物写真⑦(表面)	87	写真116	分析資料SP11	130
写真58	第4層出土遺物写真⑦(裏面)	87	写真117	年代測定分析資料No.3	132
写真59	表探・一般遺物写真(外面・表面)	91			

第



編

發掘調査報告編

Volume of Investigation Report



第一編 発掘調査報告書編

第1章 中尾迫遺跡の環境

第1節 中尾迫遺跡の立地(第1・2図)

中尾迫遺跡は、指宿市西方字中尾迫などに所在する。

中尾迫遺跡は、平成5年度のサンオーシャン・リゾート開発に伴い鹿児島県文化財課による分布調査によつて初めて周知化された。

中尾迫遺跡は、池田カルデラの北東側外輪山の一部を形成している清見岳から北側へ延びる複数の尾根の頂上部および北方方向の斜面地上の立地している。第2図の地形図では、清見岳からの北側へ伸びる尾根頂上部とその傾斜方向に赤色の矢印ラインを引いてある。

第2図から中尾迫遺跡の立地している地形を読み解くと次のようになる。標高317.6mの山頂から北側へ伸びる山裾があり、その山裾のひとつから北東方向へ延びる数本の尾根が認められる。その内の尾根には、後期旧石器時代の豊穴建物跡や道路、杭跡が発見された水道遺跡がある標高126m前後の北東方向へ延びる尾根もある。

中尾迫遺跡は、標高149.12mの尾根北端を起点とする北東方向へ延びる尾根上に立地していることが分かる。その尾根は、約700mの直線距離で標高140mから70mへと下り、遺跡はその標高100m前後の尾根頂上部と北東傾斜面上に位置している。

中尾迫遺跡がある尾根の北東方向には、隣接する尾根とを境とする谷が形成されている。北西方向は、ゆるやかに尾根裾が延びていき、その北側は湊川により侵食されている。

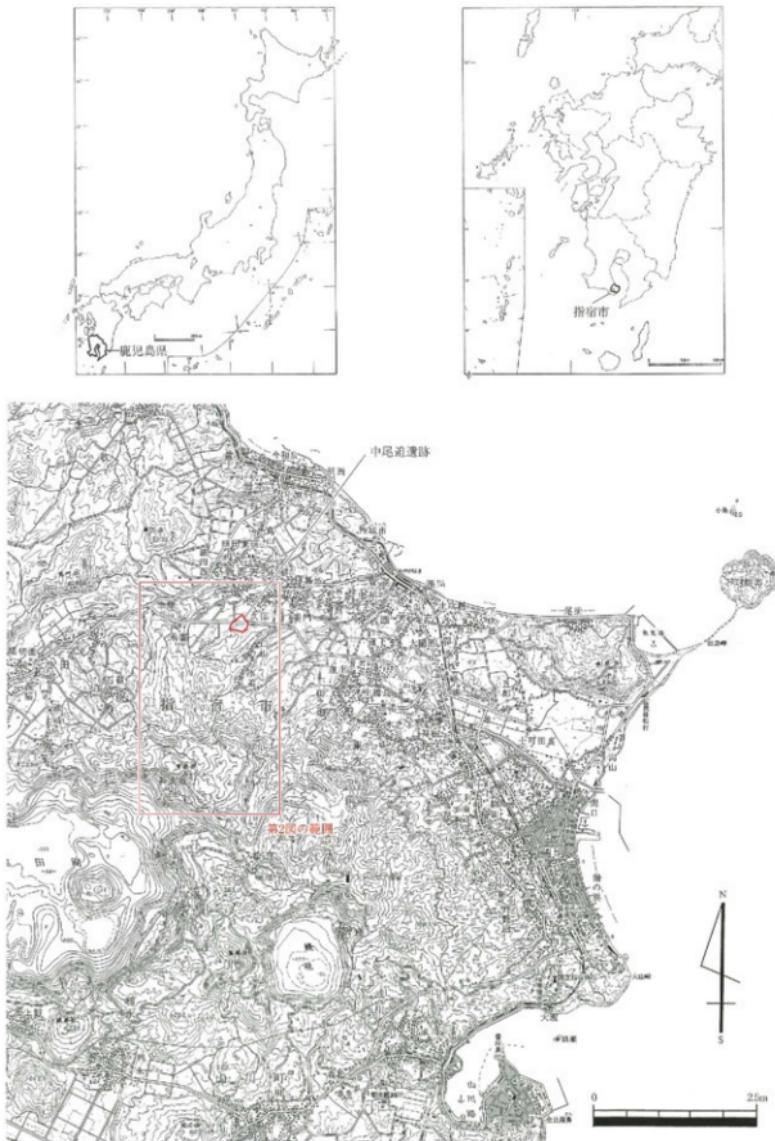
発掘調査実施時点での土地利用と環境は、写真61からも概観できるとおり、中尾迫遺跡の発掘調査地点は戦後の杉の植林地として利用されている。

また、その北側では畑地帯整備事業により地形を大きく変え、広い畑地が段々状に整備されている。畑地帯整備事業では、高い地点を削って低い地点へ土砂を運び入れることで平坦な畑を形成していくながら整備しているため、中尾迫遺跡周辺の畑地内では、近世・近代の陶磁器類や弥生土器を表面採集することができる。このことから、中尾迫遺跡での遺物包含層の面的な広がりは、発掘調査地点のみではなく、現在畑地としてあるいは杉の植林地として利用されている範囲まで広がっていたことが考えられる。

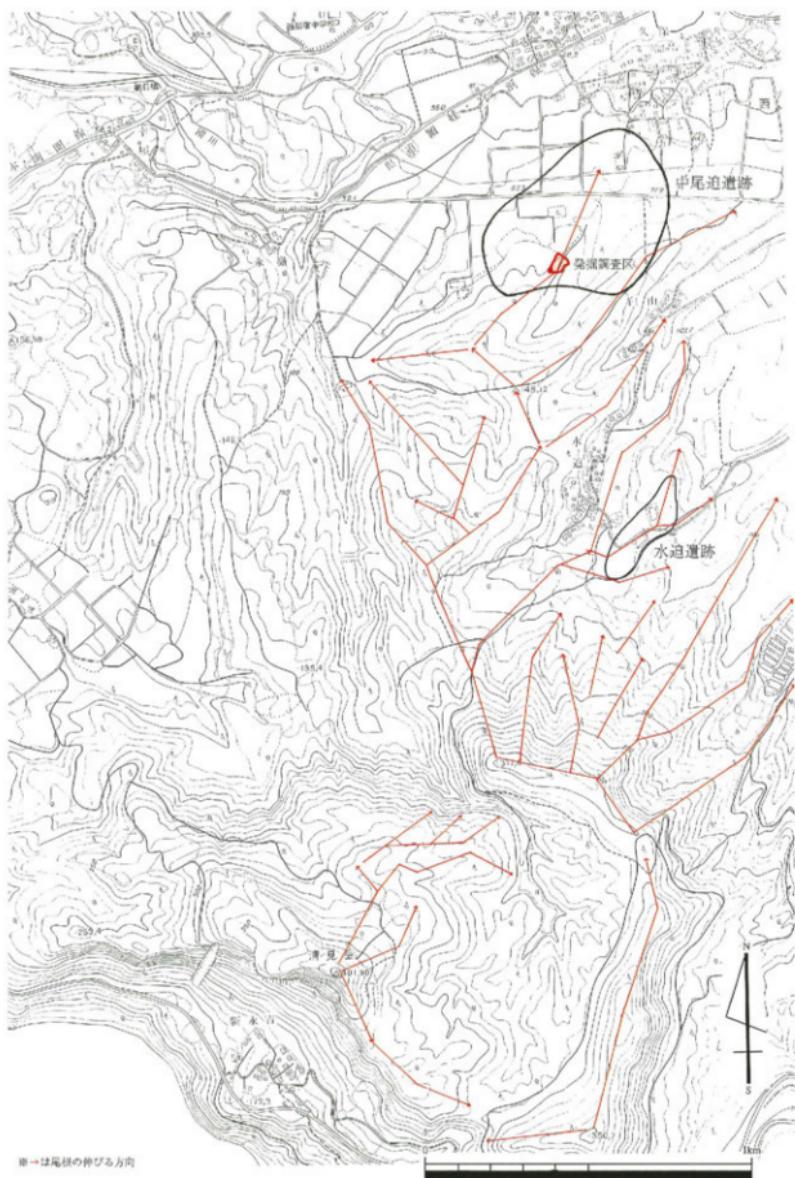
発掘調査区の東側の谷部にも杉が植林されている部分もあるが、一部には照葉樹林が垣間見える。この谷には降雨時には、両側の尾根からの雨水が流下して一時的な小河川となり、より谷を侵食している。

なお、発掘調査地点の土地利用経緯について地区住民からの情報によると、戦前・戦時中は畑地として利用されていたとのことで、それ以前に尾根の斜面地を畑地として整えていたと考えられる。戦後は、杉の植林が行われており、確認調査・発掘調査を実施する直前まで杉林地として利用されていた。

中尾迫遺跡が立地している尾根上には、軽乗用車が往来できるほどの幅がある林道が南側へ続いている。最近までは杉の手入れや狩猟等で利用されていたようである。



第1図 中尾追遺跡の位置図 (S = 1/75,000)



第2図 中尾追遺跡の地形図 (S = 1/15,000)

第2節 周辺の遺跡と中尾迫遺跡

中尾迫遺跡は、指宿市西方字中尾迫に所在する。今回の発掘調査では、近世・近代と弥生時代前期・中期・後期の遺物包含層が確認された。

中尾迫遺跡の周辺で、弥生時代の遺跡として周知化されている遺跡を列記していく。

水迫遺跡は、中尾迫遺跡と同様で広域営農団地農道整備事業に伴い周知化され発掘調査された。水迫遺跡では、開閉岳の火山性噴出物である暗紫コラの第1h層の下層で一枚間層を挟み第1g層中から弥生時代中期の遺物が出土している。弥生時代の遺物包含層を確認した調査区・トレンチは、第II調査区、第2・6・7・11・12・13・14トレンチで確認されている。主な遺物は、入来II式土器を主体とし、山之口式土器や輕石製加工品、磨製石鎌、炭化物が出土している。また、遺構は、第1g層を埋土とするピット（主柱痕があるものもある）が多数検出されているが、建物等のプランを形成するまでなかった。

水迫遺跡の弥生時代中期の遺物包含層は、標高120mから130mの尾根状地形に広がっており、平成11年から平成14年までの発掘調査では、その尾根の北側あるいは西北側への傾斜面の遺物包含層を確認した。その傾斜堆積層中に多くの土器が含まれていた。尾根頂上部あるいは平坦地での調査はさておらず、水迫遺跡で弥生時代中期の生活の中心部分と想定される範囲は未調査である。

水迫遺跡は標高120mから130m上にあり、比較的標高の高い所にある弥生時代の生活跡であり、生活基盤も含め注目されていく遺跡である。

敷領遺跡では、平成8年度に発掘調査され、弥生時代中期のベット状遺構を伴う竪穴式住居が検出されている。また、第9層中からは成川式土器と共に中津野式土器や山之口式土器が出土している。敷領遺跡は、標高4m前後の火山性扇状地上にある。

南迫田遺跡では、平成7・9年度の発掘調査により暗紫コラの下層で、一枚間層を挟み第11層から弥生時代中期の遺物包含層が確認されている。遺物は、山之口式土器が主体を占めている。遺構は、ピット、土坑が検出されている。南迫田遺跡は、標高22m前後の火山性扇状地の山裾側に位置している。

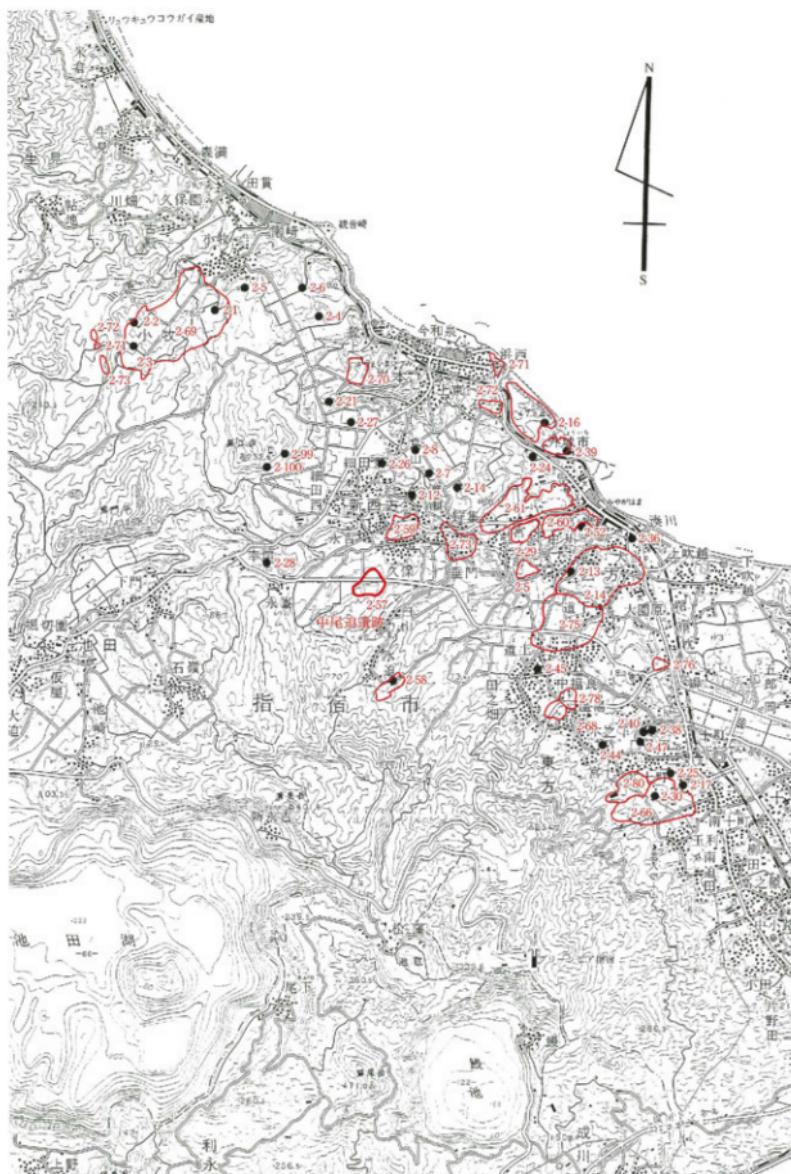
尾長谷迫遺跡の外桜現地区での第7・10・15・16トレンチのIV層中から、弥生時代中期の遺物が出土している。報告書掲載遺物では入来II式土器が散見できる。標高40m前後のシラス台地上で、遺跡の東側では海岸線から真下に望むことができる。

横瀬遺跡では、昭和56年度に3地点に区画されて発掘調査が行われ、弥生時代前期末から弥生時代後期の遺物包含層が確認されている。第1地点IIf層からは入来II式土器が出土している。第2地点では、弥生時代中期・後期の遺物包含層が確認されている。第3地点では、弥生時代中期から後期後半期に属する竪穴住居が検出されている。

県営畠地総合土地改良時事業烏山地区の西原迫遺跡と早馬迫遺跡でも弥生時代前期と中期の遺物包含層が確認されている。4m四方の限られた確認調査トレンチのため、遺構確認までは至っていないものの広い範囲に広がっていることが予想される。立地的には尾長谷迫遺跡の西側で標高46~70mの丘陵部である。

・参考文献

- 下山 覚 中摩浩太郎 渡部徹也 鐘田洋昭 「水迫遺跡II」指宿市埋蔵文化財発掘調査報告書(35) 指宿市教育委員会 2002年
中摩浩太郎 渡部徹也 鐘田洋昭 「水迫遺跡III」指宿市埋蔵文化財発掘調査報告書(36) 指宿市教育委員会 2004年
渡部徹也 下山 覚 中摩浩太郎 鐘田洋昭 「敷領遺跡」指宿市埋蔵文化財発掘調査報告書(25) 指宿市教育委員会 1997年
下山 覚 鐘田洋昭 「南迫田遺跡」指宿市埋蔵文化財発掘調査報告書(15) 指宿市教育委員会 1994年
下山 覚 鐘田洋昭 中摩浩太郎 渡部徹也 「南迫田遺跡II」指宿市埋蔵文化財発掘調査報告書(28) 指宿市教育委員会 1998年
吉永正史 弥栄久志 「横瀬遺跡」指宿市埋蔵文化財発掘調査報告書(6) 指宿市教育委員会 1982年
猪昌正幸 中村新治 「尾長谷迫遺跡」指宿市埋蔵文化財発掘調査報告書(7) 指宿市教育委員会 1986年
弥栄久志 中島哲郎 井ノ上秀文 「烏山調査区」指宿市埋蔵文化財発掘調査報告書(4) 指宿市教育委員会 1980年
指宿市考古博物館 時遊館C O C C O はしれ 第8回企画展示図録 「指宿歴史物語 発掘調査編 二十一世紀の指宿の発掘調査史を振り返る」 指宿市教育委員会 2002年



第3図 中尾追跡跡周辺の遺跡 (S = 1/50,000)

遺跡番号	遺跡名	所在地	地形	時代	調査現状
2-1	露重	小牧字露重	台地	旧石器	昭和53年度
2-2	尾越・楓原	小牧字尾越・楓原	台地	旧石器	昭和53年度
2-3	中尾	小牧字中尾	台地	旧石器	昭和53年度
2-4	小牧Ⅲ A	岩本	台地	旧石器・绳文	昭和53年度
2-5	小久保	小牧字小久保	台地	旧石器・绳文	昭和53年度
2-6	岩本	小牧	台地	旧石器・绳文	昭和53年度
2-7	西原遺跡	新西方西原遺跡	台地	绳文・弥生	昭和54年度
2-8	西原遺跡	新西方西原遺跡	台地	绳文・弥生	昭和54年度
2-12	荒瀬	新西方荒瀬	台地	绳文	日本考古学会5
2-13	中川	西方中川	台地	绳文・弥生	
2-14	早馬道	新西方早馬道	台地	绳文・弥生	昭和54年度
2-16	尾長谷追	西方尾長谷追	海岸段丘	古墳・古代・中世	昭和60年度
2-17	指宿高松塚	十町	高地	弥生	
2-21	鳥山	新西方鳥山	台地	古墳・古代・中世	市辺
2-24	外城町	西方外城町	海岸段丘	弥生	
2-25	久玉神社	十町	高地	弥生	古跡
2-26	舟木	新西方舟木	台地	古代・中世	
2-27	穂庭東後	新西方穂庭東後	台地	古代・中世	
2-28	赤壁	新西方赤壁	台地	古墳・古代・中世	サンオーシャンゾート分布調査
2-29	宮之廣	西方宮之前	台地	弥生・古墳・古代	昭和63年度
2-30	尾根寺跡	十町前田	台地	中世	古跡
2-36	渋川橋	西方宮ヶ渋	河川	近世	市指定文化財
2-38	段隈湯跡	西方	微高地	近世	市指定文化財
2-39	松坂城	西方	海岸段丘	中世	
2-40	湯椎窪	西方	台地	近世	市指定文化財
2-44	島津源井傳	東方	微高地	近世	市指定文化財
2-45	上西原	東方	微高地	民俗文化財	市指定文化財
2-47	御宿神社田の神	東方	微高地	民俗文化財	市指定文化財
2-52	長野花跡	西方宮之前	新田	中世	市指定文化財
2-57	中尾遺跡	西方字中尾遺	丘陵	弥生・中世・近世	平成9年度発掘調査
2-58	水道	西方字水道	丘陵	旧石器時代・绳文	平成11・12・13・14年度
2-59	久保	西方字久保	台地	绳文・古墳	サンオーシャンゾート分布調査
2-60	弓場	西方宮之弓場	台地	古墳・古代・中世	サンオーシャンゾート分布調査
2-61	佐真原	西方佐真原	台地	古墳・古代・中世	サンオーシャンゾート分布調査
2-66	上玉利Ⅱ	東方玉利上玉利	丘陵	弥生・古墳・古代・中世	サンオーシャンゾート分布調査
2-68	中島ノ下	中島島中島ノ下	高地	古墳・近世	市指定文化財
2-69	小牧	小牧字西出迫塚	台地	旧石器・绳文・古墳・中世	昭和50年度
2-70	岩本Ⅰ	岩本巖上門之口西平	台地	绳文・古墳	昭和52年度
2-71	多栗ヶ追	小牧字多栗ヶ追	谷地	中世	平成13年度
2-71	景色ヶ鼻	岩本景色ヶ鼻	台地	古墳・古代	
2-72	十石	西方十石原跡	台地	古墳	
2-72	西多羅ヶ遺跡	小牧字西多羅ヶ遺	丘陵	旧石器・绳文・中世	平成14・15年度
2-73	土糞塗	小牧字土糞塗	丘陵	绳文時代	平成11年度分布・確認調査
2-73	前堀	西方字前堀	台地	古墳	
2-74	大掘原	西方大當大掘原	台地	绳文	
2-75	追下	西方追下	台地	古墳	
2-76	田口田	西方二月田口田	微高地		
2-78	野間	西方追下野間	台地		平成2年度
2-80	松ヶ追	西方松ヶ追	微高地	弥生・古墳	
2-99	宮尻平	新西方宮尻平	台地	古墳・古代・中世	
2-100	六江山裏	岩本六江山裏	台地	弥生・古墳	

第1表 中尾追跡周辺の遺跡一覧表

第2章 発掘調査の経緯と組織

第1節 発掘調査の経緯

中尾追遺跡は、平成5年度に鹿児島県文化財課が実施したサン・オーシャンリゾート開発に伴う分布調査によって、弥生時代の土器片が表面採集されたことで初めて周知化された遺跡である。中尾追遺跡と同時に周知化された遺跡は、後期旧石器時代の堅穴建物跡や道路が発見された水迫遺跡も挙げられる。

平成9年度に指宿市教育委員会が鹿児島耕地事務所と委託契約を締結し、広域営農団地南薩東部地区農道整備事業に伴う遺物包含層の有無を目的とした確認調査を実施した。確認調査の結果、中尾追遺跡内で弥生時代中期の遺物包含層が確認された。

その調査成果を踏まえ、鹿児島耕地事務所、鹿児島県文化財課、指宿市耕地課、指宿市教育委員会との四者協議が行われた。協議の結果、指宿市教育委員会が平成9年度に中尾追遺跡内で広域農道予定路範囲を発掘調査することとなった。

なお、この協議の際に、概ね今後の耕地事業に伴う確認・発掘調査と報告書作成業務の年次実施計画案が作成された。

他事業との関連も含め、近年の耕地事業に伴う埋蔵文化財関連事業は下記のような計画で実施してきた。

平成5年度：サン・オーシャンリゾート開発に伴う分布調査

平成8年度：広域営農団地農道整備事業地内の確認調査

平成9年度：中尾追遺跡発掘調査

平成11年度：水迫遺跡発掘調査・小牧地区確認調査

平成12年度：水迫遺跡発掘調査

平成13年度：多羅ヶ迫遺跡発掘調査

平成14年度：西多羅ヶ迫遺跡発掘調査

平成15年度：水迫遺跡発掘調査・西多羅ヶ迫遺跡発掘調査

平成16年度：中尾追遺跡報告書作成

第2節 発掘調査・報告書作成組織

中尾迫遺跡の発掘調査（平成9年度）と報告書作成（平成16年度）の組織は下記のとおりである。

発掘調査の組織（平成9年度）

発掘調査主体	指宿市教育委員会	教 育 長	山下 卓雄
発掘調査責任者	指宿市教育委員会	教 育 課 長	小牟礼隆應
発掘調査担当者	指宿市教育委員会	総 務 課 長	室屋 昭男
		社会 教育 課 長	尾辻 隆
		社会 教育 係 長	原口 洋
		派遣社会教育主事	宮原 智子
		社会教育係主査	川畠 忠晴
		同 上	下玉利 泉
		文化 係 長	小村 重志
		文化 係 主 査	大道 裕子
		文化 係 主 事	下山 覚
発掘調査担当		同 上	中摩浩太郎
		同 上	渡部 徹也
		同 上	鎌田 洋昭

報告書作成の組織（平成16年度）

報告書作成主体	指宿市教育委員会	教 育 長	林 賢一郎
報告書作成責任者	指宿市教育委員会	教 育 次 長	堀口健一郎
報告書作成担当者	指宿市教育委員会	社会 教育 課 長	久保憲一郎
		社会 教育 係 長	臼山 尚人
		派遣社会教育主事	井上 智司
		社会教育係主査	福永 清子
		社会教育係主事	嶺元 和仁
		文化 係 長	枝田 富雄
		文化 係 主 査	東中川瞳子
		文化 係 主 事	吹留 義輝
報告書作成担当		文化 係 主 査（学芸員）	中摩浩太郎
		同 上（学芸員）	渡部 徹也
		文化 係 主 事（学芸員）	鎌田 洋昭

第3章 発掘調査

第1節 発掘調査区の設定（第4・5図）

中尾追遺跡は、平成9年度に指宿市教育委員会が鹿児島耕地事務所と委託契約を締結し、広域営農団地南薩東部地区農道整備事業に伴い発掘調査を実施した。発掘調査区は、平成5年度の分布調査結果と平成8年度の確認調査結果に基づき、広域農道予定路内に第4図の範囲で設定した。

調査対象範囲は第5図の黒色ラインで示している範囲で約1,040m²の面積である。その範囲内で、赤色で示している範囲が実質的な発掘調査実施範囲であり、約660m²である。

発掘調査範囲は、元々戦前・戦時中は段々畑であり戦後には杉林が植林されていた。杉林の伐採の関係上、発掘調査はまず南区とした範囲で実施した。その後、杉林の伐採が全面的に終了したため、発掘調査区の中心部である北区で発掘調査が実施された。

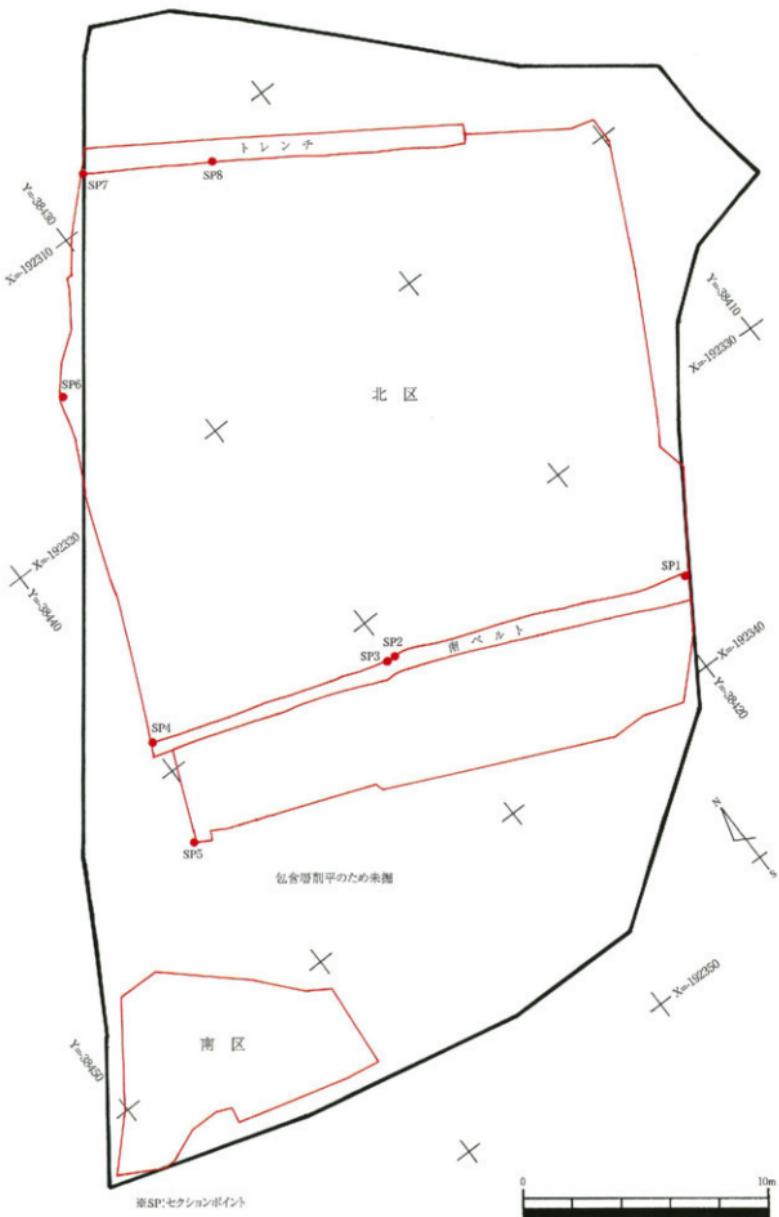
また、廃土置き場確保の関係で、南区の発掘調査を先行した。さらに、南区の東側部分にトレンチを設定して地層の堆積状況と近年の耕作に伴う搅乱から、遺物包含層の削平・欠落範囲が想定された。その範囲は未掘範囲として図示している。

北区では、近世・近代の遺構、弥生時代中期・後期の遺物包含層を確認した。

南区では、近世・近代の遺構と弥生時代中期の遺物包含層を確認した。



第4図 中尾追遺跡調査区の位置図 (S = 1/1,000)

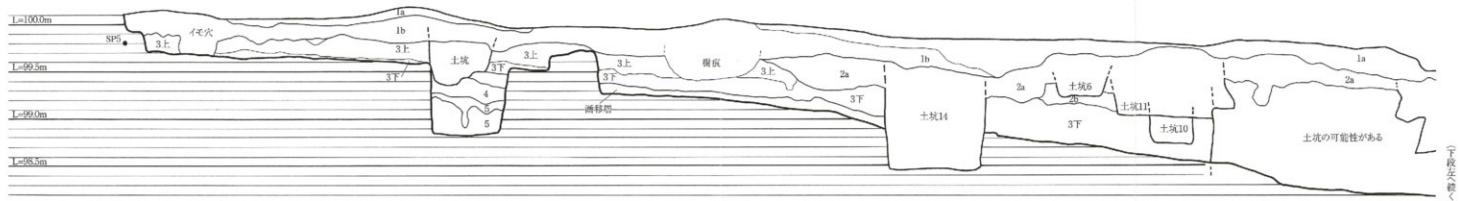




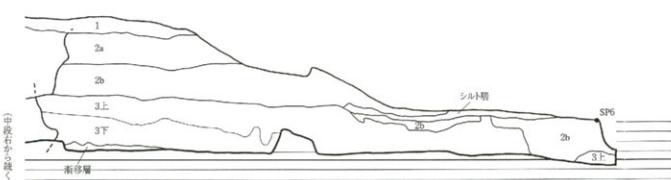
南壁地盤断面①(SP1—SP2)



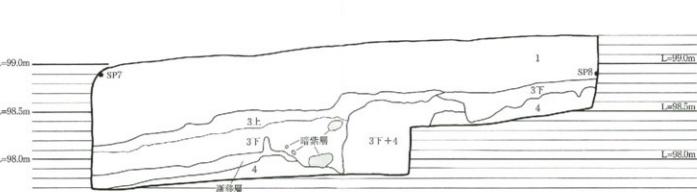
南壁地盤断面②(SP3—SP4)



西壁地盤断面③—1 (SP5—SP6)



西壁地盤断面③—2 (SP5—SP6)



北壁地盤断面 (SP7—SP8)

第6図 中尾池遺跡地層断面実測図 (S=1/40)

第2節 基本層序

(1) 火山性噴出物堆積の概要

中尾迫遺跡が所在する指宿市は、有史前後の火山噴出物が幾重にも堆積している地域である。

まず、指宿市域の基整層の一部を形成している清見岳火山性噴出物（約50,000年前）や宿利原火山性噴出物（約30,000～40,000年前）が堆積している。

その上位層には、広域火山噴出物として著名な姶良カルデラ火山性噴出物（約24,000年前）が認められる。標高100m前後より高い地域には大隅降下軽石が主体を占め、それより低い地域では入戸火碎流（シラス）が厚く堆積している。

さらに、その上位には、サツマ火山灰（約11,400年前）、喜界カルデラ火山性噴出物（約6,400年前）、池田カルデラ火山性噴出物（約5,500年前）、開聞岳火山性噴出物（縄文時代後期、弥生時代中期、古墳時代、平安時代）が堆積している。

(2) 中尾迫遺跡基本層序（第6・7図）

中尾迫遺跡の発掘調査で確認された地層は下記のとおりである。なお、発掘調査での最終掘削面は第6層の池田カルデラ火山性噴出物のシラスあるいはその二次堆積層であったが、完掘時に重機を用いてその下位層を確認した。

中尾迫遺跡は尾根上に立地しているため、尾根頂上部では、地層堆積が薄く層数も少ない。それに対して、谷部への傾斜堆積地域では層数が多く、それぞれの堆積が厚い傾向がある。

第1層：表土層である。地点によっては耕作土層（第1a層）と搅乱層（第1b層）とに分類でき、耕作土層が搅乱層より上位に堆積している。

第2層：第1層と弥生時代遺物包含層の第3層との間層である。当初、1層として判断したが、谷部への傾斜堆積地域での確認によって次のように2層に分層ができた。

第2a層：近世・近代の遺物包含層であり、ピットや土坑、溝状遺構などの掘削開始層でありそれら遺構の埋土の主体を占める。

第2b層：中世黒色帶に該当する地層である。

第3層：弥生時代中期・後期の遺物包含層である。尾根上の堆積が薄い地域では細分できなかったが、谷部への傾斜堆積地域では開聞岳火山性噴出物の「暗紫コラ」を含む第3層上部とその下位の第3層下部とに細分した。

第3層上部：弥生時代後期の遺物包含層である。中津野式土器を主体に包含している。

第3層下部：弥生時代中期の遺物包含層である。山之口式土器と入来Ⅱ式土器を主体に包含している。

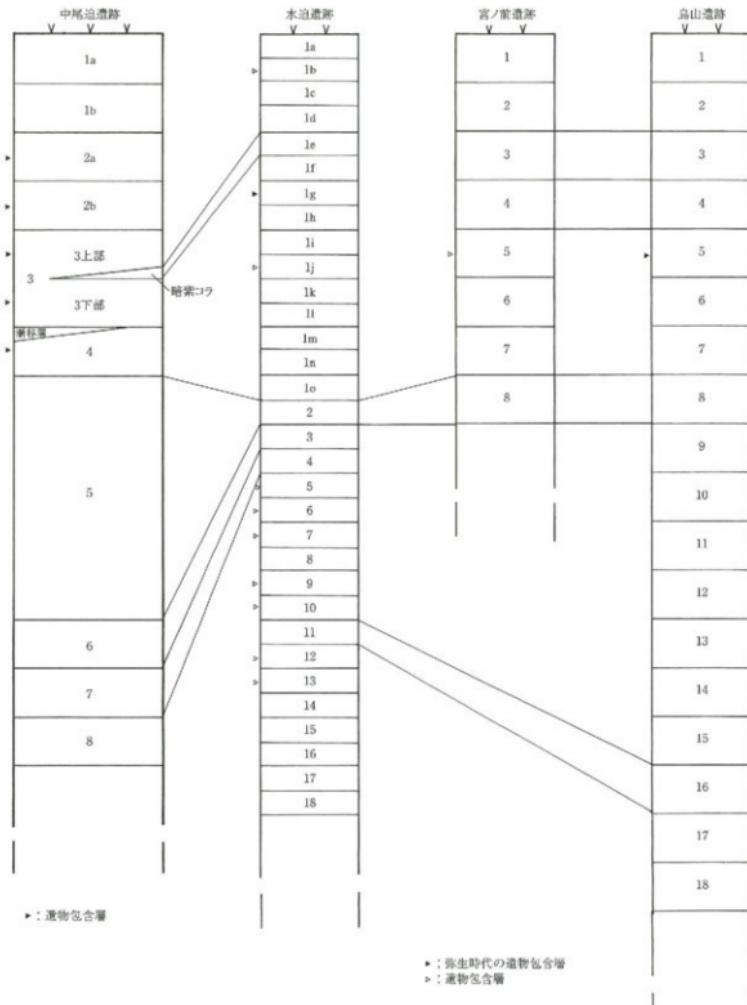
第4層：弥生時代前期・中期の遺物包含層である。入来Ⅱ式土器と高橋式土器を包含している。第3層との間には漸移層が谷部への傾斜堆積地域で認められる。第3層帰属の遺構の検出面である。

第5層：池田カルデラ火山性噴出物堆積層である。火碎流堆積物とその二次堆積が厚く堆積しており、その下位には降下軽石と池崎火山灰が堆積している。尾根上部では第1層・第2層の直下層が第5層である部分もあり、近世・近代の遺構検出面である。

第6層：第5層と第6層との間層であり、黒色を呈している。無遺物包含層である。

第7層：喜界カルデラ火山性噴出物堆積層である。火碎流層、軽石層、火山灰層が堆積している。

第8層：縄文時代早期～前期に帰属する地層である。



第7図 基本層序と各遺跡との対比図

第3節 近世・近代の調査

(1) 発掘調査

中尾追遺跡の近世・近代の発掘調査は、まず南区部分を先行して行った。

南区では、杉の樹根を抜根後、第1層の表土・耕作土層を除去したところ、第5層の池田カルデラ火山性噴出物のシラス二次堆積が確認された。その第5層上面で第2a層を埋土とする遺構を検出した。

北区での近世・近代の遺構検出面は、北東側が第3層あるいは第5層上面で、西北側が第3層上面である。出土遺物は、第2層から若干の陶磁器類と土器片が出土している。

(2) 遺構（第8～11図・別図1）

中尾追遺跡において近世・近代に帰属する遺構としては、土坑、ピット、溝状遺構を検出した。（第8図・別図1）

①土坑（第8・9・10図）

土坑は、ほぼ調査区全体で検出された。また、その土坑の形態から2種類に分類が可能である。ひとつは、北区の西北側で主に検出されている平面形態が楕円形あるいは長楕円形を呈しており、便宜上、土坑Aと仮称する。もうひとつは、北側北東側や中央部、南区で検出されている平面形態がほぼ円形を呈しているもので、土坑Bと仮称する。

土坑Aは、特に北区西北側で集中している傾向がある。第9・10図はその範囲で検出された土坑の平面図と断面図であり、ここでは、土坑1～27までの土坑を示している。土坑の主軸がほぼ2方向あることが看取できる。ひとつは、土坑の主軸が北東一南西のものと、西北一東南のものである。その2方向の土坑の主軸方向はほぼ直角で交差するようである。この2方向は、地形に起因するものと想定できる。土坑Aは、切り合いが顕著に認められる。特に、西北側端部での長楕円形を呈する土坑Aは、ほぼ主軸の位置も重なり土坑3・4・5、土坑5・10・11が切り合っている。なお、土坑1も平面形態ではひとつの土坑であるが二段落ちをしていることから、2つの土坑Aの切り合いの可能性もある。土坑Aの切り合いから鑑みると、主軸西北一東南の土坑Aが、主軸北東一南西の土坑Aを切っているケースが多い。土坑Aの長軸方向の差は、時期差による可能性が高いと思われる。

土坑Aは、第10図の断面図を見ると、検出面から底面までの深さは、最深のものは約70cm以上を測り、浅いものは5cm未満のものもある。

土坑Bは、ほぼ円形を呈しており、北区中央部と北東側、南区で検出されている。特に、北区の北東側端部と南区の北東側では、土坑Bがほぼ一直線上で切り合っている。

具体的に挙げると、北区の北東側端部では、土坑49から土坑63までが北東一南西方向の一直線状に並び、土坑51・52・53と土坑54・55・56・57・58が切り合っている。

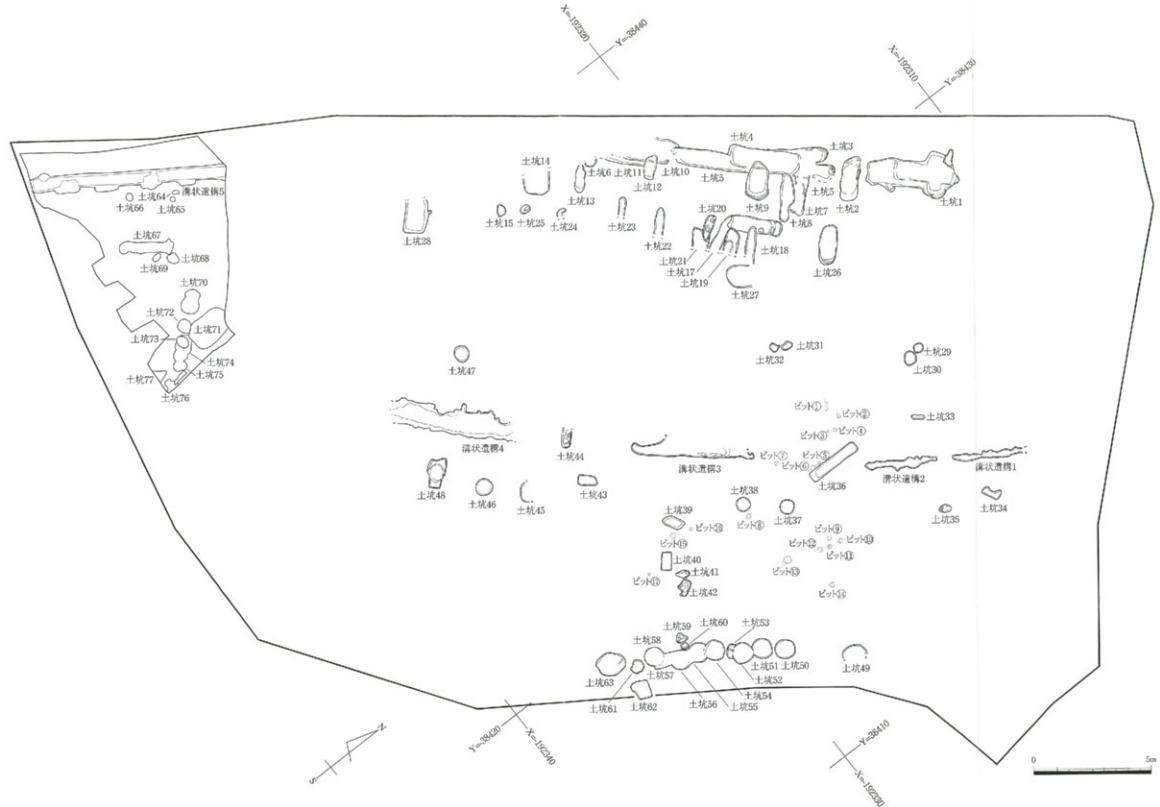
さらに、南区北東側では、土坑70から土坑76までが西北一東南方向の一直線上に並び、土坑73・74が切り合っている。土坑74については、土坑Bが少なくとも3つは切り合っている可能性がある。

土坑Bの直径は約60cm～90cmであり、ある程度の規格性が看取できる。

②溝状遺構（第8図・別図1）

溝状遺構は、土坑Aと比較して長軸（長さ）が長く、短軸（幅）が短いものとした。比較的、土坑Aと比べて、検出面から底面までの掘り込みが浅い。

溝状遺構は、北区中央部と南区西北側で検出されており、主軸方向はいずれも北東一南西である。この主軸方向は北区西北側端部で検出された土坑Aと同一方向である。このことから、溝状遺構は土坑Aの底面付近の一部のみが残存している遺構の可能性も捨てきれない。よって、検出状況の形態は異なるものの、その



第8図 近世・近代の遺構配置図(S=1/160)

用途や機能については同一の可能性が考えられる。

南区で検出された溝状遺構は、長軸8m30cm以上を測り、中尾追遺跡で検出されたものとしては最も規模が大きい。

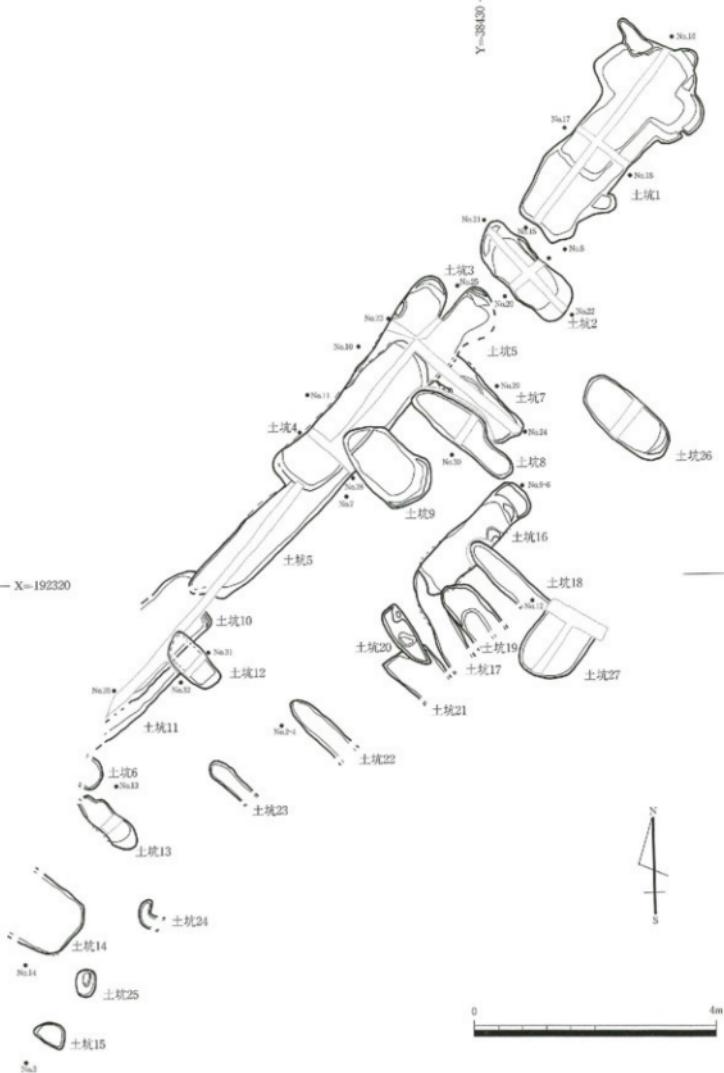
土坑Aと溝状遺構は、その長軸の主軸方向が北東—南西方向とほぼ一致していることと、本来は同一遺構の可能性があることが看取できる。これらの遺構が検出された位置は、元来区画された畑地の端部と一致するものであり、畑地作業あるいは作物保存も含めた機能・用途を想定できるものと考えられる。さらに、土坑Bについては、現在でも畑地の作物の貯蔵用穴として利用されていたものと類似していることから、その機能・用途を想定しておきたい。

土坑番号	最大広さ(cm)	最大深さ(cm)	最深(cm)	検出面	堆土
1	194	99	67	第3層下部	第2a層
2	94	41	36	第3層下部	第2a層
3	120+±	34	30	第3層下部	第2a層
4	154	45	63	第3層下部	第2a層
5	347	44	67	第3層下部	第2a層
6	15+±	27	26	第3層下部	第2a層
7	82+±	28	50	第3層下部	第2a層
8	31	14	17	第3層下部	第2a層
9	82	51	46	第3層下部	第2a層
10	16+±	54	51	第3層下部	第2a層
11	94+±	15	45	第3層下部	第2a層
12	53	27	26	第3層下部	第2a層
13	61	23	25	第3層下部	第2a層
14	45+±	58	75	第3層下部	第2a層
15	38	20	10	第3層下部	第2a層
16	115	36	41	第3層下部	第2a層
17	79+±	24	30	第3層下部	第2a層
18	80+±	22	14	第3層下部	第2a層
19	52+±	30	15	第3層下部	第2a層
20	39	30	21	第3層下部	第2a層
21	42+±	38	15	第3層下部	第2a層
22	69+±	20	12	第3層下部	第2a層
23	40+±	17	12	第3層下部	第2a層
24	16+±	13	4	第3層下部	第2a層
25	24	18	6	第3層下部	第2a層
26	16	39	19	第3層下部	第2a層
27	50+±	49	6	第3層下部	第2a層

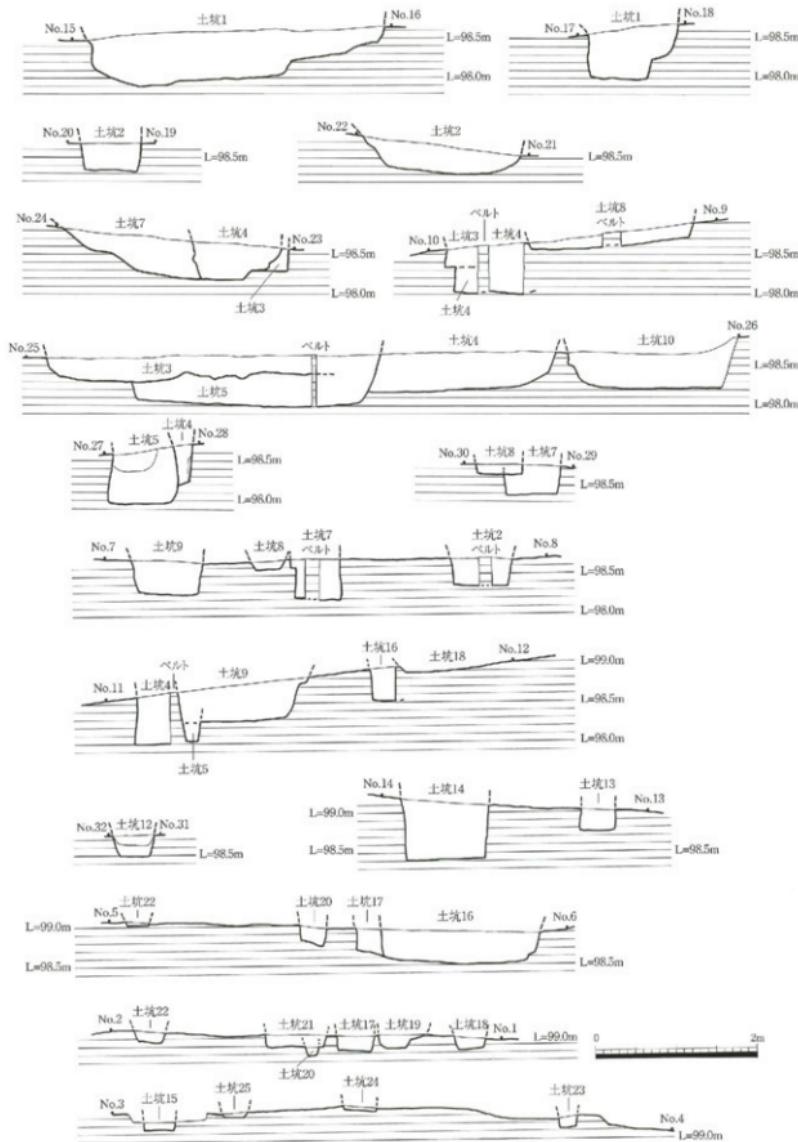
第2表 土坑法量表

— X=192310

— X=192320



第9図 近世・近代帰属の土坑平面図 (S=1/80)



第10図 近世・近代堀川の土坑断面図 (S = 1/60)

③ピット（第8・11図・別図1）

中尾追跡では、近世・近代に帰属するピットを17基検出した。検出状況は、第8図と別図1のとおりである。ピットの検出状況ではプランを形成するまでは至らなかった。

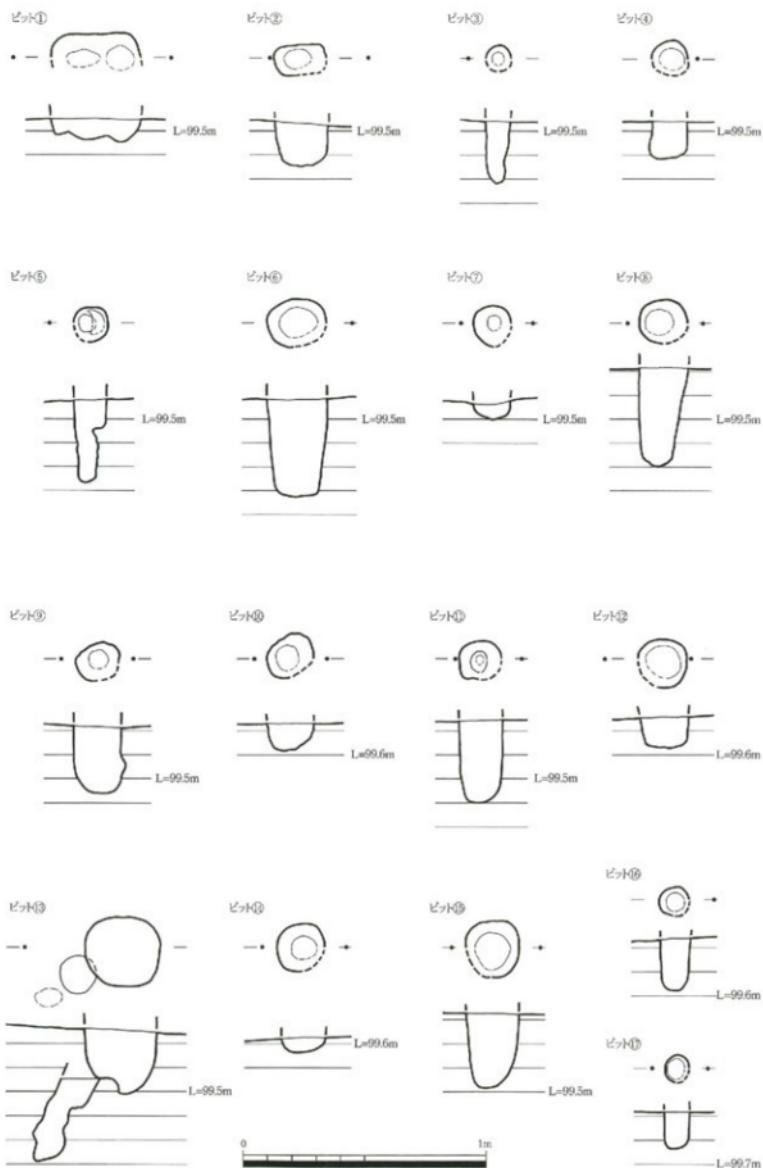
ピットの埋土は、法量表のとおり第2層、特に第2a層が主体を占めている。最も深いものは、検出面からピット⑬の約53cmである。最も浅いものはピット⑭の7cmである。

ピットは、ほぼ真直ぐに掘られているが、ピット⑬のみは斜め方向へ延びている。

ピットの性格は、建物の柱穴の可能性と、以前畠地として利用されていることから畠地作業に伴う杭の打ち込みの可能性も考えられる。今後はそのような機能・用途も含め検討していく必要がある。

ピット番号	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	差 (cm)	検出面	埋 土	備 考
①	33	10+*	10	第5層	第2層	茶褐色・青褐色
②	22	13	18	第5層	第2層	茶褐色・青褐色
③	11	6+*	26	第5層	第2層	
④	10	8+*	16	第5層	第2層	
⑤	15	15+*	35	第5層	第2層	明茶褐色
⑥	25	20	41	第5層	第2層	明茶褐色
⑦	16	17	7	第4層	第2層	茶褐色
⑧	20	10+*	42	第5層	第2層	茶褐色
⑨	19	16	28	第5層	第2層	明茶・茶5層
⑩	20	19	7	第5層	第2層	明茶
⑪	8	17	35	第5層	第2層	明茶・茶5層
⑫	21	13	18	第5層	第2層	茶褐色
⑬	32	29	53	第5層	第2層	明茶褐色
⑭	20	20	6	第5層	第2層	茶褐色
⑮	14	24	31	第4層	第2層	茶褐色
⑯	43	12	22	第4層	第2層	茶褐色
⑰	10	12	15	第5層	第2層	茶褐色

第3表 ピット法量表



第11図 近世・近代堀属のピット平面・断面図 (S = 1/20)

第4節 弥生時代の調査

(1) 発掘調査

中尾追遺跡の弥生時代（第3層・第3層上部・第3層下部・第4層）の発掘調査は、まず、南区部分を先行して行われた。南区では64点の遺物が出土した。北区では、まず第3層として遺物を取り上げた後、調査区西北端部の傾斜堆積地域で第3層が層質的に分層ができたことから、便宜上、第3層上部と第3層下部に分層し、遺物の取上げを行った。弥生時代の遺物包含層（第3層・第3層上部・第3層下部・第4層・埋土内遺物）からの総出土点数は814点である。

中尾追遺跡の各層出土遺物から、概ね、各層は下記のような帰属時期を与えることができよう。

第3層：第3層上部と下部の分層前の取上げ層名である。弥生時代中期から後期の遺物を取り上げている。本来は下記のとおり上部と下部の遺物包含層に分けられる。

第3層上部：中津野式土器を主体とする弥生時代後期終末の遺物包含層である。

第3層下部：山之口式土器と入来Ⅱ式土器が混在する弥生時代中期の遺物包含層である。

第4層：入来Ⅱ式土器を主体とし、わずかだが高橋式土器が含まれる弥生時代前期から中期の遺物包含層である。

(2) 遺構（第12～20図・別図2）

中尾追遺跡では、第3層・第3層下部・第3層上部・第4層の弥生時代に帰属する遺構を検出した。

遺構は、土器焼成坑、土坑、ピットである。各遺構の検出状況は第12図・別図2のとおりである。

土器焼成坑と土坑は北区の中央部付近で検出され、約2mの距離がある。ピットは、北区の調査区の東南側と北東側を除いたほぼ全域で検出されている。ピットの検出状況から、調査区内で偏在傾向が看取できるようで、遺構が多くある範囲と少ない範囲があるようである。土坑とピット21・22・55・60は切り合い関係が認められ、いずれも土坑を平面的に検出す以前にピットを検出していることから、土坑が時期的にピット21・22・55・60より先行するものである。

次に、各遺構ごとに説明する。

①土器焼成坑（第12・13図、写真87～92）

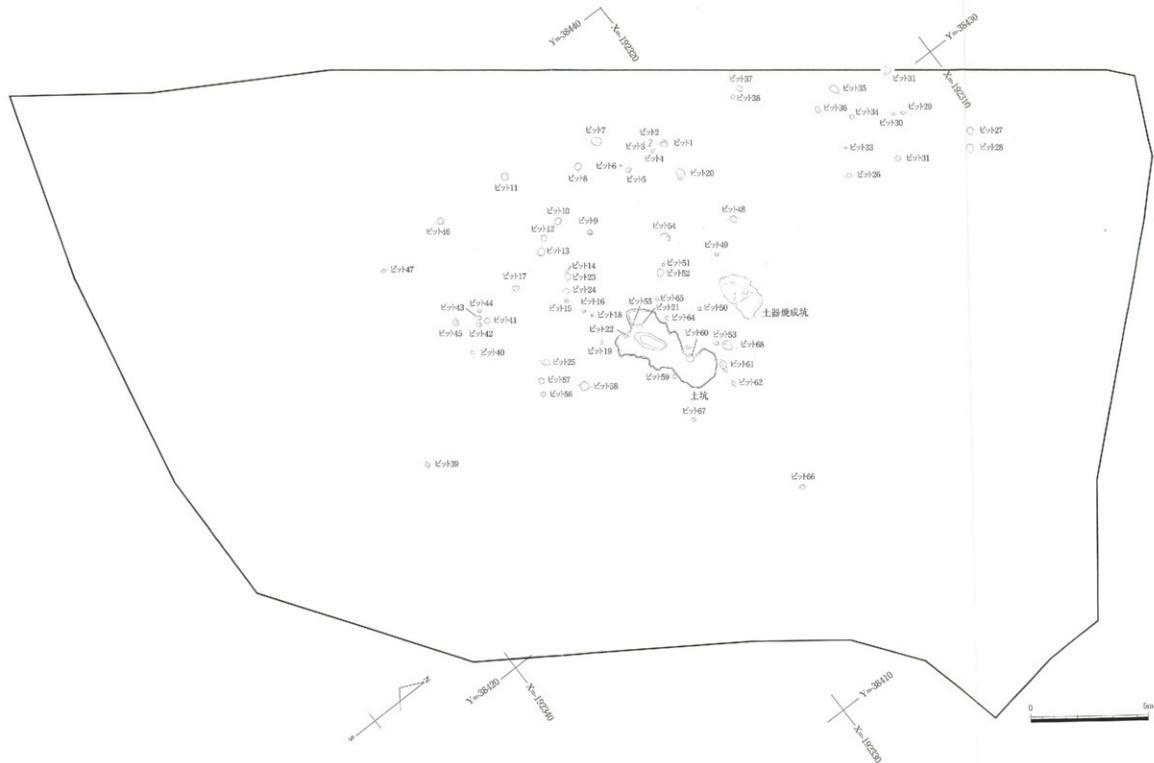
土器焼成坑は、調査区の中央付近の第4層上面で検出された。遺構検出は、第4層上面に赤色土壤と炭化物を検出したことがはじまりである。第4層上面でその赤色土壤と炭化物がある範囲と埋土の主体となっている第3層の範囲を元にして平面ラインの線引きを行った。当初、平面形態は楕円形を呈していたが、数本の先行トレンチの断面観察と底面での切り合い関係によって、2つの遺構の切り合いであることが判明した。便宜上、東側の遺構を土器焼成坑①と、西側のものを土器焼成坑②と仮称しておく。なお、切り合い関係では、第13図で図示しているとおり、土器焼成坑①が土器焼成坑②より先行する。

推定される土器焼成坑①・②とも平面形態は、概ね直径1m前後の不整形な円形を呈している。断面形態は、底面がほぼ平坦で浅い鉢鉢状を呈している。

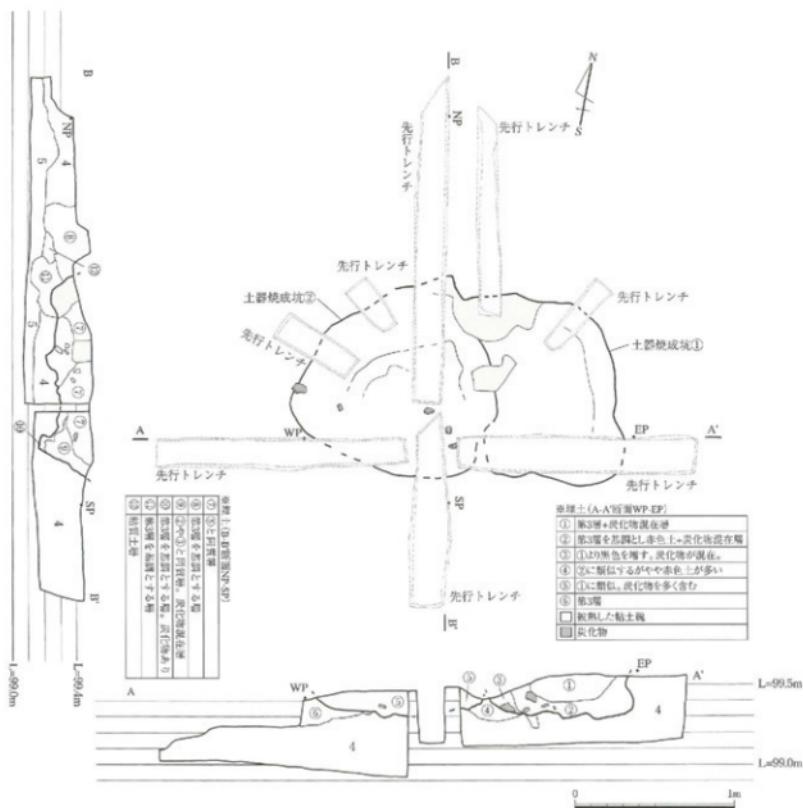
土器焼成坑①・②の埋土は、写真89・90・91で看取できるとおり、第3層が主体を占めており、埋土中に炭化物と受熱している粘土塊が混在している。

受熱している粘土塊は、片面は黒色を呈し、その反対面は茶褐色を呈していることから片面のみが熱を受けたと想定できる。この受熱している粘土塊は、後に土器焼成段階で覆屋として利用された粘土と想定した。なお、土器焼成坑の埋土から出土した受熱した粘土塊の一部を第14図に図示した。その観察によると表面的な色調は上記したとおりである。また、表面には植物のスタンプ痕が認められる。

土器焼成坑の底面は、ほぼ平坦であり、写真89で看取できるように、赤色土壤が顕著に認められる。また、



第12図 弥生時代高尾の遺構配図(S=1/160)



第13図 土器焼成坑平面・断面図 (S=1/30)

その上面あるいはその赤色土壤内には炭化物が認められる。

断面B—B'では弥生土器片と同質と考えられる小破片が認められる。これらの事象から、弥生時代に帰属する土器焼成坑とした。

②土坑（第12・15図、写真85・86）

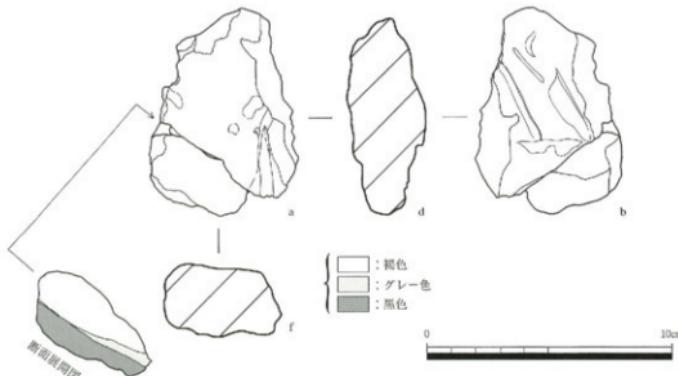
土坑は、調査区中央付近で検出された。検出段階では平面形態が不整形を呈した浅い土坑と判断していたが、底面と想定していた一部にさらに深い掘り込みがあることが判明した。断面形態は第15図のとおり二段掘りとなっている。掘り込みの深さは、検出面から約88cmを測る。土坑の埋土は、主に第3層上部であり、埋土⑥は開聞岳の火山性噴出物である暗紫コラの火山レキがまとまって堆積していることから、少なくとも暗紫コラの降下・堆積以前には掘られていた土坑であると考えられる。土坑の掘り込みは、第5層のシラス二次堆積（細粒で粘質に富む）部分まで達していることから、当初、土器焼成坑に伴う粘土採掘坑としての用途を想定した。



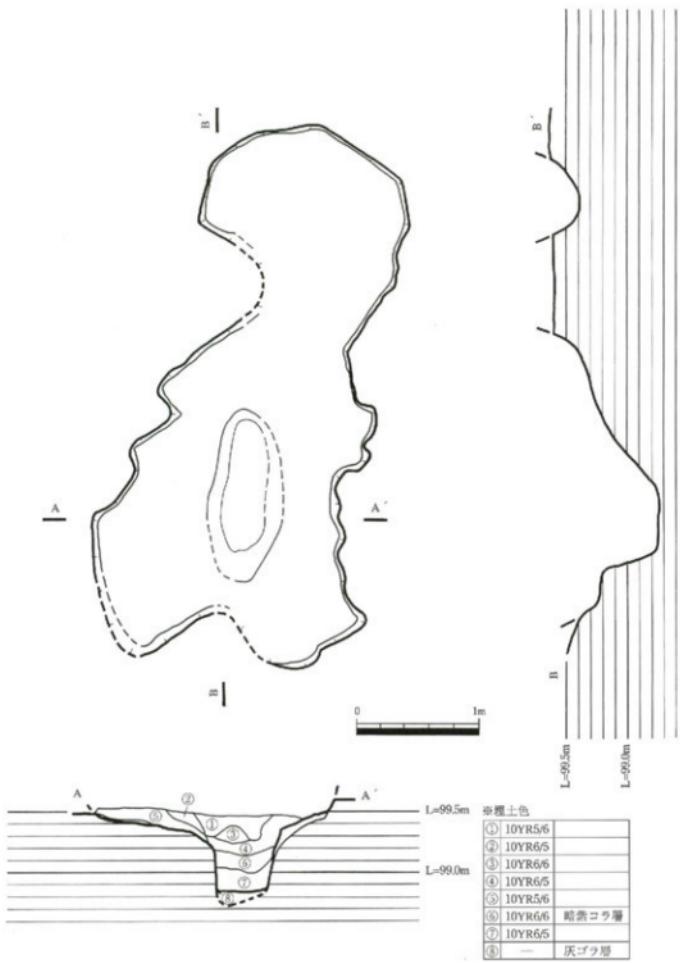
写真1 土器焼成坑内出土遺物写真(表面)



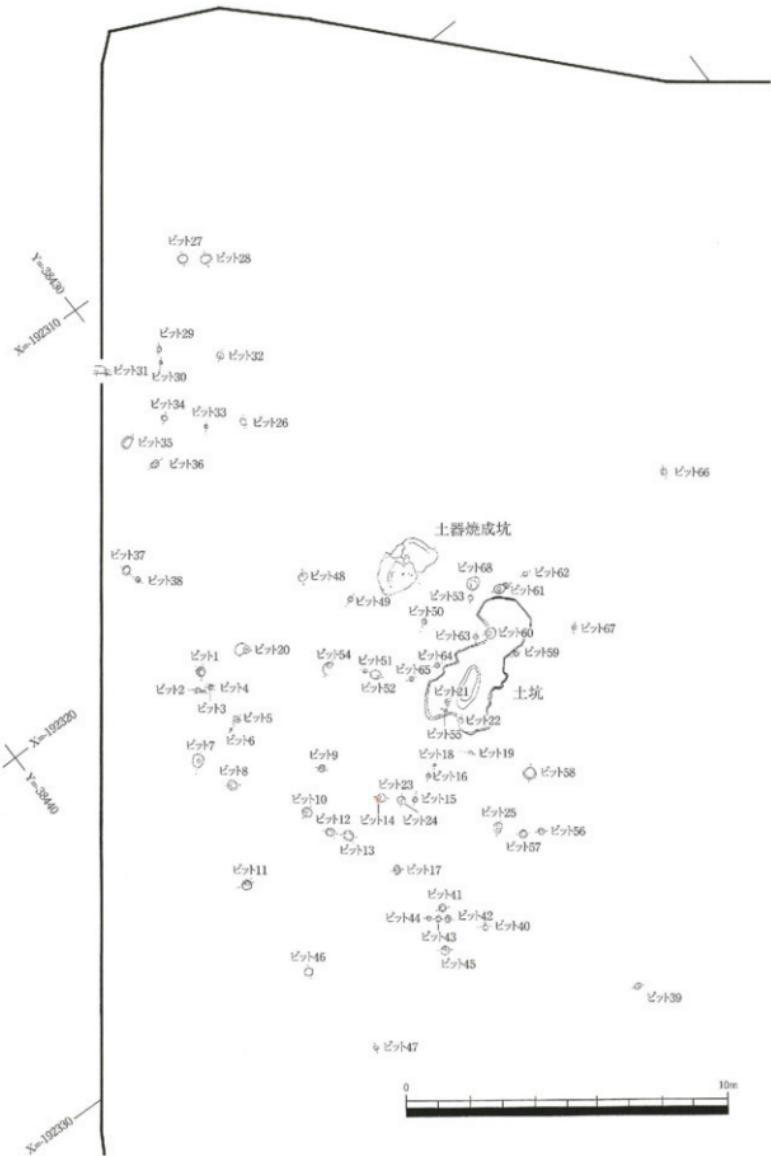
写真2 土器焼成坑内出土遺物写真(裏面)



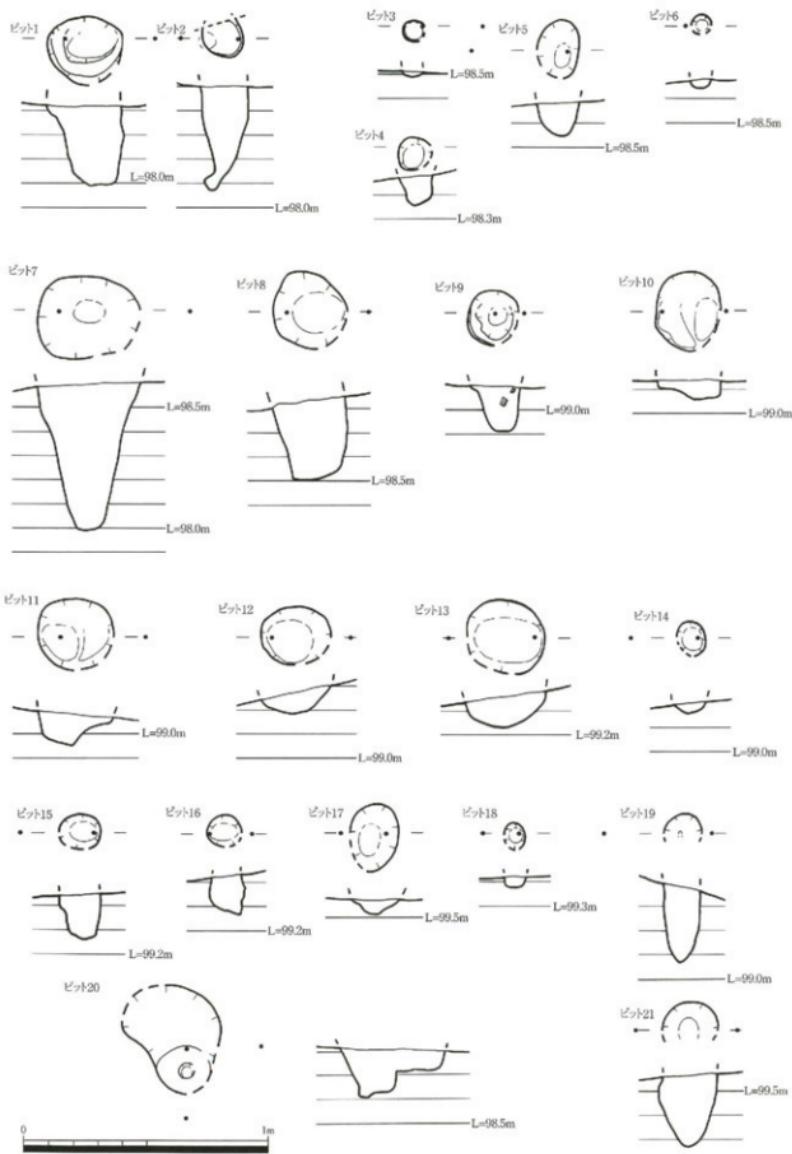
第14図 土器焼成坑内出土遺物実測図(S=1/2)



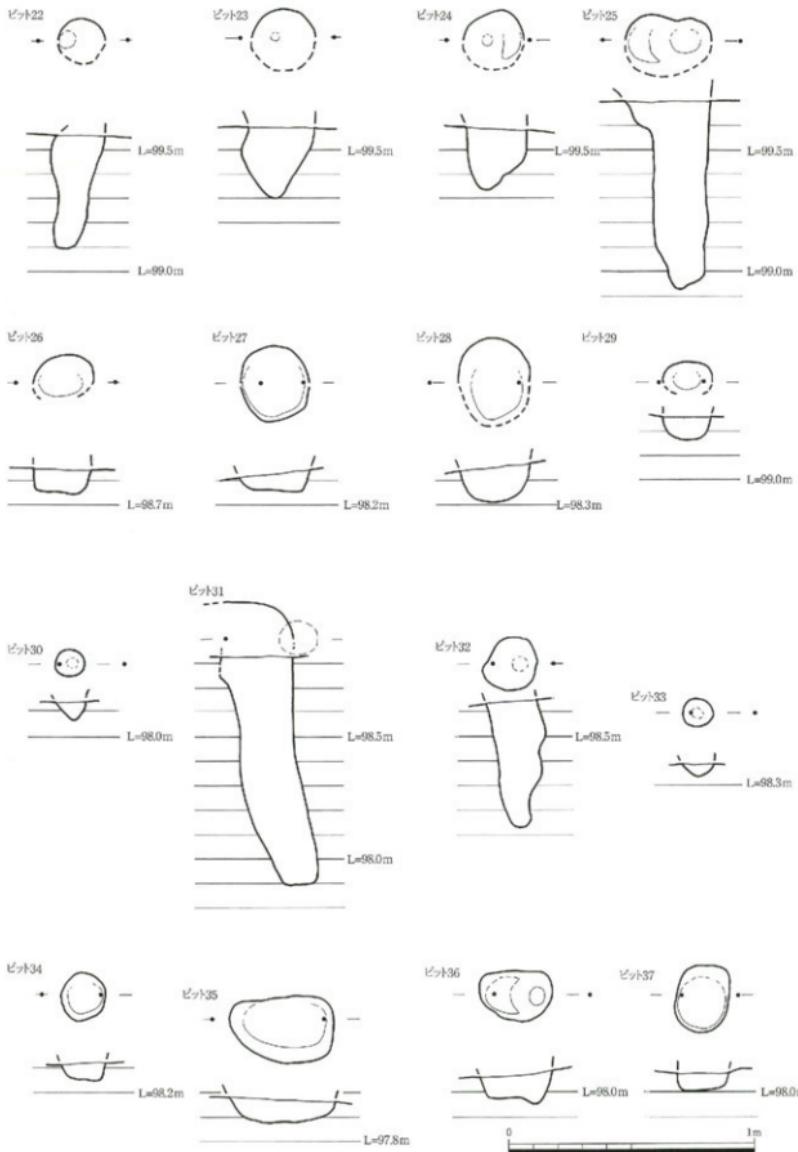
第15図 土坑平面・断面図 (S = 1/40)



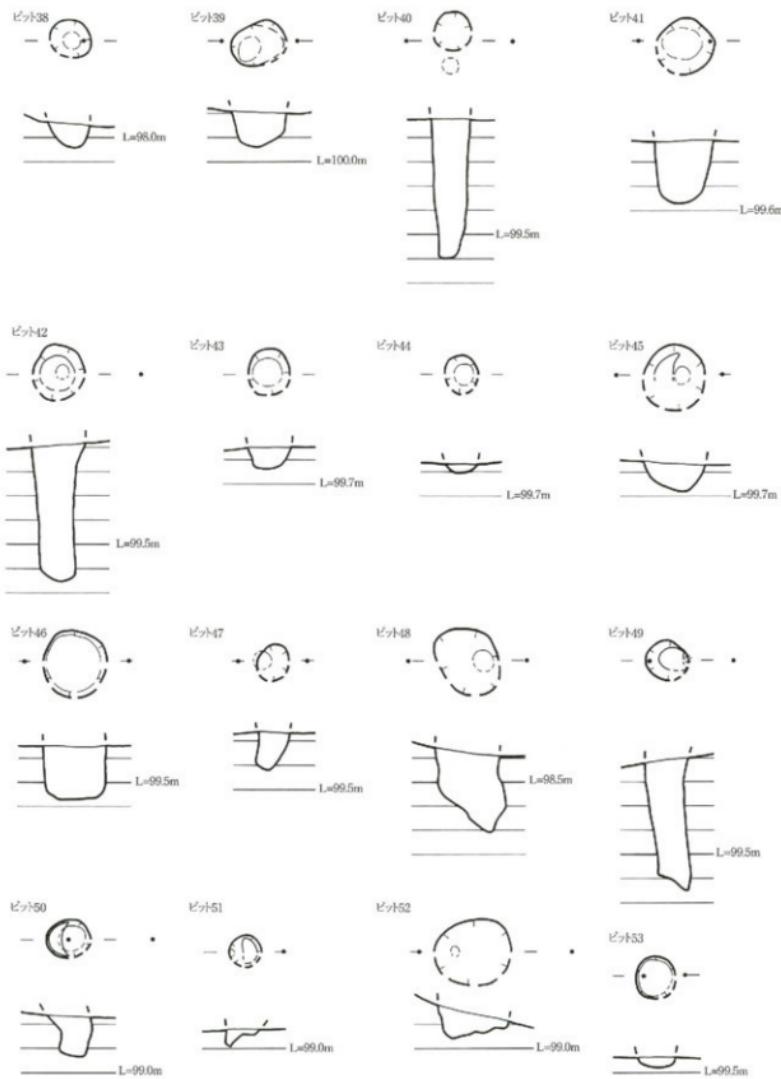
第16図 ビット検出状況図 (S = 1/150)



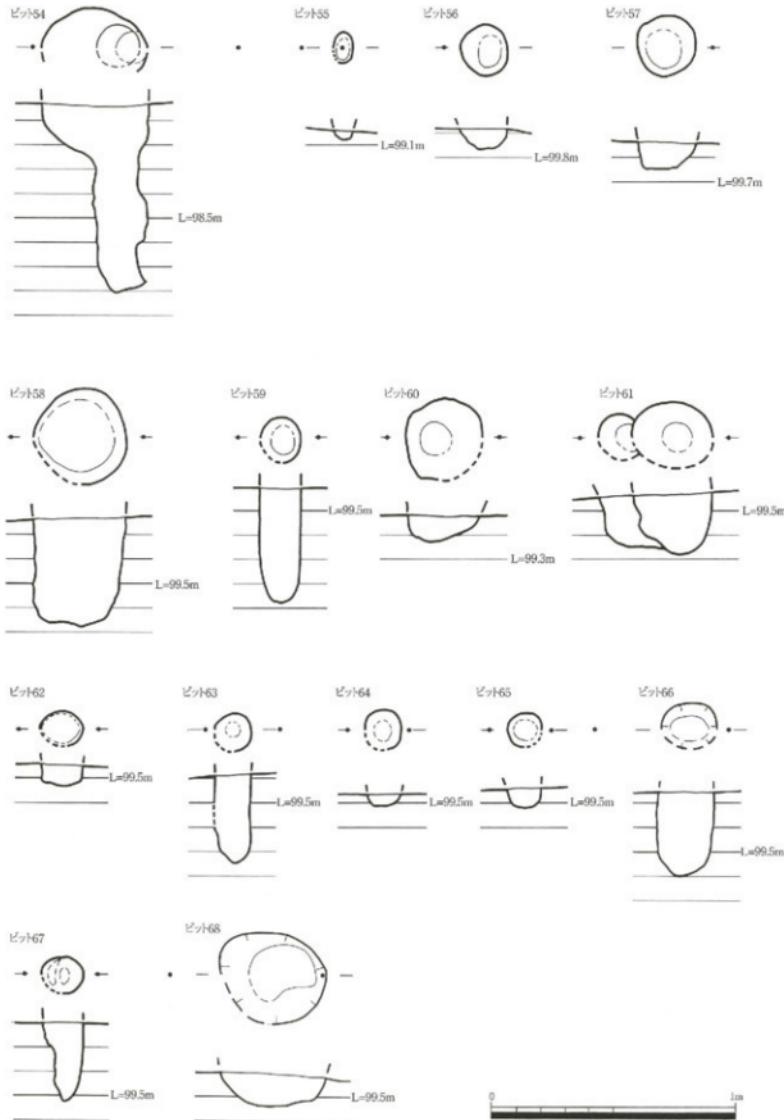
第17図 ビット平面・断面図① (S = 1/20)



第18図 ピット平面・断面図② (S = 1/20)



第19図 ピット平面・断面図③(S = 1/20)



第20図 ピット平面・断面図④(S = 1/20)

ピット番号	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最深 (cm)	検出面	粗土
1	31	28	33	第4層	第3層下部
2	17	16	43	第4層	第3層下部
3	10	9	2	第4層	第3層下部
4	15	14	12	第4層	第3層下部
5	18	25	14	第4層	第3層下部
6	9	5+ a	40	第4層	第3層下部
7	43	35	60	第4層	第3層下部
8	21	33	33	第4層	第3層
9	21	34	19	第3層下部	第3層上部
10	27	32	8	第3層下部	第3層上部
11	32	30	14	第4層	第3層
12	29	25	9	第4層	第3層下部
13	33	31	13	第4層	第3層下部
14	13	15	4	第4層	第3層下部
15	18	15	18	第4層	第3層下部
16	15	13	16	第4層	第3層下部
17	21	28	6	第3層下部	第3層上部
18	10	11	5	第4層	第3層上部
19	17	9+ a	32	第4層	第3層上部
20	42	44	19	第4層	第3層
21	23	12+ a	29	第4層	第3層
22	26	9+ a	46	第4層	第3層
23	26	12+ a	29	第4層	第3層
24	25	13+ a	25	第4層	第3層
25	35	10+ a	77	第4層	第3層
26	23	12+ a	9	第4層	第3層
27	29	32	8	第3層下部	第3層上部
28	29	37	14	第3層下部	第3層上部
29	20	7+ a	9	第3層下部	培素ブロック
30	12	6+ a	8	第4層	第3層上部
31	23+ a	15+ a	94	第4層	第3層上部
32	22	32	52	第3層下部	第3層上部
33	13	12	5	第4層	第3層下部
34	18	20	6	第3層下部	第3層下部
35	43	27	10	第4層	第3層下部
36	29	21	13	第4層	第3層下部
37	22	27	7	第4層	第3層下部
38	18	15	10	第4層	第3層下部
39	24	18	14	第4層	第3層
40	16	9	58	第4層	第3層
41	24	24	26	第4層	第3層
42	22	13+ a	56	第4層	第3層
43	17	11+ a	9	第4層	第3層
44	14	8+ a	4	第4層	第3層
45	26	12+ a	12	第4層	第3層
46	27	13+ a	22	第4層	第3層
47	13	6+ a	16	第4層	第3層
48	26	14+ a	32	第4層	第3層
49	18	17	55	第4層	第3層
50	70	27	23	第4層	第3層
51	18	16	17	第4層	第3層
52	14	7+ a	7	第4層	第3層
53	33	14+ a	12	第4層	第3層
54	16	18	4	第4層	第3層
55	12	8	4	第4層	第3層
56	9	13	6	第4層	第3層
57	20	22	9	第4層	第3層下部・第4層
58	24	26	11	第4層	第3層下部・第4層
59	39	40	44	第5層	第3層下部・第4層
60	17	20	47	第5層	第3層下部・第4層
61	32	34	11	第5層	第3層下部・第4層
62	18	14	9	第5層	第3層下部・第4層
63	15	15	36	第5層	第3層下部・第4層
64	15	16	5	第4層	第3層下部
65	14	16	8	第4層	第3層下部
66	23	19	35	第5層	第3層・第5層
67	17	19	32	第4層	第3層上部
68	12	14	23	第5層	第4層

第4表 ピット法量表

③ピット（第12・16~20図）

弥生時代に帰属するピットと認定した遺構は68基検出した。ピットの検出状況図は第16図のとおりである。ピットは3基で列状を呈するものはあるものの、建物のプランを形成するまでには至らなかった。

比較的掘り込みが深いものとしては、ピット7, 22, 25, 31, 32, 40, 42, 49, 54, 58, 59等であり、最も深いものは、ピット31の94cm（検出面からの深さ）である。断面形態では、二段堀りのもの（ピット25, 54）、未細りを呈するもの（ピット2, 7, 21, 67等）底部が丸味を帯びるもの（ピット32, 42, 59, 63等）が認められる。平面形態では、円形、楕円形を呈するものが主体を占める。

（3）遺物

中尾迫遺跡の弥生時代に帰属する遺物包含層は、第3層、第3層上部、第3層下部、第4層である。第3層は第3層が細分する以前に遺物を取り上げた層名称であることから、第3層出土遺物には、第3層上部と第3層下部の遺物が混在して取り上げられている。

遺物の観察では、第3層、第3層上部、第3層下部、第4層の順番で報告していく。

なお、第3層上部と、第3層中で比較的狭い範囲で同一個体を構成すると思われる土器片がまとまって出土している範囲が認められた。各層中で遺物が散見している状況とは明らかに異なり、そのまとまりが土器の一個体になる様相を呈していたため、まとまり毎で平面・断面実測を行った。便宜上、土器のまとまりを「土器集中部」として認識し、第3層上部で検出したものを「土器集中部①」と、第3層中で検出したものを「土器集中部②」と仮称しておく。

ちなみに、土器集中部①は掲載遺物番号35の壺形土器のほぼ一個体であり、土器集中部②は遺物掲載番号68の壺形土器の口縁部から胴部部分である。

各層の出土遺物の観察報告に先立ち、まず土器集中部の検出状況の報告を行う。

①土器集中部（第22~24図）

（i）土器集中部①（第22・23図、写真75~77）

北区の西北側端部付近の第3層上面で検出されたものである。この土器集中部①の遺物は、その出土レベルに幅があったため、2回に分けて出土遺物を実測・取上げを行った。一枚の図面での表示も可能であったが、煩雑を避けるため便宜上、第22図と第23図に分けて図示した。元来は同一地点での出土遺物であり、出土レベル差によるものである。よって、第22図と第23図の実測ポイントN P・E P・W Pは一致する。

検出の初期段階（第22図）では、遺物取り上げ番号562・563・564・568等の底部付近の上器片が、狭い範囲から近接して出土した。562等を検出したのは同一レベルでは、網掛け図示している範囲で開闢岳の火山性噴出物降下堆積層である暗紫コラの固結した火山灰を検出している。また、遺物取り上げ番号572のような口縁部片も出土している。

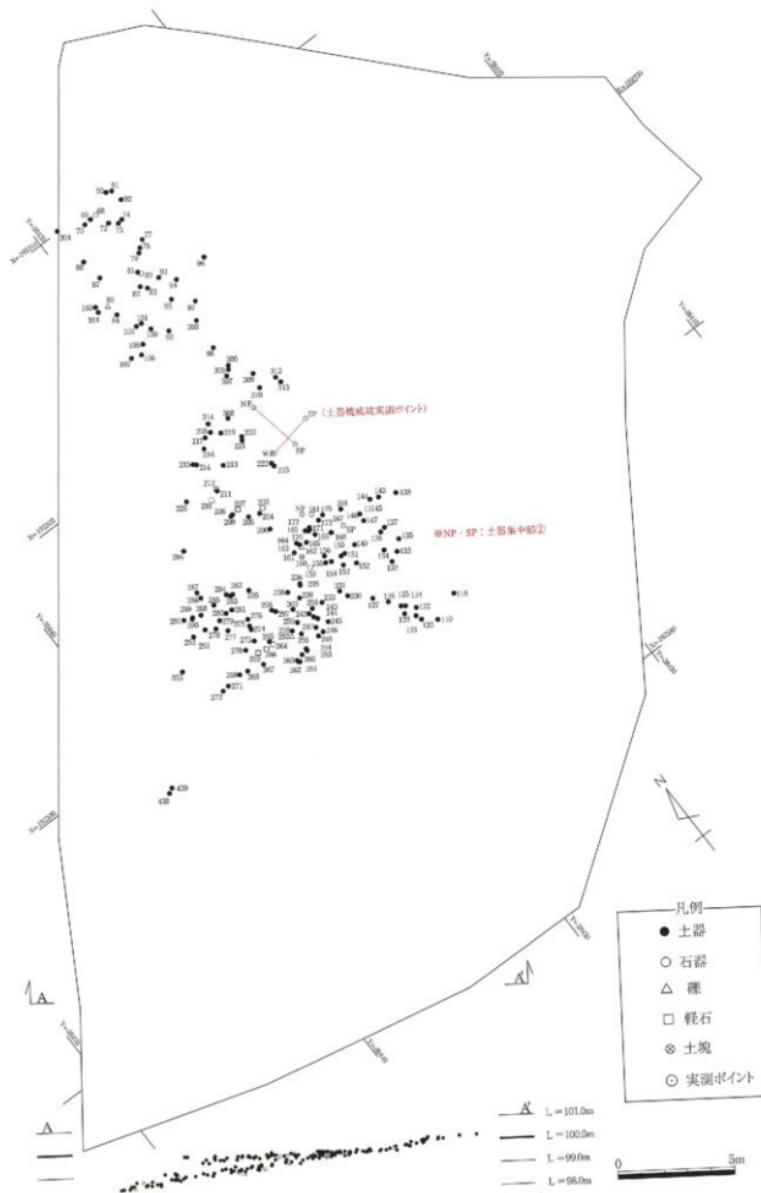
土器集中部①を検出した地点の地層堆積状況は、概ね北東方向から西北方向へ傾斜堆積している範囲である。よって、その地形と同一方向での断面A-A'を観察すると、地層の堆積状況と同じように傾斜堆積していることが看取できる。

第22図で図示している遺物は全て第3層上部で取り上げている。

土器集中部①の2回目の取り上げでは、遺物取り上げ番号746や752など土器胴部片が集中して出土している。その平面・断面の出土状況は第23図のとおりである。

第23図で図示しているもの内、761・762・763は第3層下部の遺物として取り上げており、実際、土器集中部①の主体を占める個体とは接合関係が認められない。

第22・23図で図示している土器集中部①で主体を占めている土器は、壺形土器であり遺物掲載番号35で図示している。第5表でまとめているが、土器集中部①で出土した土器片の大部分は遺物掲載番号35として接



第21図 第3層出土遺物分布図 (S = 1/200)

合関係が認められる。このことから、土器集中部①は、遺物掲載番号35の壺形土器の一括資料として判断ができるものと考えられる。

なお、土器集中部①の平面検出状況は、第22・23図から鑑みても7m四方内から出土しており、特に集中部では4m内に収まる。また、断面観察（実測ポイントN P・E P-W P・S Pの交差付近）では、若干ながらレベル差が認められる。具体的には、第22図の564や565の出土レベルは98.8~98.85mであるのに対して、第23図の754や755の出土レベルは98.65~98.7m前後である。少なく換算しても約15cm前後のレベル差が認められる。

本来は同一個体・同一レベルであったものが、第3層上部内で包含されている間に、包含層中でこのような出土レベル差が生じるような上下移動があったものと想定することができる。

（ii）土器集中部②（第24図、写真78）

北区の中央部付近で検出されたものである。検出層位は第3層と第3層下部である。

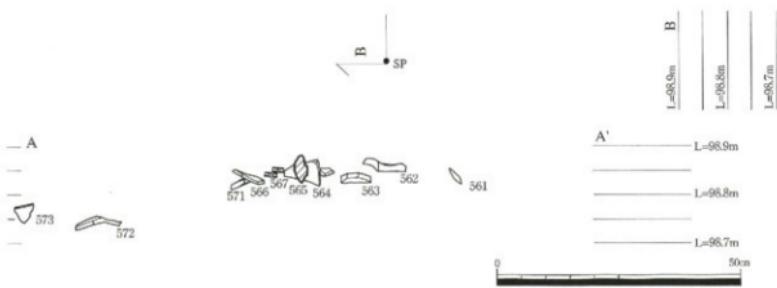
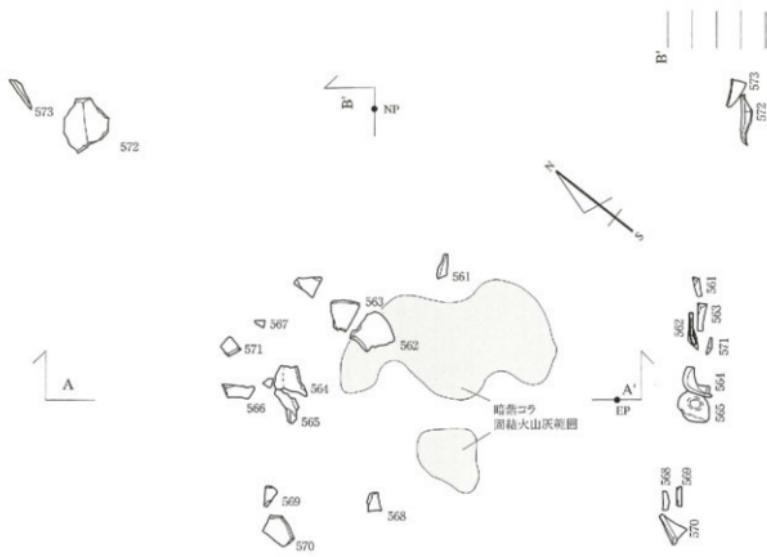
土器集中部②は、長さ120cm、幅40cmの範囲に同一個体で構成されると思われる土器がまとめて出土した。

第24図のA-A'の断面図によると、出土レベルは99.65mから99.45mの範囲で北東方向から西北方向に傾斜している状況が看取できる。この傾斜は、地層の堆積状況とはほぼ同じであり、この状況は土器集中部①でも看取できた。

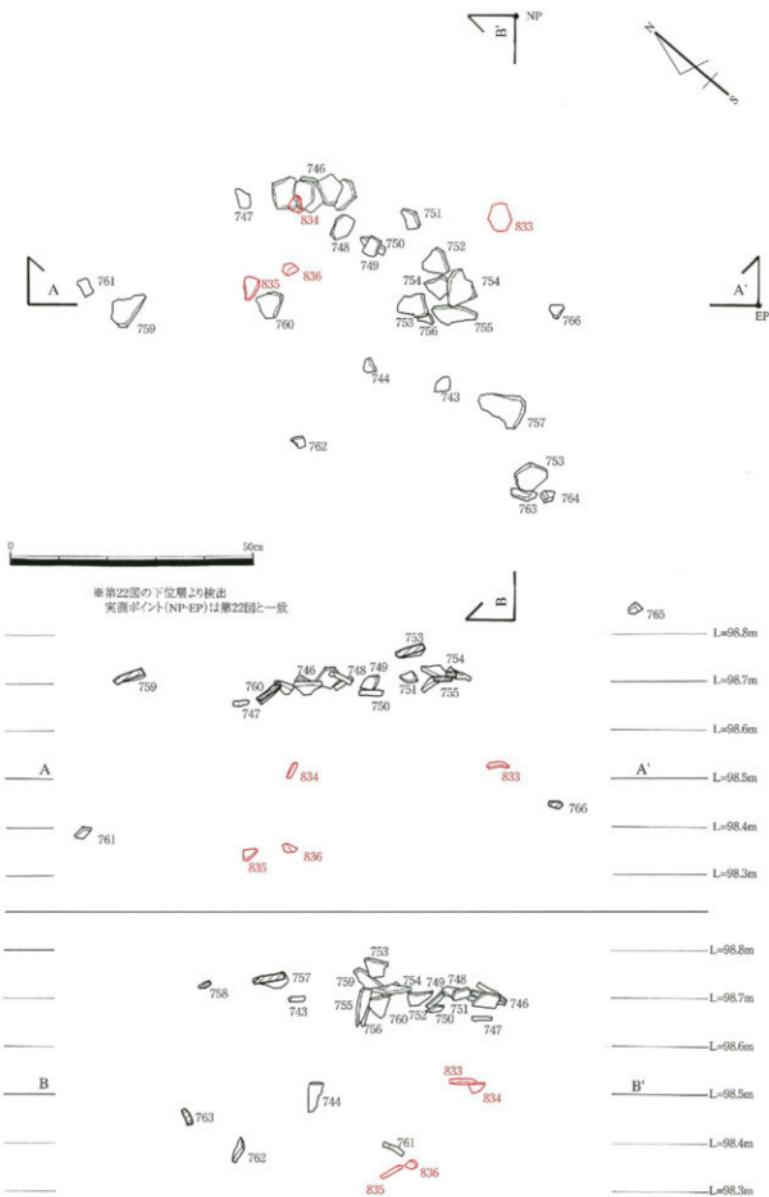
土器集中部②は、土坑（27頁・第28図）の直上に位置していることから、土坑が利用・廃棄・埋没した以降に土器集中部②が廃棄・廃棄されていることが判断できる。土坑の埋土は、第3層上部が主体を占めており、埋土下部には暗紫コラが堆積している。土器集中部②の遺物取り上げ層位は、検出段階で認識した土質によって、第3層下部と第3層としているが、土坑の埋土関係を考慮すると、土器集中部②も土器集中部①と同様に第3層上部帰属のものとして判断することが望ましいと思われる。

土器集中部②でまとめて出土した土器は、掲載遺物番号68の中津野式土器の範疇に含まれる壺形土器である。土器集中部②から出土した壺型土器は、口縁部から胴部片で構成されており、底部は出土していない。また、出土遺物内にも接合関係が認められる底部片は確認できなかった。

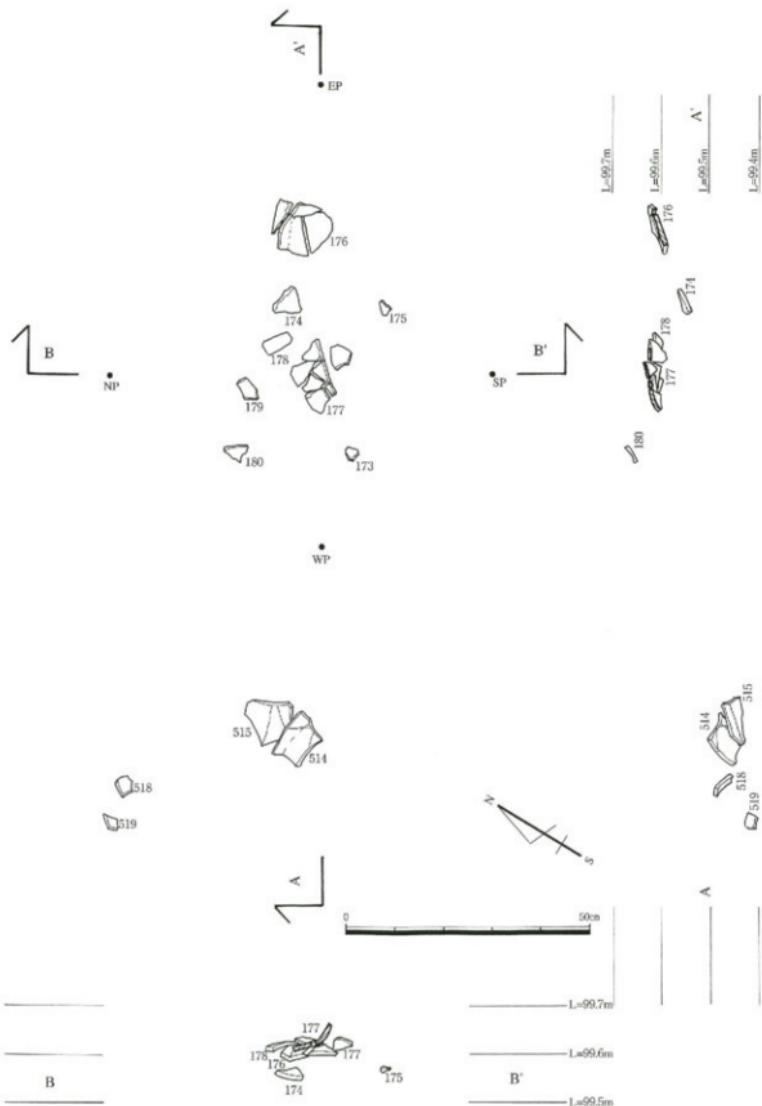
なお、第3層下部出土遺物として掲載しているが、先述したとおり、土坑の埋土関係から第3層上部出土遺物として取り扱う必要がある。



第22図 第3層土器集中部①平面・断面図①(S=1/10)



第23図 第3層土器集中部①平面・断面図(②(S=1/10))



第24図 第3層土器集中部②平面・断面図 (S = 1/10)

层位名	遗物番号	出土層位	陶器部分	種別	器物名	
土器集中部①(上位層)	第22回	561 562 563 564 565 566 567 568 569 570 571	3上 3上 3上 3上 3上 3上 3上 3上 3上 3上 3上	35 35 35 35 35 35 35 35 35 35 35	土器 土器 土器 土器 土器 土器 土器 土器 土器 土器 土器	壳形土器 壳形土器 壳形土器 壳形土器 椭形土器 椭形土器 椭形土器 壳形土器 壳形土器 壳形土器 壳形土器
土器集中部②(下位層)	第23回	744 746 747 748 749 750 751 752 753 754 755 756 757 758 759 760 761 762 763 764 765	3上 3上	35 35	土器 土器	椭形土器 椭形土器 椭形土器 壳形土器
土器集中部③	第24回	174 175 176 177 178 179 180	3 3F 3F 3F 3F 3F 3F	68 68 68 68	土器 土器 土器 土器 土器 土器 土器	亚形土器茎部残片 亚形土器茎部残片 亚形土器茎部残片 亚形土器茎部残片 欠脊 椭形土器 椭形土器 椭形土器 欠脊 椭形土器 椭形土器 壳形土器

第5表 土器集中部①・②出土遺物一覧表

②第3層出土遺物（第21・25～33図）

中尾追跡の第3層から出土した遺物は、総点数で243点である。「第3層」出土として取り上げた遺物は下記のような状況のものである。

まずは、発掘調査の初めの頃、第3層が上部と下部に分層が行う以前に用いたものである。もうひとつは、発掘調査の後半で第3層の上部と下部とに駆別が難しい地層堆積が薄い範囲で用いている。

よって、「第3層」出土として取り上げた遺物には、第3層上部と第3層下部の遺物が含まれていることとなる。

後述するが、「第3層上部」の遺物は、中津野式土器が主体を占める弥生時代後期終末の遺物包含層であり、「第3層下部」は、山之口式土器と入来Ⅱ式土器が包含されている弥生時代中期の遺物包含層であることから、「第3層」は上記の時期の遺物が含まれることとなる。また、遺物の上下移動から鑑みると、本来は「第4層」に帰属する遺物も含まれる可能性が考えられる。

第3層の出土遺物平面・垂直分布図は第21図のとおりである。

では、第3層から出土した遺物について、(i) 土器、(ii) 軽石加工品、(iii) 石器の順で報告していく。

(i) 土器（第25～30図）

1から14までは壺形土器である。15から27までが壺形土器である。まず、壺形土器から報告する。

・壺形土器（第25～27図）

1から6は、口縁部と肥厚部の形態等から、入来Ⅱ式土器の壺形土器と考えられる（第25・26図）。

1は、壺形土器の口縁部から胴部にかけての破片である。復元口縁は、約22.8cmを測る。口唇部端部はやや丸みを帯びており、横位の沈線が一条施されている。また、口縁部上部は丸みを帯びている。胴部は三条の三角突帯が巡らされている。

2は、壺形土器の口縁部から胴部にかけての破片である。復元口縁は、約25cmを測る。口唇部端部はやや丸みを帯びている。胴部には二条の三角突帯が巡らされている。内外面ともに横位のナデ仕上げが行われており、内面にはユビオサエの痕跡が残る。第3層出土の153と第4層出土の332の2点接合である。

3は、壺形土器の口縁部片である。口縁部上部はほぼ平坦であり口唇部端部には横位の沈線が一条施されている。口縁部の肥厚部断面は略四角形を呈している。胎土に金ウンモが認められる。

4は、壺形土器の口縁部片である。口縁部の肥厚部断面は台形を呈している。口唇部端部には口唇部端部には横位の沈線が一条施されている。肥厚部の張り出しあは短く、口縁部上部は下方に下がる。内面には横位のハケ目が残る。

5は、壺形土器の口縁部から胴部にかけての破片である。口唇部端部には横位の沈線が一条施されている。胴部には三角突帯が三条認められる（内、口縁部から三条目の突帯は剥落している）。胎土に金ウンモが認められる。

6は、壺形土器の口縁部片である。口唇部端部には横位の沈線が一条施されている。口縁部上部はやや下方に下がる。胎土に金ウンモが認められる。

7から9は、口縁部と肥厚部の形態等から山之口Ⅱ式土器の壺形土器に含まれると考えられる（第26図）。

7は、壺形土器の口縁部片である。口唇部端部には横位の沈線が一条施された後に、工具によるキザミが施されている。口縁部上部は凹ませて上方へ伸びる。内面口縁部端部には棱が認められる。

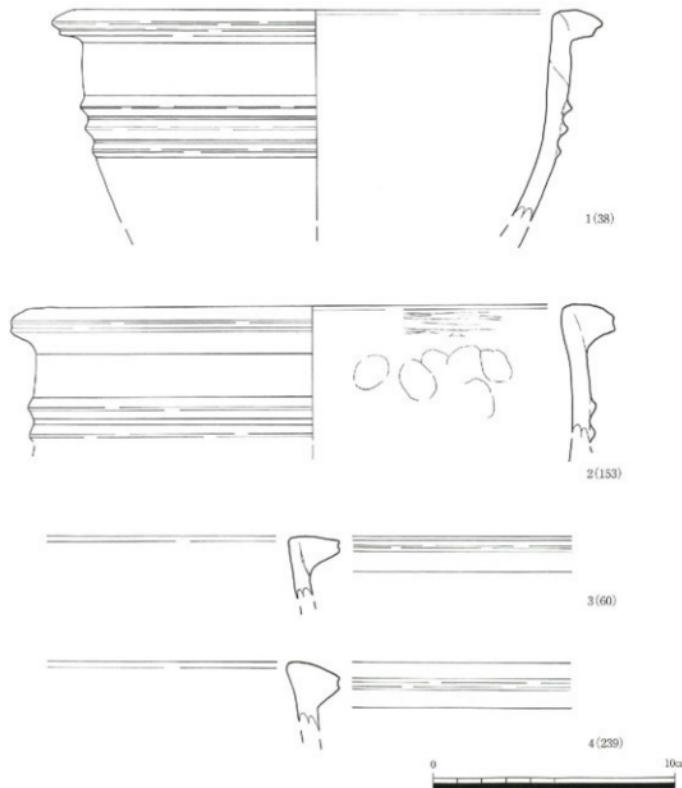
8は、壺形土器の口縁部片である。口唇部端部には工具によるキザミが施されている。口縁部上部は上方へ伸びる。口縁部上部はほぼ平坦に整えられ工具による継位の暗文が施され、その間には三日月状の爪の圧痕が認められる。

9は、壺形土器の口縁部片である。口唇部端部には一条の沈線が施されている。口縁部上部は上方へ伸びる。内外面ともヨコナデが施されている。

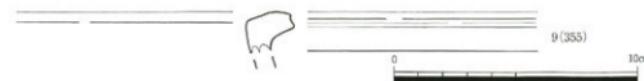
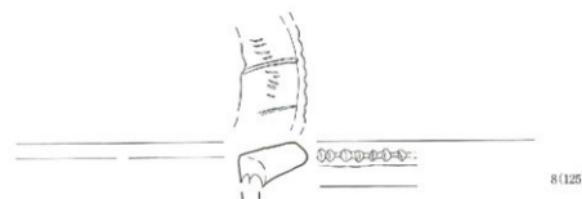


写真3 第3層出土遺物写真①(外面)

写真4 第3層出土遺物写真①(内面)



第25図 第3層出土遺物実測図①(S=1/2)



第26図 第3層出土遺物実測図②(S=1/2)

10は、壺形土器の胴部突帯部片である。胴部の最大幅の位置に四条の三角突帯が施されている。内外面とも工具によるナデのちナデが施されている。胎土に金ウンモが認められる。

11は、壺形土器の底部付近の胴部片である。外面にはハケ目が認められる。内外面ともカーボンが付着しており、特に内面には顕著に認められる。

12は、壺形土器の底部付近の胴部片である。内外面には底部から口縁部へ延びる継位のハケ目が認められる。

13は、壺形土器の底部付近の胴部片である。底部付近に近づくにつれ厚みが増し、最大厚で1.7cmを測る。内外面とも工具によるナデが施されている。カーボンは付着していない。

14は、壺形土器の胴部片である。内面には斜位のハケ目が認められる。外面は工具によるナデのちにナデが施されている。

・壺形土器（第28~30図）

15から18までは壺形土器の口縁部片である（第28図）。15から17は口縁部の肥厚部の形態等から入来Ⅱ式土器に含まれると考えられる。

15は、壺形土器の口縁部片である。口唇部端部には、一条の沈線が施されている。口縁部肥厚部は下方へ下る。口縁部上部には長さ約1cm + α で、幅約4mmの粘土紐を貼付している。口縁部下部は丸みをもち膨らませている。

16は、壺形土器の口縁部片である。口唇部端部には、一条の沈線が施されている。口縁部肥厚部は下方へ下る。胎土に金ウンモが認められる。口縁部の内外面ともヨコナデが施されている。

17は、壺形土器の口縁部片である。口縁部肥厚部の張り出しあは短い。口唇部端部は丸みを帯びている。内外面ともヨコナデが施されている。

18は、壺形土器の口縁部から胴部にかけての破片である。口唇部端部は丸みを帯びており、下方へ下る。内面の口縁部端部には稜が認められる。他の土器の色調と比較して白色が強い。

19は、壺形土器の胴部片である。復元の胴部最大幅は約15.2cmを測る。外面はミガキが施され、内面にはユビオサエの痕跡が残る。内面には、粘土紐を上積みしていく際の接合痕が顕著に認められる。

20から24までは、壺形土器の頸部突帯部片で、三角突帯が巡らされている（第29図）。

20は、壺形土器の頸部突帯部片である。頸部には三条の三角突帯が巡らされている。突帯の貼付は雜であり、剥落している部分も認められる。

21は、壺形土器の頸部突帯部片である。頸部には三条の三角突帯が巡らされている。内外面ともナデが施されている。

22は、壺形土器の頸部突帯部片である。頸部には三条の三角突帯が巡らされている。突帯部下の胴部は緩やかに膨らみを持たせている。内面にはユビオサエの痕跡が認められる。胎土に金ウンモが認められる。

23は、壺形土器の頸部突帯部片である。頸部には一条の三角突帯が巡らされている。胎土に若干ながら金ウンモが認められる。

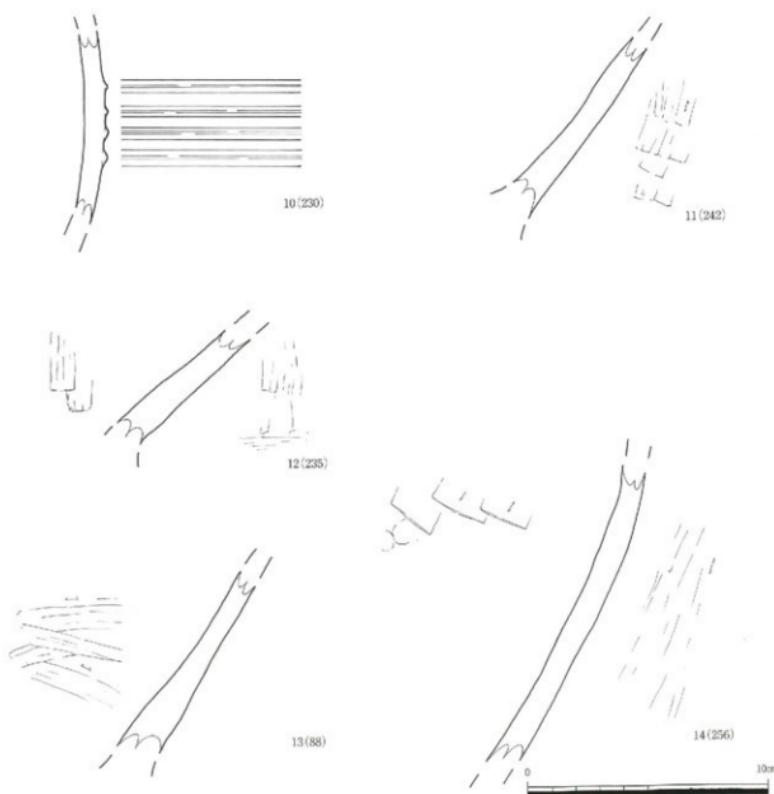
24は、壺形土器の頸部突帯部片である。頸部には三条の三角突帯が巡らされている。胎土に若干ながら金ウンモが認められる。外面にはヨコナデが、内面にはナデが認められる。

25から27は、壺形土器の頸部片で、二条の沈線が巡らされている（第30図）。

25は、壺形土器の頸部片で、二条の沈線が巡らされている。外面はミガキが施されており、二条の沈線内にもミガキが施されている。

26・27は、壺形土器の頸部片で、二条の沈線が巡らされている。内外面ともナデが施されている。26と27は、胎土や色調から判断して同一個体と考えられる。胎土には黒ウンモが特徴的に含まれている。

28は、外面に粘土紐の貼付が施されているものである。外面には二条の貼付が認められる。ひとつは横位



第27図 第3層出土遺物実測図③($S = 1/2$)

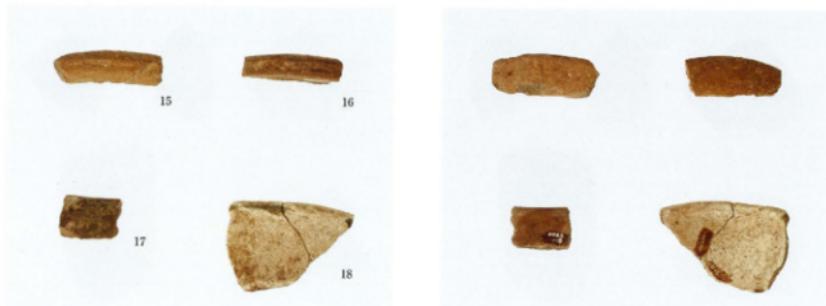


写真10 第3層出土遺物写真④(内面)



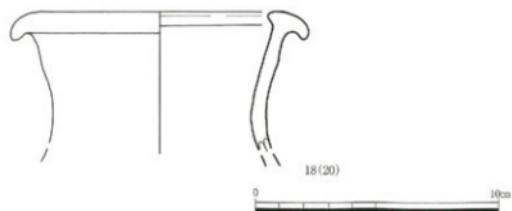
15(294)



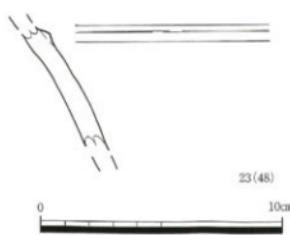
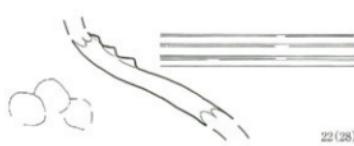
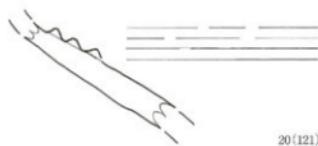
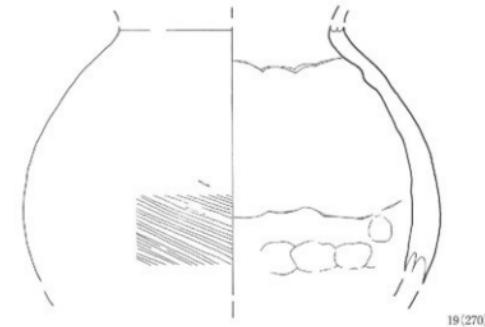
16(59)



17(118)



第28図 第3層出土遺物実測図④(S=1/2)



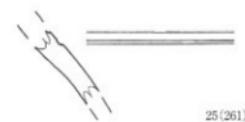
第29図 第3層出土遺物実測図⑤(S = 1/2)



写真13 第3層出土遺物写真⑥(外面)



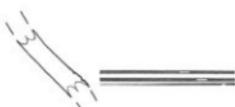
写真14 第3層出土遺物写真⑥(内面)



25(261)



26(262)



27(258)



28(84)



29(308)



第30図 第3層出土遺物実測図⑤(S=1/2)

図面No.	取扱いNo.	器種	複合堆量(cm)	部類	色	外	色	四	各	内	色	質	形状	寸の値	出土層位	総 合
1	36	鐵形土器 (入出式)	破片	口縁部 口縁部底径22.5	1縁部 3YR4/2 3YR4/3 10YR4/2 2.5YR5/1 7.5YR5/4							鉛錠粒を含む	ウ・セ	内・ココナツのちナデ 外・工具によるナデ 口縁・ナデ 1縁・ナデ 2.5YR5/1 7.5YR5/4	輪状復元 焼成良好	3
2	153	鐵形土器 (入出式)	破片	口縁部 口縁部底径25	1縁部 3YR5/2 10YR4/1 7.5YR5/3 10YR5/4							鉛錠粒を含む	ウ・セ	内・工具によるナデ 外・工具によるナデ 口縁・ナデ 1縁・ナデ 2.5YR5/1 7.5YR5/4	輪状復元 焼成良好	3
3	60	鐵形土器 (入出式)	破片	口縁部 口縁部	7.5YR5/2 5YR5/4 10YR5/3 7.5YR5/4 7.5YR5/2							鉛錠粒を含む	企・セ セ・白・貝	内・T.貝によるナデ 外・ココナツ 口縁・工具によるナデ 1縁・ナデ 2.5YR5/1 7.5YR5/2	輪状復元 焼成良好	3
4	339	鐵形土器 (入出式)	破片	口縁部 口縁部	7.5YR5/2 5YR5/4 10YR5/3 7.5YR5/4 3YR5/2							鉛錠粒を含む	白・レ・キ	内・工具によるナデ 外・ココナツ 口縁・T.貝によるナデ 1縁・ナデ 2.5YR5/1 7.5YR5/4	輪状復元 焼成良好	3
5	23	鐵形土器 (入出式)	破片	口縁部 口縁部	7.5YR5/3 5YR5/3 5YR4/3 7.5YR5/3							鉛錠粒を含む	企・ウ・セ	内・ココナツのちナデ 外・ココナツ 口縁・ナデ 2.5YR5/1 5YR5/3	輪状復元 焼成良好	3
6	150	鐵形土器 (入出式)	破片	口縁部 口縁部	7.5YR5/2 5YR5/4 10YR5/3 7.5YR5/4							鉛錠粒を含む	企・白・ウ	内・ナデ 外・ナデ 口縁・ナデ 2.5YR5/1 5YR5/4	輪状復元 焼成良好	3
7	22	鐵形土器 (出縁口式)	破片	口縁部 口縁部	7.5YR5/3 7.5YR5/3 2.5YR4/1 7.5YR5/2 10YR5/2 7.5YR4/2							鉛錠粒を含む	白・セ	内・工具によるナデのちナデ 外・ココナツ 口縁・ココナツ 1縁・ナデ 2.5YR5/1 7.5YR4/2	輪状復元 焼成良好	3
8	125	鐵形土器 (出縁口式)	破片	口縁部 口縁部	7.5YR6/4 10YR6/3 10YR4/1 2.5YR5/2 7.5YR4/1 10YR4/2							鉛錠粒を含む	セ	内・工具によるナデのちナデ 外・ココナツ 口縁・工具によるナデ 1縁・ナデ 2.5YR5/1 7.5YR4/1	輪状復元 焼成良好	3
9	356	鐵形土器 (出縁口式)	破片	口縁部 口縁部	3YR4/1 2.5YR4/1 2.5YR4/2 3YR4/1							鉛錠粒を含む	白	内・ナデ 外・ココナツ 口縁・ココナツ 1縁・ナデ	焼成良好	3
10	230	鐵形土器 (出縁口式)	破片	軸部 軸部	7.5YR5/2 5YR4/2 10YR5/3 7.5YR5/3							鉛錠粒を含む	企・ウ・セ	内・工具によるナデのちナデ 外・ナデのちナデ 1縁・ナデ 2.5YR5/1 7.5YR5/3	輪状復元 焼成良好	3
11	312	鐵形土器	破片	底部	5YR5/4 7.5YR4/1 10YR5/3 3YR4/1 NS-0							鉛錠粒を含む	ウ・白	内・工具によるナデのちナデ 外・ツーベン付着のため状態は不明	輪状復元 焼成良好	3
12	235	鐵形土器	破片	底部	5YR5/4 7.5YR4/1 7.5YR4/1 7.5YR5/3 5YR5/4							鉛錠粒を含む	セ	内・工具によるナデ 外・工具によるナデ 1縁・ナデ 2.5YR5/1 5YR5/4	輪状復元 焼成良好	3
13	38	鐵形土器	破片	底部	5YR5/4 5YR5/4 10YR5/3 3YR5/2 7.5YR5/3							鉛錠粒を含む	セ・ウ	内・工具によるナデのちナデ 外・工具によるナデのちナデ	輪状復元 焼成良好	3
14	236	鐵形土器	破片	軸部	5YR5/3 7.5YR4/2 10YR5/2 5YR4/1 10YR5/1 2.5YR4/2							鉛錠粒を含む	セ・ウ・白	内・工具によるナデのちナデ 外・工具によるナデのちナデ	輪状復元 焼成良好	3
15	234	鐵形土器 (入出式)	破片	口縁部 口縁部	5YR5/4 7.5YR5/4 10YR6/2 5YR5/4							鉛錠粒を含む	セ・ウ・白 白・長	内・ココナツ 外・ナデ 口縁・ココナツ 1縁・ナデ 2.5YR5/1 5YR5/4	輪状復元 焼成良好	3

第6表 第3層出土遺物観察表①

図番No	出土箇所No.	性種	採取状況(cm)	部位	左	外	右	内	左	右	地質	測定値	調査	その他	出土辨別 種合
16	59	赤玉土器 (入来式)	破片	口縁部	SYTR4/3 SYTR5/3	-	SYTR5/3	口縁	SYTR4/3	-	金・ウ・白 セ	内・ココナデ 外・ココナデ 口縁・T.具によるナメのちナメ 口縁・火薙	焼き變形 焼成直好	3	
17	118	小器皿 (入来式)	破片	T.縁部	SYTR4/2 SYTR5/2	SYTR5/2	SYTR5/2	T.縁	SYTR5/2	-	白・ウ・白 セ	内・ココナデ 沈緑 外・T.具によるナメのちナメ 口縁・ココナデ 口縁・火薙	焼き變形 焼成直好	3	
18	30	変形土器	破片	T.縁部	SYTR6/3 SYTR6/2	SYTR6/3 SYTR6/2	SYTR6/1 SYTR6/3	T.縁	SYTR7/3 SYTR7/2	-	黒	輪形紋を含む 外・火薙のちナメ 口縁・ナメのちナメ	焼き變形 焼成不良	3	54
19	279	変形土器	破片	縁部	SYTR6/4 SYTR6/3 SYTR6/2 SYTR6/1 SYTR5/3	SYTR6/2 SYTR6/3 SYTR6/2 SYTR6/1 SYTR5/3	SYTR6/4 SYTR6/3 SYTR6/2 SYTR6/1 SYTR5/3	輪形紋を含む	ウ・セ・ホ リ・オホ	内・ナメ 外・ナメのちナメ 口縁・ナメのちナメ	輪形紋を含む 外・火薙によるナメのちナメ 口縁・ココナデ	焼き變形 焼成直好	3	285	
20	121	変形土器 (入来式)	破片	底部	SYTR5/3 SYTR5/2	SYTR5/3 SYTR5/2	SYTR6/1 SYTR5/3	底	SYTR6/1 SYTR5/3	-	白・シ・黒 リ・オホ	内・ナメ 外・ナメ 工具によるナメ 口縁・ナメ	焼き變形 焼成直好	3	
21	51	変形土器 (入来式)	破片	底部	SYTR6/4 SYTR6/3	SYTR6/4 SYTR6/3	SYTR6/4 SYTR6/3	底	SYTR7/2 SYTR7/1	-	白・シ	内・ナメ 外・T.具によるナメのちナメ 口縁・ナメ 工具によるナメ	焼き變形 焼成やや 火好	3	
22	28	変形土器 (入来式より 之口上がり过大)	破片	底部	SYTR5/4 SYTR5/3	SYTR6/4 SYTR6/3	SYTR6/4 SYTR6/3	底	SYTR7/4 SYTR7/3	-	白・ウ・ホ リ・オホ	内・上下のナメ 底圧 外・T.具によるナメ ナメ	焼き變形 焼成直好	3	
23	48	変形土器 (3種定)	破片	底部	SYTR5/2 SYTR5/1	SYTR6/1 SYTR6/0	SYTR6/1 SYTR6/0	底	SYTR7/4 SYTR7/3	-	白・セ リ・オホ	内・工具によるナメのちナメ 外・ナメ 突起・ナメ	焼き變形 焼成不直	3	
24	43	変形土器 (3種定)	破片	底部	SYTR5/3 SYTR5/2	SYTR6/2 SYTR6/1	SYTR6/3 SYTR6/2	底	SYTR7/4 SYTR7/3	-	白・ウ・ホ リ・オホ	内・工具によるナメのちナメ 外・ナメ 突起・ナメ	焼き變形 焼成直好	3	
25	261	変形土器	破片	底部	SYTR4/2 SYTR6/2	SYTR6/2 SYTR6/1	SYTR6/3 SYTR6/2	底	SYTR7/4 SYTR7/3	-	白・シ リ・オホ	内・ナメ 外・ナメ 沈緑	焼き變形 焼成直好	3	
26	262	変形土器	破片	底部	SYTR5/4 SYTR5/3	SYTR6/4 SYTR6/3	SYTR6/4 SYTR6/3	底	SYTR7/4 SYTR7/3	-	白	内・ナメ 外・ナメ 沈緑	焼き變形 焼成直好	3	
27	258	変形土器	破片	底部	SYTR5/3 SYTR5/2	SYTR6/3 SYTR6/2	SYTR6/3 SYTR6/2	底	SYTR7/4 SYTR7/3	-	白	内・ナメ 外・ナメ 沈緑	焼き變形 焼成直好	3	
28	84	輪形紋器皿	破片	底部	SYTR5/4 SYTR5/3	-	SYTR6/2 SYTR5/3	底	SYTR7/4 SYTR7/3	-	白・黒	内・ナメ 外・ナメ 突起・ナメ	焼き變形 焼成直好	3	
29	308	高环形土器	破片	底部	SYTR5/4 SYTR5/3	SYTR6/6 SYTR6/5	SYTR5/3 SYTR5/2	底	SYTR7/4 SYTR7/3	-	白	内・T.具によるナメ 外・工具によるナメ	焼き變形 焼成直好	3	

第7表 第3層出土遺物観察表②

に延びるものがあり、その下位には左斜め下から右斜め上へ延びるもののが認められる。後者の末端は末細り状となっている。

29は、古墳時代に帰属する成川式土器様式の高坏の破片と考えられる^⑩。破片下部には、脚部との接合痕が認められる。外面には丹塗りが認められる。

註^⑩ 鹿児島国際大学の中園聰教授から御教示頂いた。

(ii) 軽石製加工品（第31～33図）

30から33までは軽石製加工品である。

30は、不整形な梢円形を呈している軽石製加工品である。a面には少なくとも2枚の剥離痕が認められるが、意図されたものかは確実ではない。b面全体は他の面と比較して滑らかで平坦であり、磨面として利用されていたと考えられる。f面の断面観察からも磨面であるb面が他の面と比較して平坦であることが看取できる。30の上端部と下端部とは割れた状態で出土している。（写真80）

31は、不整形な梢円形を呈している軽石製加工品である。a面には剥離痕や磨面は認められない。b面に上下両端には剥離痕が認められる。その剥離痕の加撃方向は、b面の上端部と下端部からである。b面中央部は他の面と比較して滑らかで平坦であり、磨面として利用されていたと想定できる。

32は、円形に近い形状を呈している軽石製加工品である。a面は表面で凸面を呈し、b面は主要剥離面である。a面・b面ともに磨面が認められる。f面の断面観察から、a面は円弧状をb面はほぼ平坦面な磨面であることが看取できる。

a面の上下両端には剥離面が認められ、意図的に整形したことも考えられる。

33は、不整形の形状を呈している軽石製加工品である。a面は表面で凸面であり、f面の断面観察から円弧状を呈していることが看取できる。他の面と比較して滑らかであることから、30・31・32と同様に磨面として利用されていたと考えられる。b面は、b面下端部からの加撃による剥離面が認められる。

30から33の軽石製加工品の観察によると、次のような特徴が認められる。

- ・形状は梢円形あるいは円形を呈している。
- ・磨面が認められる面の断面は、円弧状を呈している面と平坦な面の2種類が認められる。
- ・a面・b面の両面あるいは、どちらか片面の上下両端部分に剥離痕が認められる。敲打することによって剥離されたものと考えられる。
- ・これらのことから、これらの軽石製加工品は、磨る・敲打する道具としての用途が想定できる。

(iii) 石器（第33図）

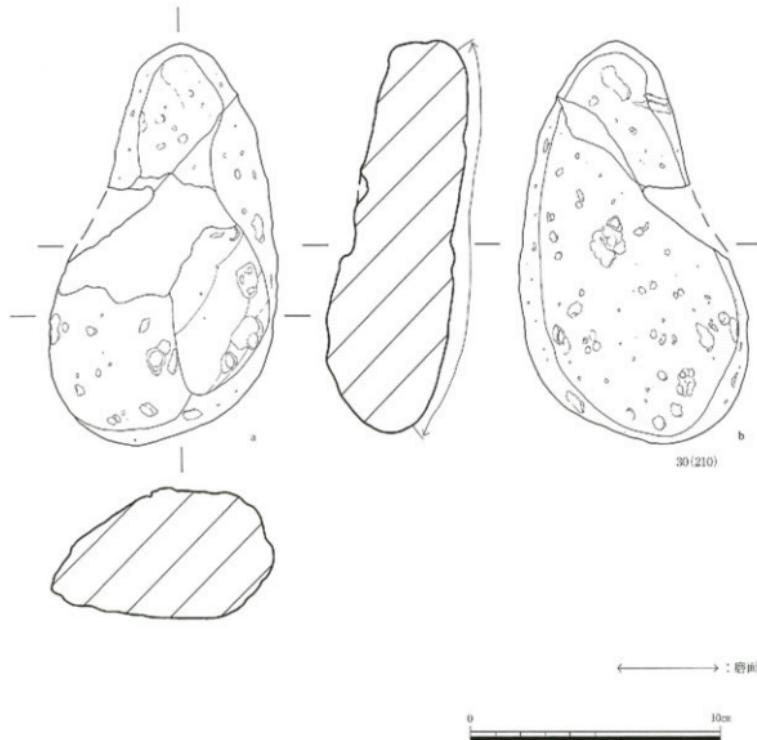
33は黒曜石製の剥片である。中尾追遺跡では唯一の黒曜石製の石器である。打面はd面側からの加撃による単剥離打面である。a面はe面（打面）側からの加撃による剥離面によって構成されており、a面中央部の剥離面はウートゥラ・バッセ状（割れすぎ）となっている。この剥片自体も石核から剥離する際にウートゥラ・バッセ状に剥離している。d面に自然面が認められ、ほぼ平坦であることから石核の素材が角礫の可能性が考えられる。c面にはe面側とf面（打面と反対面）側からの加撃による剥離面が認められる。b面左側縁には新しい剥離痕が認められるのみで、当時の使用痕や二次加工は認められない。



写真15 第3層出土遺物写真⑦(表面)



写真16 第3層出土遺物写真⑦(裏面)



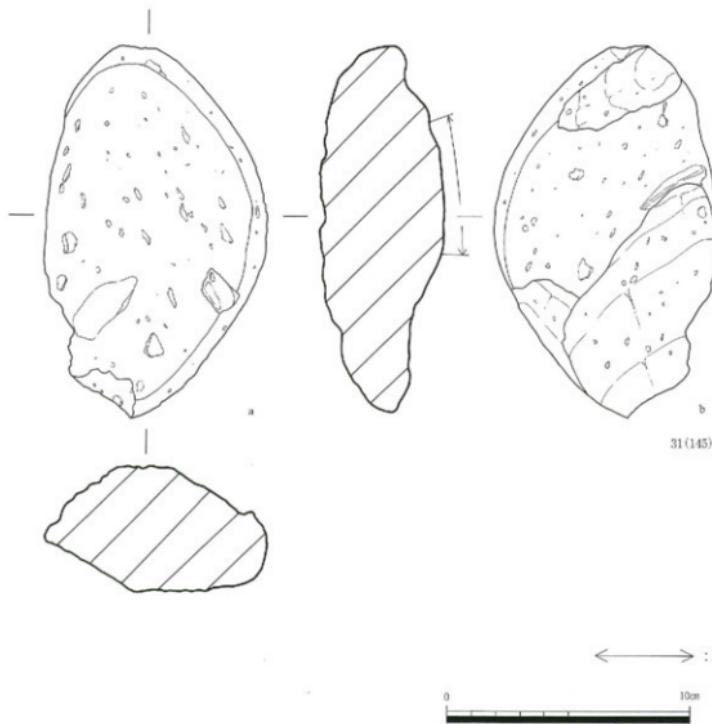
第31図 第3層出土遺物実測図⑦(S=1/2)



写真17 第3層出土遺物写真⑧(表面)



写真18 第3層出土遺物写真⑧(裏面)



第32図 第3層出土遺物実測図⑧($S = 1/2$)

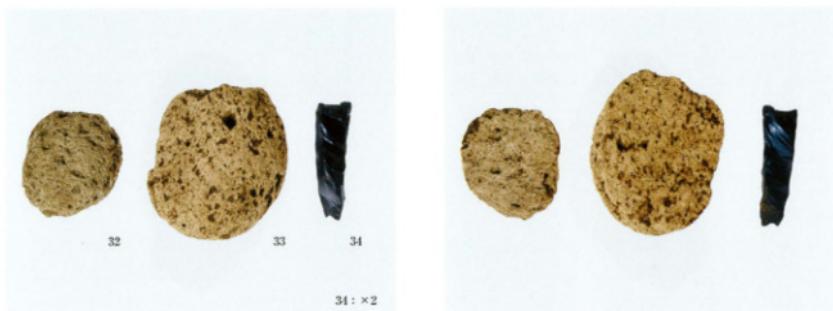
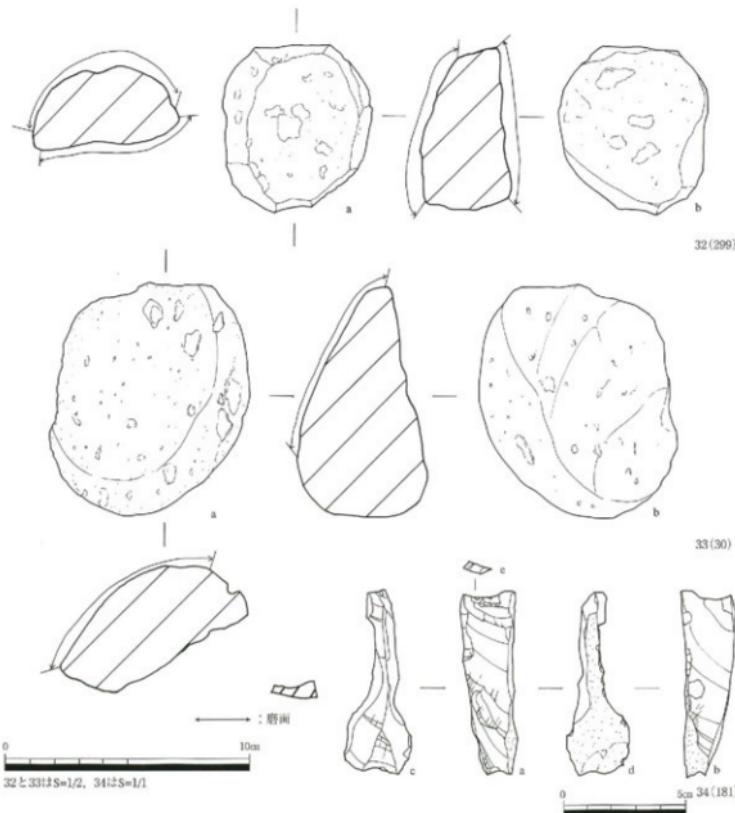


写真19 第3層出土遺物写真⑨(表面)

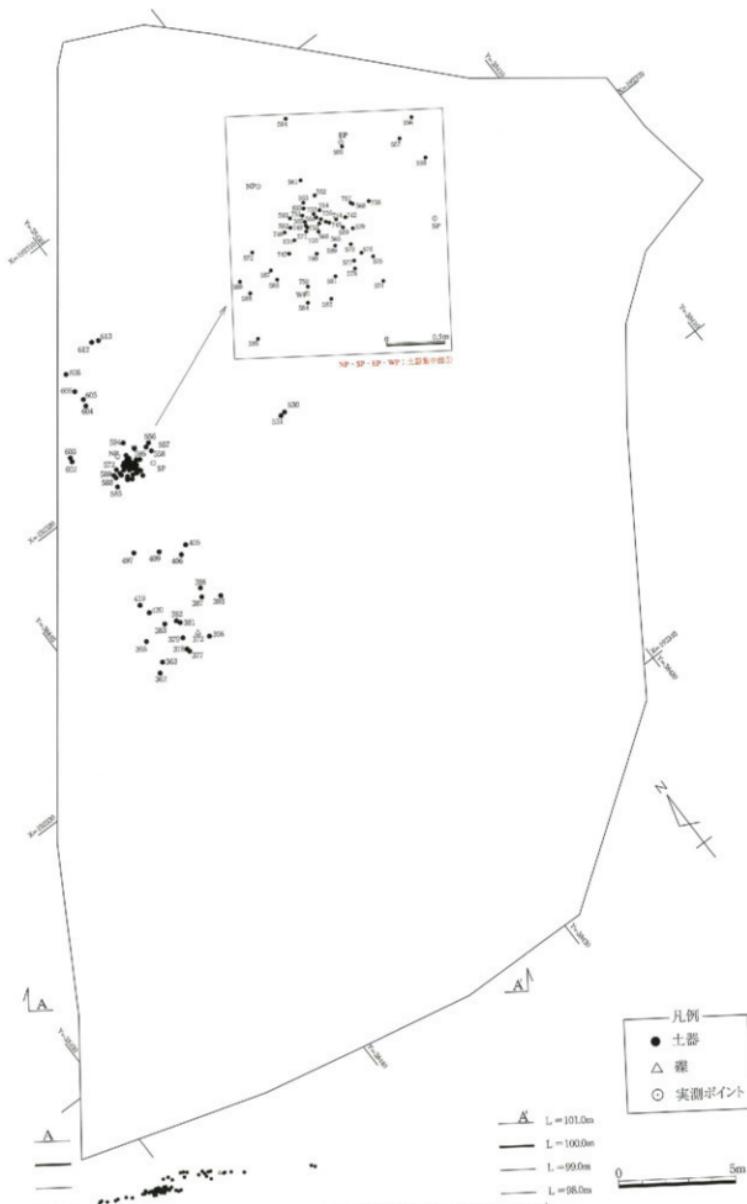
写真20 第3層出土遺物写真⑨(裏面)



第33図 第3層出土遺物実測図⑨(S = 1/2・1/1)

No.	取土ノゾウ	器種	石材	法量(cm)	重量(g)	打面形状	調整・加工	使用範	層	備考
30	210	研石製加工品	鈣石	最大長：16.0 最大幅：9.0 最大厚：5.0	230		磨面		3	
31	145	研石製加工品	鈣石	最大長：15.1 最大幅：9.3 最大厚：5.2	230	刮面	磨面		3	
32	299	研石製加工品	鈣石	最大長：6.9 最大幅：6.2 最大厚：3.5	60		磨面		3	
33	30	研石製加工品	鈣石	最大長：9.6 最大幅：8.2 最大厚：5.3	140		磨面		3	
34	181	調片	黑曜石	最大長：3.8 最大幅：1.2 最大厚：1.3	333	單調査			3	

第8表 第3層出土遺物觀察表③



第34図 第3層上部出土遺物分布図 (S = 1/200)



写真21 第3層上部出土遺物写真①(外面)



写真22 第3層上部出土遺物写真①(外面)



第35図 第3層上部出土遺物実測図①(S=1/2)



写真23 第3層上部出土遺物写真②(外面)

写真24 第3層上部出土遺物写真②(内面)



第36図 第3層上部出土遺物実測図②(S=1/2)

④第3層下部出土遺物（第37～47図）

中尾追跡の第3層下部から出土した遺物は、総点数で261点である。「第3層下部」出土として取り上げた遺物は下記のような状況のものである。第3層下部の層中には、開聞岳火山性噴出物の暗紫コラの火山礫が混在している。第3層下部出土遺物は、山之口式土器と入来Ⅱ式土器が包含されている弥生時代中期の遺物包含層である。第3層下部の出土遺物平面・垂直分布図は第37図のとおりである。

なお、出土遺物の注記で「凹マイ3下・遺物番号」というものがあるが、これは、先述した土坑（27頁・第15図）を第4層上面で検出した初期段階で、遺構内から出土した遺物に対して用いている。土坑の埋土は確実に第3層下部であったことから、土坑の埋土出土遺物ではあるが「土坑埋土の第3層下部からの出土遺物」という意味合いを持たせるために、取り上げ層位をそのように記録して注記した。なお、遺構内出土遺物の注記は、この他に「凹マイ4層」「凹マイ」「マイド」があり、出土点数は19点である。

まずは、その土坑内出土遺物を報告して、その後に「第3層下部」の出土遺物を報告する。

（i）遺構埋土出土遺物（第38図）

土坑の検出段階において、その土坑埋土中から出土した遺物は15点である。次の2点を図示した。

40は、壺形土器の頸部突帯部片である。三条の幅広な三角突帯が巡らされており、丁寧なヨコナデによってシャープさに欠けている。

41は、壺形土器の頸部突帯部片である。三条の三角突帯が巡らされている。突帯の幅は狭く、各突帯の間隔も狭い。

（ii）土器（第39～44図）

42から53までは壺形土器の口縁部並びに胴部片である。54から62までは壺形土器の口縁部並びに頸部片である。63から67は脚台である。68は、土器集中部②から出土した一括資料の土器である壺形土器である。

・壺形土器（第39～41図）

42から48までは、口縁部と肥厚部の形態等から、入来Ⅱ式土器の壺形土器と考えられる。

42は、壺形土器の口縁部から胴部にかけての破片である。推定口縁部径は約22.4cmを測る。口縁部上部及び内外面は、横位のナデが施されている。また、口縁部内面には、ユビオサエの痕跡が残り、そのユビオサエによって内面口縁部端部に棱が形成されている。口唇部端部は丸みを帯びている。

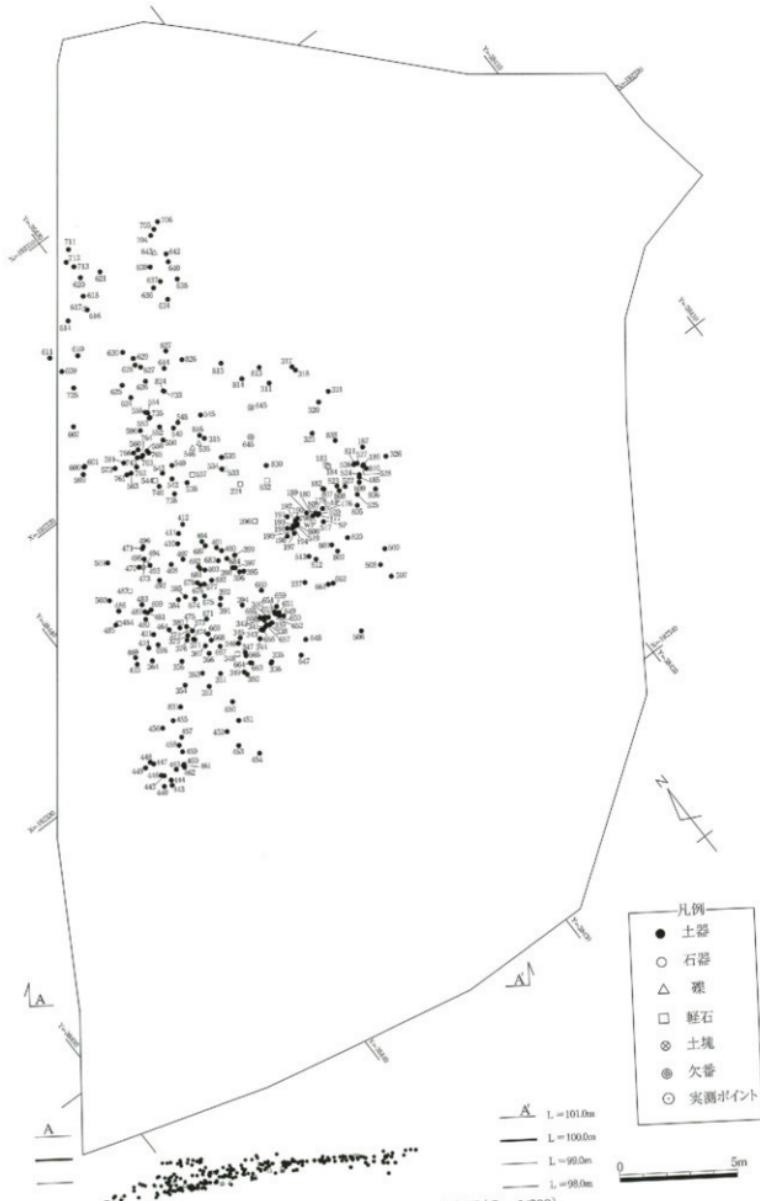
43は、壺形土器の口縁部から胴部にかけての破片である。口唇部端部には一条の沈線が認められている。胴部には三条の三角突帯が巡らされている。内には斜位のハケ目が、外には横位のハケ目が認められる。内面口縁部端部にはユビオサエの痕跡が残る。371と650の2点接合である。

44は、壺形土器の口縁部から胴部にかけての破片である。口唇部端部には一条の沈線が認められている。胴部には二条の三角突帯が巡らされている。胎土に金ウンモが認められる。

45は、壺形土器の口縁部片である。口唇部端部は丸みを帯びておらず一条の沈線が認められる。その下位には工具によるキザミが施されている。胴部には一条の三角突帯が巡らされているが、本数が増える可能性がある。

図版No.	取上げNo.	基種	直角法値(cm)	形状	色	外	色	内	色	肉	色	性	泥土粒	混在材	調査	出土層位	総合	
40	536	壺形土器	破片	底部 突帯部	7SYR4/2	7SYIG3/2	10YRA4/1	10YRS3/3	黒赤	黄赤	白	カーペ	圓錐形を含む	内・工具にユビオサエのちナデ 外・工具にユビオサエ 突帯・工具にユビオサエ	引き凝固	凹マイ3下 相成良好		
41	533	壺形土器 (入来Ⅱ式)	破片	底部 突帯部	7SYR4/2	7SYIG3/2	7SYRS3/2	7SYRS3/3	黒赤	黄赤	白	カーペ	圓錐形を含む	内・ナデ 外・コロナデ 突帯・ユビオサエ	内・ナデ 外・コロナデ 突帯・ユビオサエ	引き凝固	凹マイ3下 相成良好	

第10表 第3層下部遺構埋土出土遺物観察表



第37図 第3層下部出土遺物分布図 (S=1/200)



40



41



写真25 第3層下部遺構埋土出土遺物写真(外面)



写真26 第3層下部遺構埋土出土遺物写真(里面)



40 (838)



41 (523)



第38図 第3層下部遺構埋土出土遺物実測図(S=1/2)

ある。内面口縁部端部には、ユビオサエの痕跡が残る。

46は、壺形土器の口縁部片である。口唇部端部はヨコナデによって整形され、肥厚部断面形態は概ね四角形を呈している。口唇部下部には工具によるキザミが施されている。内面口縁部端部はヨコナデによる稜が形成されている。特記すべき点として、外面口縁部直下には、幅0.9~1cmの帯状の炭化物が付着している。炭化物付着位置とそのあり方を含め壺形土器の用途方法を探ることができよう。

47は、壺形土器の口縁部片である。口唇部端部には一条の沈線が認められる。口縁部上部及び内面側も丸みを帯びている。

48は、壺形土器の口縁部から胴部にかけての破片である。口縁部の断面形態は、略三角形を呈している。口唇部端部には一条の沈線が認められている。胴部には三条の三角突帯が巡らされている。胎土に金ウンモが認められる。内外面ともヨコナデが施されている。

49から53は壺形土器の胴部突帯部片である（第41図）。

49は壺形土器の胴部突帯部片である。一条の三角突帯が巡らされている。内外面ともナデが認められる。

50は、壺形土器の胴部突帯部片である。一条の三角突帯が巡らされている。突帯部にはユビオサエによる爪の圧痕が若干認められ、併せてヨコナデが認められる。内外面ともナデが認められる。

51は、壺形土器の胴部突帯部片である。二条の三角突帯が巡らされ、突帯には工具によるキザミが施されている。内外面ともナデが認められる。

52は、壺形土器の胴部突帯部片である。二条の三角突帯が巡らされ、シャープに整えられている。内外面ともナデが認められる。

53は、壺形土器の胴部突帯部片である。二条の三角突帯が巡らされ、52と同様にシャープに整えられている。突帯の一部は継位方向からにより削られている。

・土器集中部②出土の壺形土器（第44図）

68は、土器集中部②（37頁・第24図）から一括出土した壺形土器である。口縁部から胴部上部までの大部分が残存しており、ほぼ土器集中部から出土した土器は接合ができる。胴部下部から脚台部分は、出土遺物の中には接合するものは認めなかった。68は、口縁部が外反し、頸部内面には緩い稜が認められるが、全周には巡らない。口唇部は丸みを帯びている。外面には継位、斜位、横位方向のハケ目が顕著に認められる。内面にもハケ目が認められる。

・壺形土器（第41・42図）

54から56までは壺形土器の口縁部片である（第41図）。54から56は口縁部や肥厚部の形態等から入来Ⅱ式土器に含まれると考えられる。なお、胎土からは3点とも異なる個体のものと判断できる。

54は、壺形土器の口縁部片であり、やや外反する。口唇部端部には、一条の沈線が施されている。内外面ともヨコナデが顕著に認められる。

55は、壺形土器の口縁部片であり、やや外反する。口唇部端部には、一条の沈線が施されている。内外面ともヨコナデが顕著に認められる。胎土には最大で5mmを越す小礫が混在している。

56は、壺形土器の口縁部片であり、やや外反する。口唇部端部には、一条の沈線が施されている。内外面ともヨコナデが顕著に認められる。胎土には黒曜岩片が混在している。

57から62までは、壺形土器の頸部突帯部片で、三角突帯が巡らされている（第42図）。

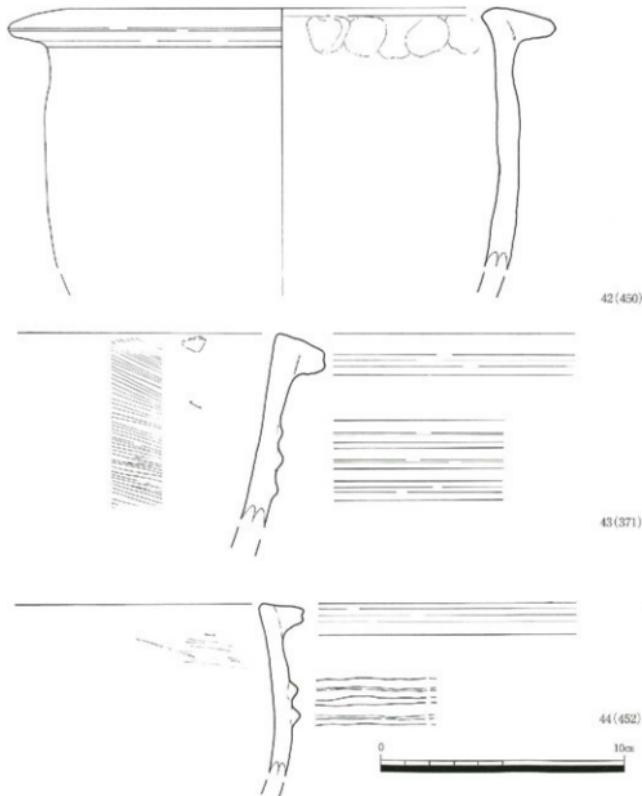
57は、壺形土器の頸部突帯部片である。三条の三角突帯が巡らされている。比較的突帯の高さが高い。外面には口縁部へ延びる稜が若干認められる。外面の突帯上部にはハケ目が認められる。

58は、壺形土器の頸部突帯部片である。二条の三角突帯が巡らされている。突帯間はヨコナデが顕著に認められる。



写真27 第3層下部出土遺物写真①(外面)

写真28 第3層下部出土遺物写真①(内面)



第39図 第3層下部出土遺物実測図①(S = 1/2)

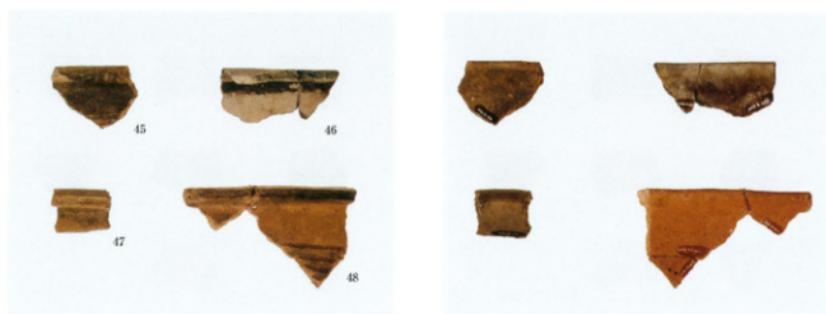
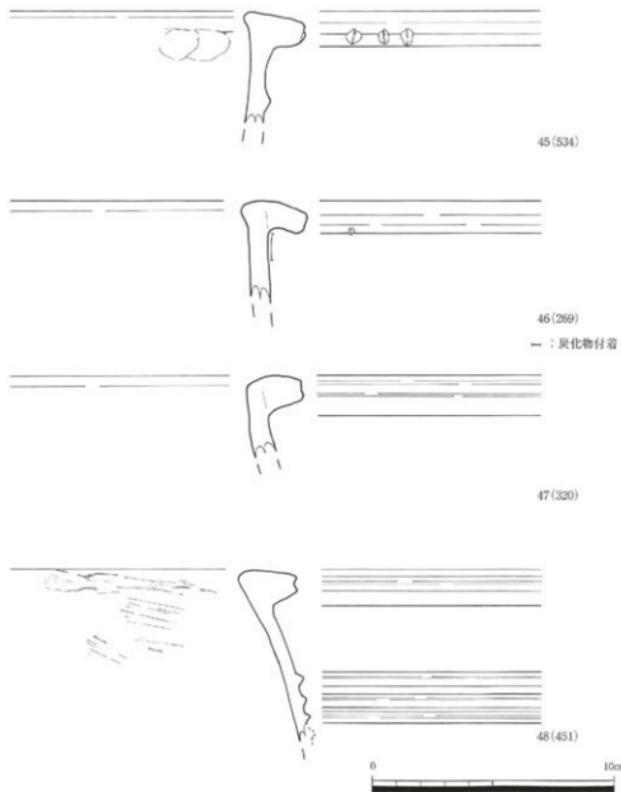


写真29 第3層下部出土遺物写真②(外面)

写真30 第3層下部出土遺物写真③(内面)



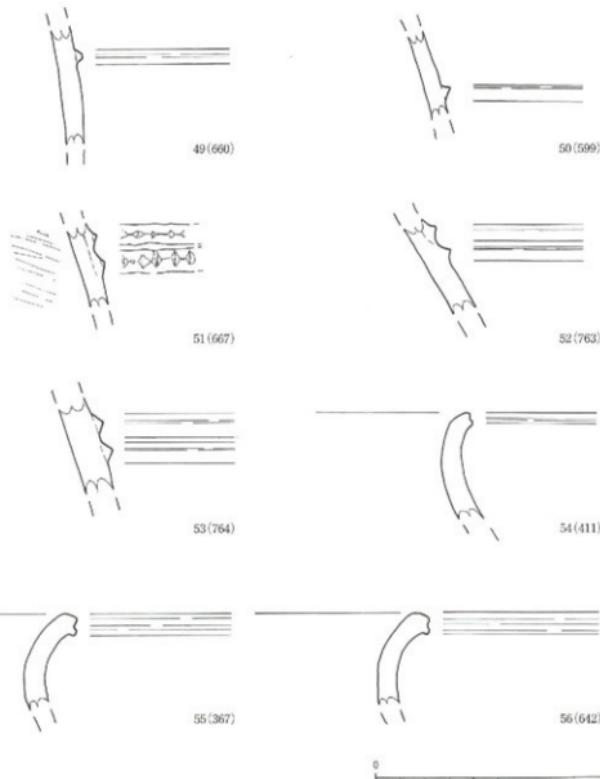
第40図 第3層下部出土遺物実測図②(S=1/2)



写真31 第3層下部出土遺物写真③(外面)



写真32 第3層下部出土遺物写真③(内面)



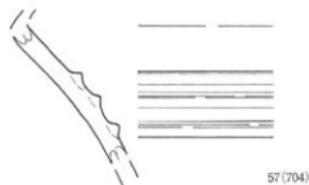
第41図 第3層下部出土遺物実測図③(S = 1/2)



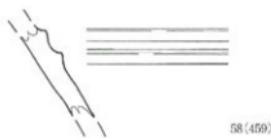
写真33 第3層下部出土遺物写真④(外面)



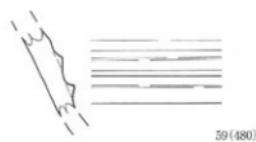
写真34 第3層下部出土遺物写真④(内面)



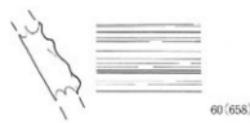
57(704)



58(459)



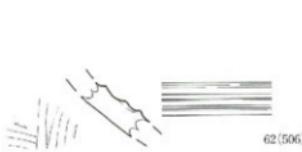
59(480)



60(658)



61(678)



62(506)



第42図 第3層下部出土遺物実測図④(S=1/2)

59は、壺形土器の頸部突帯部片である。二条の三角突帯が巡らされている。割れ面の観察によると、突帯の添付のあり方が読み取れる。それによると、突帯幅の粘土紐ではなく、それより幅のある粘土紐を土器全体にへばり付けるように貼付させている。突帯自体の厚さは約5mmを測る。

60は、壺形土器の頸部突帯部片である。四条の三角突帯が巡らされている。口縁部から一条目と二条目の突帯間に、工具による横位方向の沈線状の痕跡が認められるため、断面形態は逆台形状を呈している。

61は、壺形土器の頸部突帯部片である。四条の三角突帯が巡らされている。外面にはヨコナデが顕著に認められる。突帯間にても同様なヨコナデが認められ、ヨコナデによって引きづられた小縫が認められる。内面は、やや剥落が認められる。

62は、壺形土器の頸部突帯部片である。四条の三角突帯が巡らされている。他の資料と比較して比較的突帯の高さが低く、約1.5mmしかない。内面には工具によるナデが認められる。

・脚台（第43図）

63から67は脚台である。

63は、いわゆる充実した脚台である。外面には縱位方向のナデが顕著に認められる。底部の外端は肥厚させて丸みを帯びている。外端はヨコナデが施され、上部には稜が認められる。底面はほぼ平坦な平底であり、丁寧にナデ整形されている。底部内面には、炭化物が付着している。入来Ⅱ式土器の範疇に含まれる壺形土器の脚台と考えられる。

64は、いわゆる充実した脚台である。外面は工具によるハケ目後のナデが認められる。底面の外端は、ナデが施され、底面にいくにつれすぼまる。底面はほぼ平坦な平底であり、工具によるナデが認められる。0.5~1cm大の小縫が胎土中に顕著に認められる。

65は、脚台の破片である。外面は縱位のナデが顕著に認められる。底面は若干上げ底になっている。

66は、脚台の破片である。外面は縱位のナデが認められる。底面は残存部分が少ないため、平底か上げ底かは判別がつかない。

67は、脚台の破片である。底部の外端は肥厚させており、端部はヨコナデによってほぼ平坦に整えられている。底面は、平底である。

(三) 軽石製加工品（第45~47図）

69から73までは軽石製加工品である。

69は、半円形を呈した軽石製加工品である。半分が欠損しているため本来は円形を呈していたものと考えられる。a面には、面取り加工・整形と思われる剥離痕が認められる。また、本来は中央部に穿孔してあったと思われる孔がa面右側に認められる。d面の観察によると、穿孔は長さ約4cm、幅約1.2cmではほぼ円形であったと考えられる。磨面として使われたような面は認められない。

70は、梢円形を呈した軽石製加工品である。a面とb面の中央部面は、側面と比較して滑らかで平坦である。特に、b面中央部面は、やや円弧状に窪んでおり、a面より滑らかである。これらの面は磨面として利用されていたと考えられる。

71は、長梢円形を呈した軽石製加工品である。a面・b面の下端部には剥離面が認められる。また、a面・b面中央部には、窪みが認められる。これは、69と同様でa面・b面を貫通する穿孔を意図したものであると推測できる。よって、穿孔の途中段階のものと考えることもできよう。

72は、不整形を呈した軽石製加工品である。b面には、多方向からの剥離痕が認められ、何らかの形態を意図した加工・整形が施されていたものと考えられる。目的とした用途については不明である。

73は、梢円形を呈した軽石製加工品である。a面とb面は円弧状を呈した磨面と考えられる。両面とも平坦ではなく、ねじれた面を呈している。断面形態では、ほぼ梢円形を呈する。

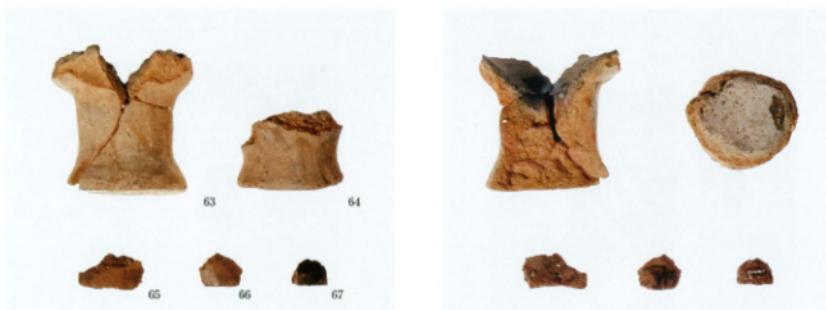
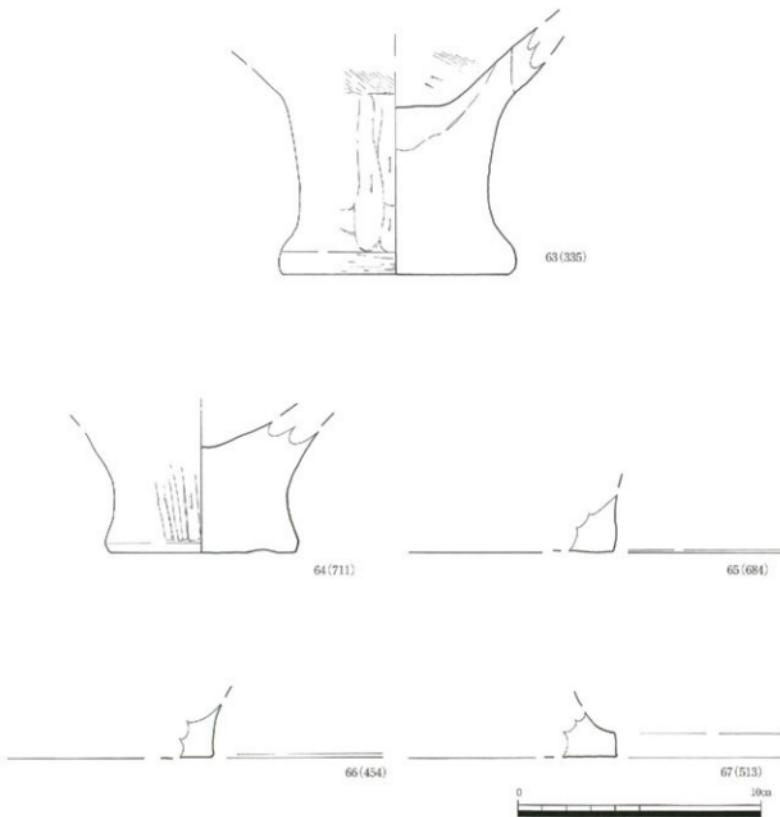


写真35 第3層下部出土遺物写真⑤(外面)

写真36 第3層下部出土遺物写真⑤(内面・断面)



第43図 第3層下部出土遺物実測図⑤(S=1/2)

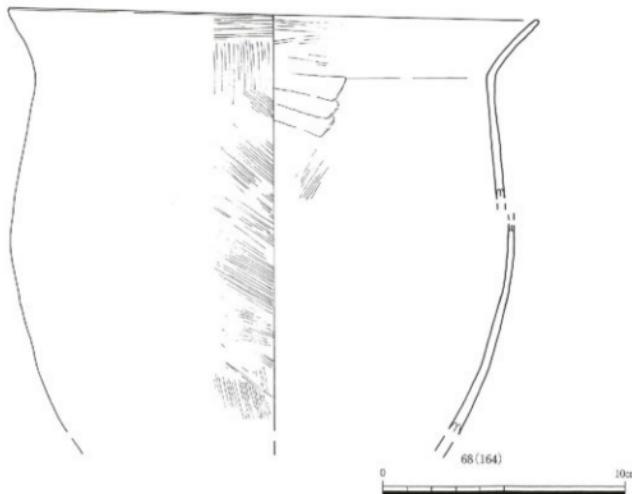


68

写真37 第3層下部出土遺物写真⑥(外面)



写真38 第3層下部出土遺物写真⑥(外面)

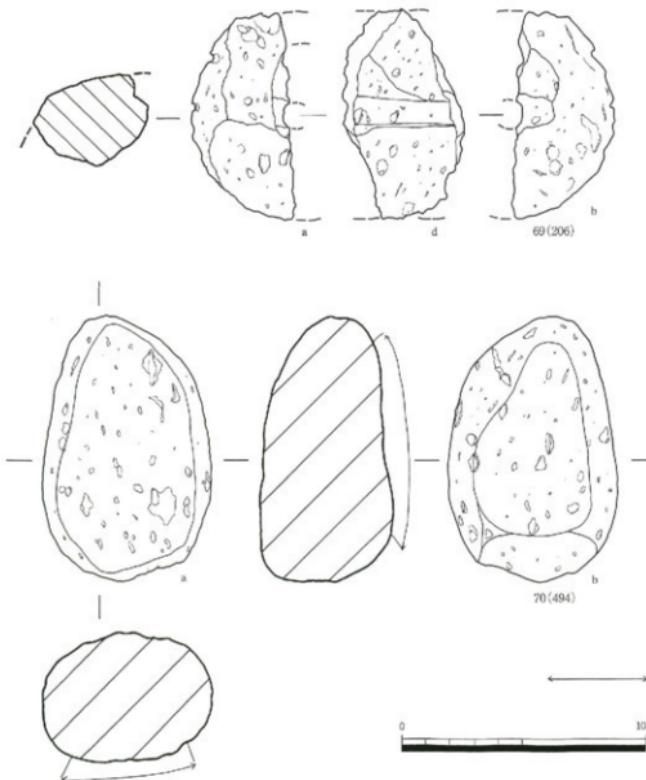


第44図 第3層下部出土遺物実測図⑥(S=1/2)



写真39 第3層下部出土遺物写真⑦(表面)

写真40 第3層下部出土遺物写真⑦(側面・裏面)



第45図 第3層下部出土遺物実測図⑦(S=1/2)



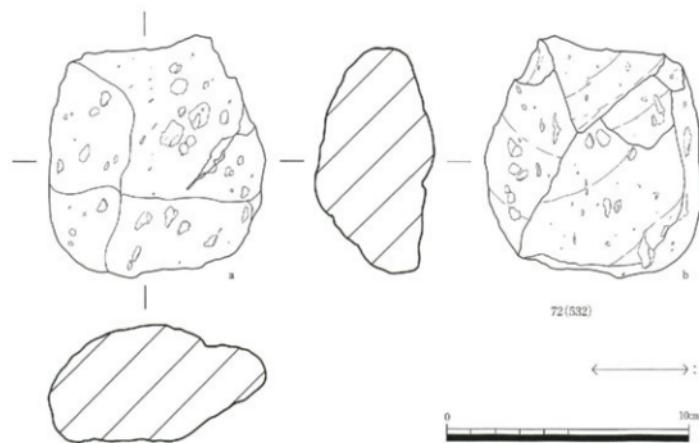
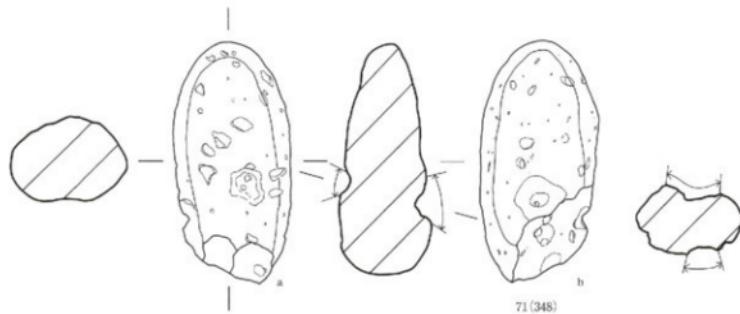
71



72

写真41 第3層下部出土遺物写真⑧(表面)

写真42 第3層下部出土遺物写真⑨(裏面)

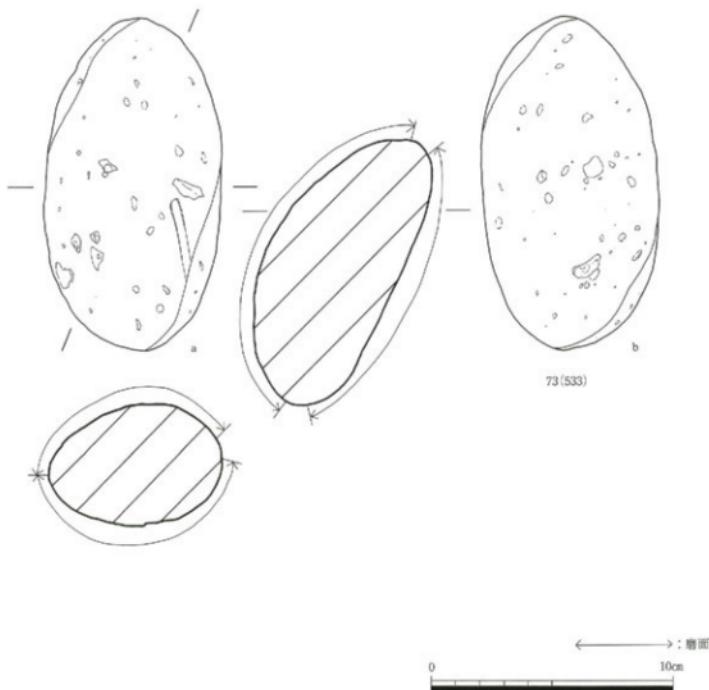


第46図 第3層下部出土遺物実測図⑧(S=1/2)



写真43 第3層下部出土遺物写真⑨(表面)

写真44 第3層下部出土遺物写真⑩(表面)



第47図 第3層下部出土遺物実測図⑨($S = 1/2$)

図面No.	出土物No.	器種	複合性質(cm)	部位	色	外	色	内	色	内	色	性	出土状況	調査	その他	出土層段	枚 合			
42	450	織物土器 (入糸上式)	1/4段芯 織物復元後H224	口縁部 10YR6/3 25YR5/2	7SYR4/1 7SYR4/2 10YR4/1 30YR4/2	青紺板も若干含む	ウ	白	ナダ	ユビキナダ	内・ナダ	内・ナダ	内・ナダ	内・ナダ	織き継ぎ 復元良好	3下				
43	371	織物土器 (入糸上式)	破片	口縁部 先端部	7SYR4/2 SYR4/2 7SYR5/2	SYR5/4 SYR4/2 7SYR5/2	微砂粒を含む	セ・白	内	工具によるナダ	内	工具によるナダ	外・ナダ	外・ナダ	外・ナダ	内・ナダ	織き継ぎ 復元良好	3下	400	
44	452	織物土器 (入糸上式)	破片	口縁部 先端部	SYR4/1 SYR4/2 7SYR4/1 10YR5/3 7SYR4/2 7SYR5/2	SYR4/2 SYR4/2 7SYR4/2 10YR5/3 7SYR4/2 7SYR5/2	微砂粒を含む	金・白	内	工具によるナダのちナダ	内	工具によるナダ	外・ナダ	外・ナダ	外・ナダ	内・ナダ	織き継ぎ 復元良好	3下		
45	534	織物土器 (入糸上式)	破片	口縁部 先端部	N3/0 7SYR4/2 N3/0 10YR5/2 25YR5/2 10YR5/2	7SYR4/2 7SYR4/2 10YR5/2 10YR5/2 25YR5/2 10YR5/2	微砂粒を含む	ウ・白・セ	内	ナダ	ビスピナダ	内	ナダ	外・ナダ	外・ナダ	外・ナダ	内・ナダ	織き継ぎ 復元良好	3下	
46	569	織物土器 (入糸上式)	破片	口縁部 先端部	10YR5/2 25YR4/1 10YR5/2 10YR5/2 7SYR5/2	25YR4/1 10YR5/2 10YR5/2 10YR5/2 7SYR5/2	微砂粒を含む	セ	内	コナダ	内・ナダ	内	ナダ	外・ナダ	外・ナダ	外・ナダ	内・ナダ	織き継ぎ 復元良好	3下	361
47	320	織物土器 (入糸上式)	破片	口縁部 先端部	SYR3/1 7SYR5/2 10YR5/2 7SYR5/2	7SYR5/2 10YR5/2 10YR5/2 7SYR5/2	微砂粒を含む	セ・ウ	内	コナダのちナダ	内	コナダ	外・コナダ	外・コナダ	外・コナダ	内・コナダ	織き継ぎ 復元良好	3下		
48	451	織物土器 (出糸上式)	破片	口縁部 先端部	SYR5/1 25YR5/6 SYR5/4 SYR5/2	25YR5/4 SYR5/4 10YR5/4 10YR5/2	微砂粒を含む	金・白・セ	内	ナダ	内・ナダ	内	ナダ	外・コナダ	外・コナダ	外・コナダ	内・ナダ	織き継ぎ 復元良好	3下	90
49	660	織物土器 (入糸上式)	破片	側部 先端部	10YR5/2 25YR5/1 7SYR4/1 10YR5/2	25YR5/1 25YR5/4 7SYR4/1 10YR5/2	微砂粒を含む	白・セ	内	ナダ	内・ナダ	内	ナダ	外・コナダ	外・コナダ	外・コナダ	内・ナダ	織き継ぎ 復元良好	3下	
50	599	織物土器 (入糸上式)	破片	側部 先端部	25YR5/1 7SYR4/1 10YR5/2	10YR5/2 25YR4/1 10YR5/2	微砂粒を含む	白・セ	内	ナダ	内・ナダ	内	ナダ	外・コナダ	外・コナダ	外・コナダ	内・ナダ	織き継ぎ 復元良好	3下	
51	667	織物土器 (入糸上式)	破片	側部 先端部	7SYR5/2 7SYR5/3 7SYR5/3	7SYR5/2 7SYR5/3 7SYR5/3	微砂粒を含む	白・セ	内	ナダ	内・ナダ	内	ナダ	外・コナダ	外・コナダ	外・コナダ	内・ナダ	織き継ぎ 復元良好	3下	
52	763	織物土器	破片	側部 先端部	7SYR4/1 10YR5/2 7SYR4/2	5YR5/3 10YR4/2	微砂粒を含む	白・セ・長	内	ナダ	内・ナダ	内	ナダ	外・コナダ	外・コナダ	外・コナダ	内・ナダ	織き継ぎ 復元良好	3下	
53	754	織物土器	破片	側部 先端部	7SYR4/1 7SYR4/2 SYR5/2	7SYR4/2 7SYR4/2 SYR5/2	微砂粒を含む	セ・ウ	内	ナダ	内・ナダ	内	ナダ	外・コナダ	外・コナダ	外・コナダ	内・ナダ	織き継ぎ 復元良好	3下	
54	411	織物土器 (入糸上式) Iの可能性あり	破片	口縁部 先端部	7SYR4/2 7SYR5/4 25YR5/3 SYR5/2	7SYR5/4 7SYR5/4 25YR5/3 SYR5/2	微砂粒を含む	セ・白	内	ボナダ	内・ボナダ	内	ボナダ	外・コナダ	外・コナダ	外・コナダ	内・ボナダ	織き継ぎ 復元良好	3下	
55	367	織物土器 (入糸上式) Iの可能性あり	破片	口縁部	10YR5/2 10YR5/2 10YR5/2 7SYR5/3	10YR5/2 10YR5/2 10YR5/2 7SYR5/3	10YR5/4 10YR5/4 10YR5/4 7SYR5/3	セ・長・ 白・白・小レ	内	コナダ	内・コナダ	内	ナダ	外・ボナダ	外・ボナダ	外・ボナダ	内・ナダ	織き継ぎ 復元良好	3下	
56	642	織物土器 (入糸上式) Iの可能性あり	破片	口縁部	SYR5/4 10YR5/2 10YR5/2 25YR4/2 7SYR5/3	10YR5/2 10YR5/2 10YR5/2 25YR4/2 7SYR5/3	10YR5/4 10YR5/4 10YR5/4 25YR4/2 7SYR5/3	セ・長・ 白・黑墨石	内	コナダ	内・コナダ	内	ナダ	外・ボナダ	外・ボナダ	外・ボナダ	内・ナダ	織き継ぎ 復元良好	3下	

第11表 第3層下部出土遺物観察表①

図面No.	取上げNo.	器種	残存法長(cm)	部次	色 外	色 内	色 肉	色 乳	出土段	複数材	調査	その他	出土部位	層
57	764	変形土器	破片	頂部 安定期	7SYRS/3 7SYR6/1	7SYRS/3 7SYR6/1	7SYRS/3 7SYR6/1	7SYRS/3 7SYR6/1	無修飾を含む	セ・ウ-張	内-工具によるナメ 外-工具によるナメ ナメ ハコ型 安定期-ナメ	無き使用 既成良好	3F	
58	459	変形土器	破片	頂部 安定期	7SYRS/3 7SYR6/2	7SYRS/3 10YRS/2 2SYR6/1	7SYRS/3 10YRS/2 2SYR6/1	7SYRS/3 10YRS/2 2SYR6/1	無修飾を含む	セ-ウ	内-工具によるナメのちナメ 外-工具によるナメ ナメ 安定期-ナメ	無き使用 既成良好	3F	
59	480	変形土器 (柄式不規)	破片	頂部 安定期	7SYRS/2 7SYR6/2	10YRS/1 10YRS/2 2SYR6/2	10YRS/1 10YRS/2 2SYR6/2	10YRS/1 10YRS/2 2SYR6/2	無修飾を含む	セ-ウ	内-ナメ 外-ロコナメ 安定期-ロコナメ	無き使用 既成良好	3F	
60	658	変形土器 (山の口式)	破片	頂部 安定期	7SYRS/2 7SYR6/2	10YRS/3 10YRS/2 10YRS/2	10YRS/3 10YRS/2 10YRS/2	10YRS/3 10YRS/2 10YRS/2	無修飾を含む	ウ-セ	内-工具によるナメのちナメ 外-ロコナメ 安定期-ロコナメ	無き使用 既成良好	3F	
61	678	変形土器 (山の口式)	破片	頂部 安定期	7SYRS/2 10YRS/3	10YRS/3 7SYRS/4 10YRS/3	7SYRS/2 10YRS/3 10YRS/1	7SYRS/2 10YRS/3 10YRS/1	無修飾を含む	ク-セ ・シル	内-ロコナメのちナメ 外-ロコナメのちナメ 安定期-ロコナメ	既成良好 既成良好 内因は 既成が 多い	3F	
62	506	変形土器 (山の口式)	破片	底部 安定期	2SYRS/4 10YRS/4	5YRS/4 10YRS/3	5YRS/4 7SYRS/4	5YRS/4 7SYRS/4	無修飾を含む	白	内-工具によるナメのちナメ 外-工具によるナメ 安定期-ロコナメ ナメ	無き使用 既成良好	3F	
63	335	変形土器	破片 高密度陶質	底部 安定期	7SYRS/4 10YRS/3 N3-9	10YRS/2 7SYRS/1	7SYRS/4 10YRS/2 N3-9 7SYRS/1	7SYRS/3 7SYRS/2 7SYRS/1	無修飾を含む	小4	内-二具によるナメのちナメ 外-工具によるナメのナメ ナメ 底端-ロコナメマツメ 底-ナメ	無き使用 既成良好	3F	335
64	711	粘土土器	破片	底部	10YRS/2 7SYRS/2	10YRS/3 10YRS/2 10YRS/2 2SYRS/2	10YRS/2 10YRS/2 10YRS/2 2SYRS/1	10YRS/3 10YRS/2 10YRS/2 2SYRS/1	無修飾を含む	セ-ウ ・シル	内-ナメ 外-工具によるハケ印のちナメ 工具 にふるカタナメ 底-ナメ 底端-ロコナメ-ロコナメ	既成良好	3F	
65	684	粘土土器	破片	底部	SYRS/4 10YRS/2	-	SYRS/3 7SYRS/2	SYRS/3 7SYRS/2 SYRS/3	無修飾を含む	セ-ウ	外-ロコナメ 底-ナメ	既成良好	3F	
66	434	粘土土器	破片	底部	SYRS/3	-	7SYRS/1 10YRS/2 5YRS/2	7SYRS/1 10YRS/2 5YRS/2	無修飾を含む	ウ-セ	内-ナメのちナメ 底-ナメ	既成良好	3F	
67	513	粘土土器	破片	底部	SYRS/4/1	-	SYRS/2 10YRS/1	SYRS/2 10YRS/1	無修飾を含む	白-セ	内-ナメ ロコナメ 底-ナメ 底端-ロコナメ	既成良好	3F	
68	164	変形土器	4/5段階なし 10YRS/2	口縁部 10YRS/1	10YRS/1 10YRS/2 10YRS/1	10YRS/4/1 10YRS/2 10YRS/1	10YRS/4/1 10YRS/2 10YRS/1	10YRS/2 10YRS/2 10YRS/1	無修飾を含む	長-ウ	内-ロコナメ ナメのちナメ ハケ印 外-ロコナメ ハケ工具によるナメ	既成良好	3	460-472 176-177 346-350 389-393 520-526

第12表 第3層下部出土遺物観察表②

No.	取上げNo.	器種	石材	法長(cm)	重量(g)	打面形状	調整・加工	使用痕	層	備考
69	206	軽石製加工品	軽石	最大長：8.5 最大幅：4.3 最大厚：5.0	30	面取り 穿孔			3F	
70	494	軽石製加工品	軽石	最大長：11.0 最大幅：8.0 最大厚：5.3	145			面面	3F	
71	348	軽石製加工品	軽石	最大長：10.0 最大幅：4.9 最大厚：3.9	52	穿孔			3F	
72	532	軽石製加工品	軽石	最大長：10.0 最大幅：8.0 最大厚：5.0	150	削鉋			3F	
73	533	軽石製加工品	軽石	最大長：14.8 最大幅：7.4 最大厚：5.1	220			面面	3F	

第13表 第3層下部出土遺物観察表③

⑤第4層出土遺物（第48～55図・別図3）

中尾追跡の第4層から出土した遺物は、総点数で205点である。第4層出土遺物は、入来II式土器を主体とし、僅かに高橋式土器が含まれている。このことから、第4層は、弥生時代前期末から中期前半の遺物包含層であると考えられる。第4層の出土遺物平面・垂直分布図は第48図・別図3のとおりである。この分布図は、第3層・第3層上部・第3層下部の遺物分布図と異なり、本来の遺物分布状況を示していると思われる。また、北区西北側は傾斜堆積範囲でもあり、垂直分布図からも看取できるように、第4層と同様な傾斜分布している。平面分布では、比較的まとまっている部分と散在している部分が認められる。

(i) 土器（第49～53図）

74から91までは壺形土器である。92から101までは壺形土器である。

・壺形土器（第49～51図）

74は、口縁部と肥厚部の形態等から、高橋式土器の壺形土器と考えられる。口縁部は肥厚し断面形態が三角形を呈している。口唇部端部は丸みを帯びている。口縁部上部は、ほぼ平坦でありナデが施されている。口縁部下位に、一条の三角突帯が巡らされている。内外面ともナデが顕著に認められる。また、補修孔が認められる。内面観察によると、補修孔の縁周には放射状に延びる短い削痕が認められ、工具を想定させる情報を持ち合わせているものと考えられる。

75から84までは、壺形土器の口縁部である。入来II式土器の壺形土器と考えられる。

75は、壺形土器の口縁部片である。口唇部端部は丸みを帯びており、上部には細い沈線により稜が施されている。また、口唇部には、工具によるキザミが施されている。いわゆるT字口縁に近い断面形態である。口縁部上部、内外面とも工具によるナデが顕著に認められる。

76は、壺形土器の口縁部片である。口唇部端部及び上部は丸みを帯びている。また、口唇端部には、工具によるキザミが施されている。内面の口縁部端部には、肥厚させる際の接合痕が認められる。

77は、壺形土器の口縁部片である。口唇部端部は丸みを帯びており、肥厚部分の断面形態は、三角形を呈している。また、口唇部直下には、口縁部を肥厚させる際の爪の圧痕が連続的に認められる。内面には、ユビオサエの痕跡が認められる。

78は、壺形土器の口縁部から胴部にかけての破片である。口唇部は丸みを帯びており、端部には一条の浅い沈線が施されている。胴部には、一条の三角突帯が巡らされている。突帯はやや下方へ垂れぎみである。内外面ともナデが認められる。

79は、壺形土器の口縁部片で、口唇部端部は丸みを帯びている。内面には、ユビオサエの痕跡がある。

80は、壺形土器の口縁部片である。口唇部端部は丸みを帯びており、断面形態は、75と同様の形態を呈している。内面には稜がみとめられる。

81は、壺形土器の口縁部片で、口唇部端部は丸みを帯びるが張り出しが短い。内外面ともナデがある。

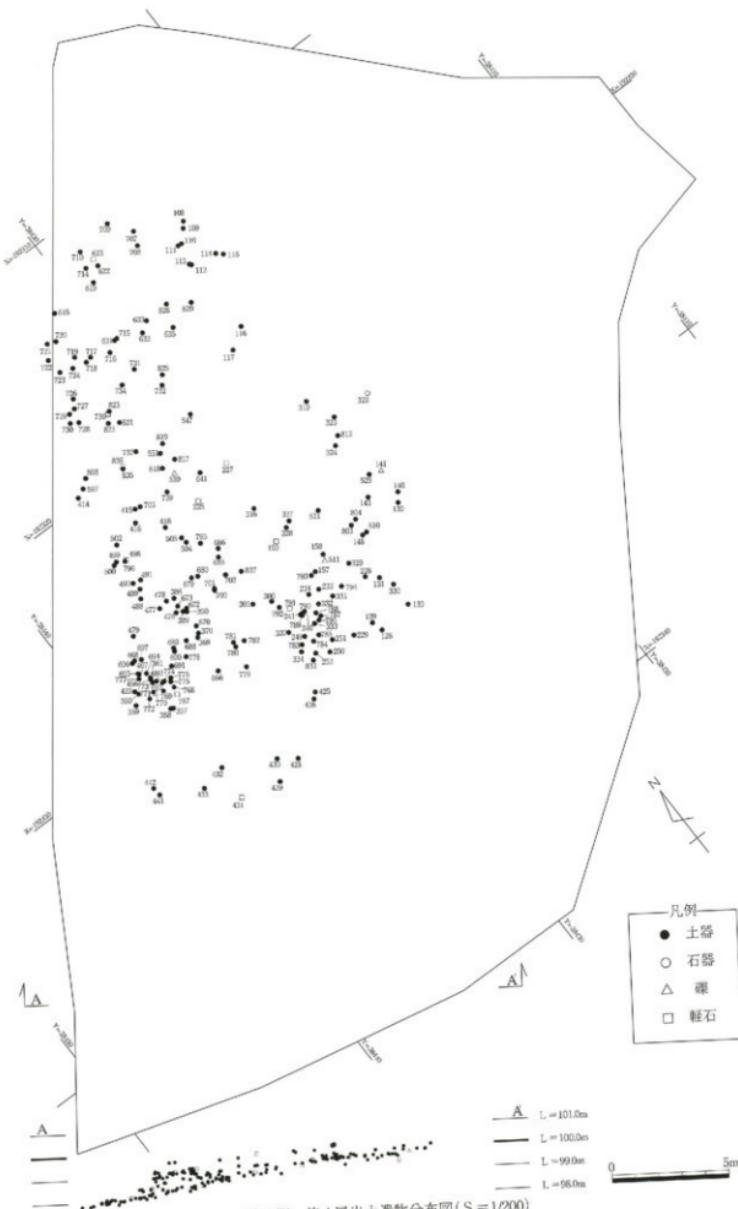
82は、壺形土器の口縁部の破片である。口縁部の上部はゆるやかに丸みを帯びている。口唇部端部には一条の沈線が施されている。口唇部の肥厚部の張り出しが長い。内外面ともナデが認められる。

83は、壺形土器の口縁部の破片である。口縁部の上部はゆるやかに丸みを帯びている。いわゆる、くの字状に屈曲する口縁である。口唇部端部には一条の浅い沈線が施されている。裏面の観察によると、土器本体と肥厚部分の口唇部の接合痕が顕著に認められる。

84は、壺形土器の口縁部の破片である。断面形態は、75・80と同様の形態を呈している。他の資料と比較して口縁部の肥厚部分が厚い。内外面ともナデが認められる。

85から88は、壺形土器の胴部突帯部片である（第51図）。

85は、壺形土器の胴部突帯部片である。一条の絡状突帯が巡らされている。突帯の直上には、絡状突帯を貼付させる際の爪の圧痕が認められる。内外面ともナデが認められる。



第48図 第4層出土遺物分布図 (S = 1/200)

86は、壺形土器の胴部突帯部片である。三条の三角突帯が巡らされている。突帯は、ヨコナデによりシャープに整えられている。内外面ともナデが認められる。

87は、壺形土器の胴部突帯部片である。三条の三角突帯が巡らされている。突帯間にはヨコナデが認められると伴に、横位方向の工具痕も認められる。内外面ともナデが認められる。

88は、壺形土器の胴部突帯部片である。三条の三角突帯が巡らされている。突帯は、ヨコナデによりシャープに整えられている。内外面ともナデが認められる。86と同一個体と考えられる。

89は、胴部片である。外面には、黒色を呈した線状のものが認められる（図中網かけ）。末端は、末細り状となっている。外面には、縦位のハケ目が認められる。

90・91は脚台である（第51図）。

90は、脚台の破片である。外面は縦位のカキアゲ状のケズりが認められる。

91は、脚台の破片である。外面は縦位のカキアゲ状のケズりが認められ、底面は若干上げ底である。

・壺形土器（第52・53図）

92から93までは壺形土器の口縁部片で、94は、壺形土器の頸部片である。（第52図）口縁部や肥厚部の形態等から入来Ⅱ式土器に含まれると考えられる。

92は、壺形土器の口縁部片で、口唇部端部には一条の沈線が施されている。口縁部の肥厚部は下方へ延び、全体的に丸みを帯びている。口縁部上部には粘土紐を貼付している。内面には、一条の凸帯が巡らされている。

93は、壺形土器の口縁部片である。口唇部端部には、一条の沈線が施されている。口縁部の肥厚部は下方へ延び、全体的に丸みを帯びている。口縁部上部には、二本の粘土紐が貼付されている。内面部分は残存していない。内面以外の特徴は、92と同様である。

94は、壺形土器の頸部片である。外反しており、口縁部は欠損しており残存していない。内外面ともナデ後にミガキが施されている。

95から101は、壺形土器の頸部突帯部片である（第52・53図）。

95は、壺形土器の頸部突帯部片である。内反しており、外面には三条の三角突帯が巡らされている。突帯は、土器本体に粘土紐を貼付させた後に、ヨコナデによって整えられている。そのため、ヨコナデによってミミズバレ状を呈している部分もあれば、シャープな断面三角を呈している部分が認められる。突帯の上位には、工具による斜位方向の痕跡がみとめられる。

96は、壺形土器の頸部突帯部片で、三条の三角突帯が巡らされている。胎土に金ウンモが認められる。

97は、壺形土器の頸部突帯部片で、四条の三角突帯が巡らされている。内外面ともナデが認められる。

98は、壺形土器の頸部突帯部片で、三条の三角突帯が巡らされている。胎土に金ウンモが認められる。

99は、壺形土器の頸部突帯部片で、二条の三角突帯が巡らされている。胎土に黒曜岩が認められる。

100は、壺形土器の頸部突帯部片で、二条の三角突帯が巡らされている。ヨコナデが認められる。

101は、壺形土器の頸部突帯部片で、一条の三角突帯が巡らされ、その下位には工具痕が認められる。

（ii）軽石製加工品（第54図）

102は、断面が橢円形を呈する軽石製加工品である。a面に磨面が認められる。

103は、102と同様な形態を呈しており、a面に磨面が認められる。

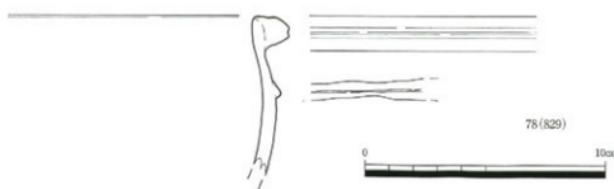
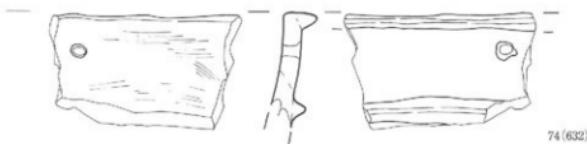
103は、第3層下部出土の69（第45図）と同様なものである。欠損しているものの、本来は円形を呈し、中央部にa面・b面を貫通する穿孔が施されている。a面右側面は平坦な磨面である。

（iii）石器（第55図）

105は、中尾追遺跡出土中で、最も大きな石器である。a面全体には磨面が認められ、特に中央部には敵



写真46 第4層出土遺物写真①(内面)



第49図 第4層出土遺物実測図①(S=1/2)

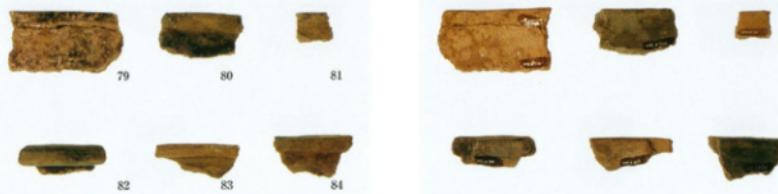
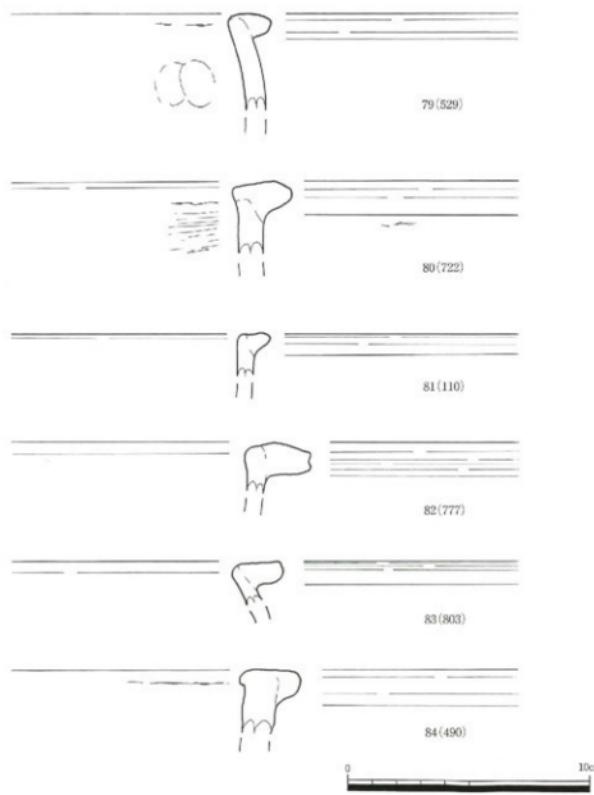
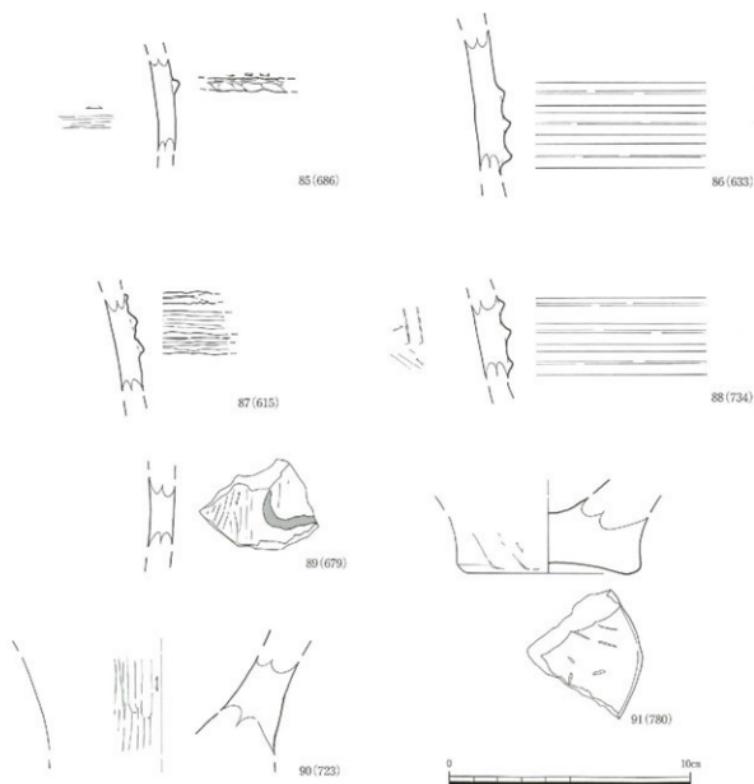


写真48 第4層出土遺物写真②(内面)



第50図 第4層出土遺物実測図②(S = 1/2)



第51図 第4層出土遺物実測図③($S = 1/2$)

打痕が認められる。側面は、粗い剥離痕が認められることから、この形状に整形されているものと考えられる。



92



93



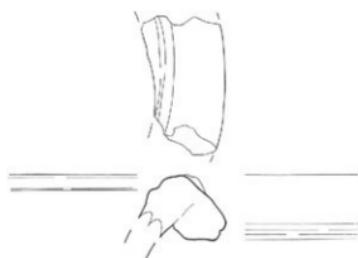
94



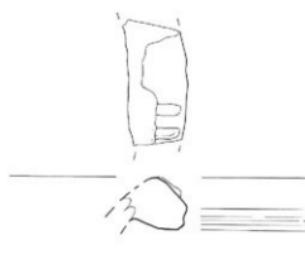
95

写真51 第4層出土遺物写真④(外面)

写真52 第4層出土遺物写真④(内面)



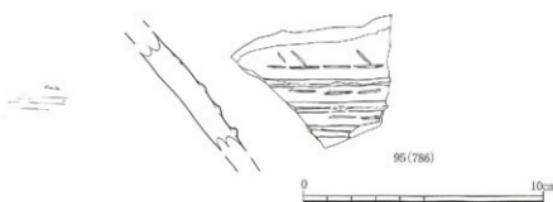
92(793)



93(468)



94(670)

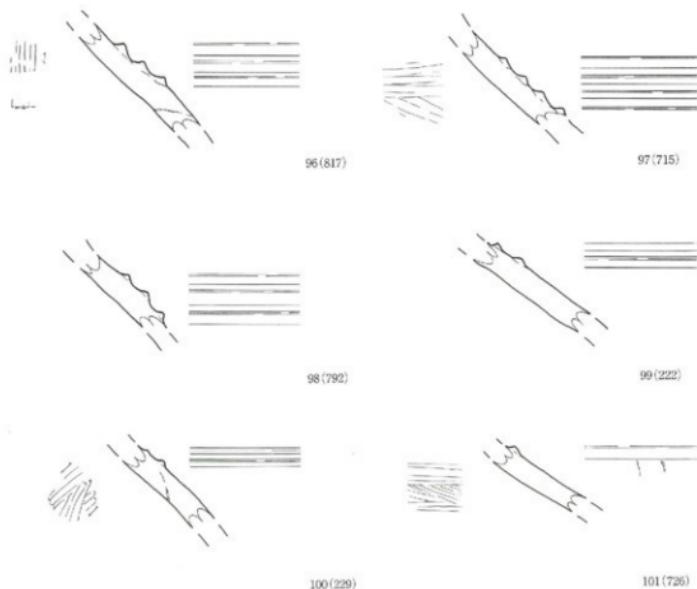


第52図 第4層出土遺物実測図④(S=1/2)

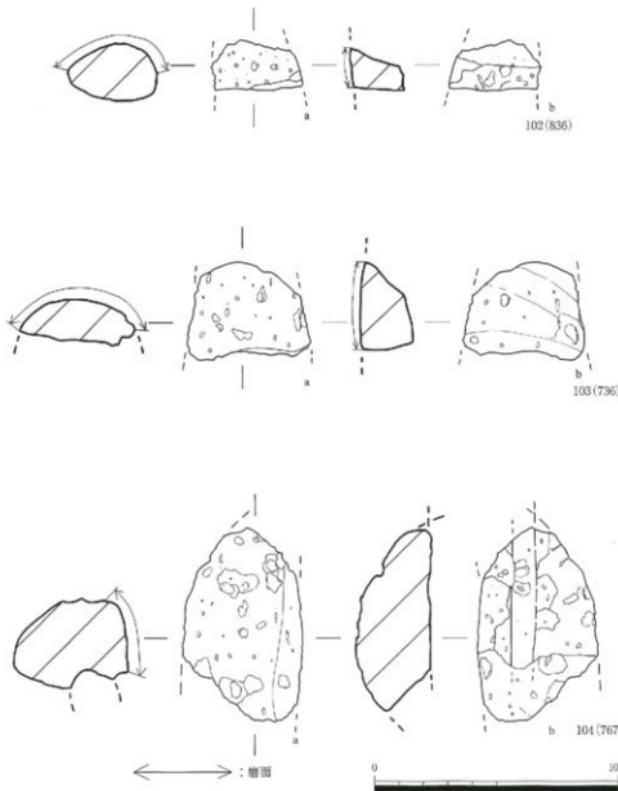


写真53 第4層出土遺物写真⑤(外面)

写真54 第4層出土遺物写真⑤(内面)



第53図 第4層出土遺物実測図⑤(S=1/2)



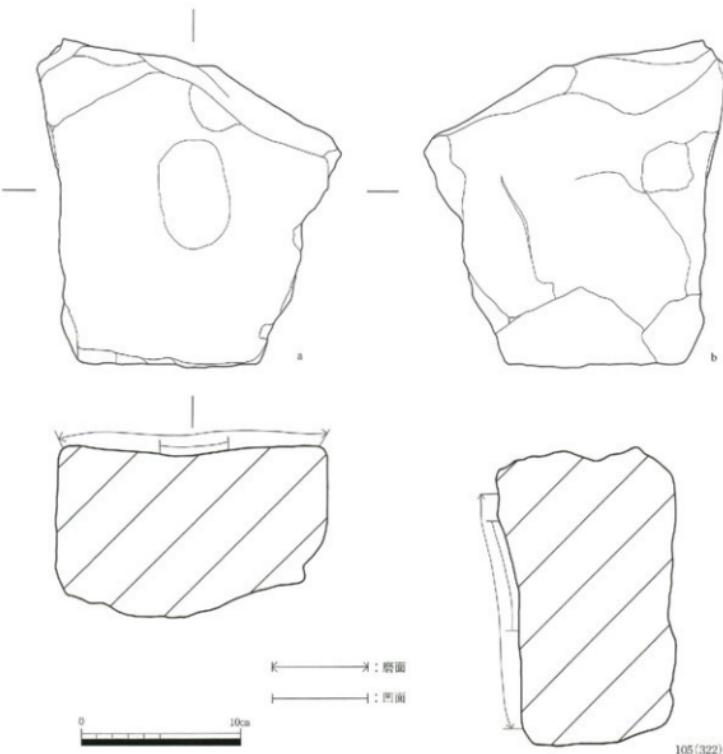
第54図 第4層出土遺物実測図⑥(S=1/2)



写真57 第4層出土遺物写真⑦(表面)



写真58 第4層出土遺物写真⑦(裏面)



第55図 第4層出土遺物実測図⑦(S = 1/3)

留番No	収上げNo	器種	残存部量(cm)	部位	色	外	内	残	色	性	出土點	覆材	測量	その他	出土層位	層合
74	632	変形土器 (人来式)	破片	口唇部	25YR5/2	25YR5/3	5YR5/3	口縁		鐵砂粒を含む	ウ・白	内・工具によるナダ 外・工具によるナダ 黄褐・コナナ 口縁・ナダ 口沿・ナダ	幅さ範囲 幅成良好	4		
75	568	變形土器 (人来式)	破片	口唇部	10YR4/1	10YR4/1	25YR4/1	口縁		鐵砂粒を含む	自	内・工具によるナダ 外・工具によるナダ ナダ 口縁・工具によるナダ 口沿・コナナ 口縁・ナダ 口沿・ナダ	幅さ範囲 幅成良好	4		
76	732	變形土器 (人来式)	破片	口唇部	5YR4/1	5YR4/3	25YR5/3	口縁		鐵砂粒を含む	セ・白・ウ	内・ナダ 外・工具によるナダ 口縁・ナダ 口沿・コナナ 口沿・ナダ 口沿・ビーナナのナダ	幅さ範囲 幅成良好	4		
77	361	變形土器 (人来式)	破片	口唇部	7.5YR5/1	7.5YR5/4	7.5YR5/4	口縁		鐵砂粒を含む	セ・ウ・自	内・粗粒 外・工具によるナダ ナダ 口縁・ナダ 口沿・コナナのナダ	幅さ範囲 幅成良好	4		
78	820	變形土器 (人来式)	破片	口唇部	7.5YR5/2	10YR5/3	10YR5/2	口縁		鐵砂粒を含む	内・工具によるナダ 外・工具によるナダ ナダ 工具によるナダ 口縁・ナダ 口沿・ナダ 口縁・沈埋	幅さ範囲 幅成良好	4			
79	528	變形土器 (人来式)	破片	口唇部	5YR5/4	7.5YR5/4	10YR5/3	口縁		鐵砂粒を含む	セ・ウ	内・粗粒のナダ 外・ナダ 口縁・ナダ 口沿・ナダ	幅さ範囲 幅成良好	4		
80	722	變形土器 (人来式)	破片	口唇部	7.5YR4/1	7.5YR4/1	7.5YR4/2	口縁		鐵砂粒を含む	セ・白	内・工具によるナダ 外・工具によるナダ 口縁・ナダ 口沿・工具によるナダ	幅さ範囲 幅成良好	4		
81	110	變形土器	破片	口唇部	5YR5/3	5YR5/4	10YR5/3	口縁		鐵砂粒を含む	セ・ウ	内・工具によるナダのナダ 外・工具によるナダ 口縁・ナダ 口沿・ナダ	幅さ範囲 幅成良好	4		
82	777	變形土器 (人来式)	破片	口唇部	7.5YR5/1	5YR5/2	25YR4/1	口縁		鐵砂粒を含む	セ・ウ・自	内・工具によるナダ 外・ナダ 口縁・ナダ 口沿・沈埋	幅さ範囲 幅成良好 スヌード	4		
83	803	變形土器 (人来式)	破片	口唇部	7.5YR4/3	7.5YR5/3	7.5YR5/3	口縁		鐵砂粒を含む	セ・白・ウ	内・工具によるナダのナダ 外・工具によるナダのナダ ナダ 工具によるナダ 口縁・粗粒	幅さ範囲 幅成良好	4		
84	469	變形土器 (人来式)	破片	口唇部	5YR4/2	10YR4/1	10YR5/2	口縁		鐵砂粒を含む	セ	内・工具によるナダ 外・工具によるナダ ナダ 口縁・ナダのナダ 口沿・ナダ	幅さ範囲 幅成良好	4		
85	696	變形土器 (人来式)	破片	唇部	5YR5/1	7.5YR6/2	10YR4/1			鐵砂粒を含む	セ・白・ウ	内・工具によるナダのナダ 外・工具によるナダのナダ 工具によるナダ 口沿・粗粒	幅さ範囲 幅成良好 良品 外的影響 上品・系 注目	4		
86	633	變形土器	破片	唇部	7.5YR5/2	7.5YR6/3	7.5YR4/1			鐵砂粒を含む	白・ウ	内・工具によるナダのナダ 外・工具によるナダのナダ 黄褐・ナダ	幅さ範囲 幅成良好	4		
87	615	變形土器	破片	唇部	7.5YR5/2	7.5YR5/3	25Y4/1			鐵砂粒を含む	セ・ウ	内・工具によるナダのナダ 外・工具によるナダ 黄・ロナナ	幅さ範囲 幅成良好	4		
88	734	變形土器	破片	唇部	7.5YR5/3	7.5YR5/3	25Y4/1			鐵砂粒を含む	ウ・白	内・工具によるナダ 外・ナダ 黄褐・ナダ	幅さ範囲 幅成良好	4		
89	679	變形土器	破片	唇部	7.5YR5/3	10YR5/2	5YR5/4			鐵砂粒を含む	セ・ウ	内・ナダ 外・工具によるナダ ハケ目	幅さ範囲 幅成良好	4		
90	723	變形土器	破片 直径24	唇部	7.5YR4/2	7.5YR4/2	5YR4/2			鐵砂粒を含む	セ	内・工具によるナダのナダ 外・工具によるナダ	幅さ範囲 幅成良好	4		
91	780	變形土器	破片	唇部	7.5YR5/3	10YR5/3	10YR5/2	唇部		鐵砂粒を含む	ウ・白	内・ナダ 外・工具によるナダのナダ 黄・ナダ	幅さ範囲 幅成良好	4		
92	790	變形土器 (人来式)	破片	口唇部	7.5YR5/3	7.5YR5/3	25Y4/2	口縁		鐵砂粒を含む	セ・白・基	内・ナダ 外・工具によるナダ ナダ 口縁・工具によるナダのナダ 口沿・沈埋	幅さ範囲 幅成良好	4		

第14表 第4層出土遺物観察表①

図面No.	取上No.	器種	保存状態(cm)	前 部	左 外	左 内	右 外	右 内	施土粒	調和材	測 量	その他の 出土特徴	
93	468	重粘土器 (入丸式)	破片	口部	SYR5-3	-	SYR5-2	CHE	セ・白・ 黒曜石	内・ハツ 外・工具によるナデの跡 ナダ	軽き重量 底丸好	4	
							SYR4-1	SYR5-2			口縁・口唇		
							SYR5-2						
94	670	重粘土器 (入丸式の 可能性あり)	破片	頭部	SYR6-1/1	SYR6-1/1	SYR6-2		鐵砂粒を含む	セ・白 ガラス	内・コナデのちぎり 外・コナデのちぎり ナダのちぎり ガラス	軽き重量 底丸好	4
95	786	重粘土器 (入丸式)	破片	頭部	SYR6-2	SYR6-1/1	SYR6-2		鐵砂粒を含む	白・ウ	内・工具によるナデのちぎり 外・工具によるナデ ヘリによるナデ ガラス	軽き重量 底丸好	4
				尖端部	SYR6-1/1	SYR6-2					尖端・コナデ		
96	817	重粘土器	破片	頭部	SYR6-2	SYR6-3	SYR6-4	SY4-4	鐵砂粒を含む	企・白・ウ	内・工具によるナデのちぎり 外・工具によるナデのちぎり ガラス	軽き重量 底丸好	4
97	715	重粘土器	破片	頭部	SYR6-4	SYR6-4	SYR6-3	SYR6-2	鐵砂粒を含む	白・ウ	内・工具によるナデのちぎり 外・工具によるナデ ガラス	軽き重量 底丸好	4
				尖端部	SYR6-2	SYR6-3	SYR6-2				尖端・コナデ		
98	780	重粘土器	破片	頭部	SYR6-3	SYR6-4	SYR6-3		鐵砂粒を含む	企・白・ウ	内・工具によるナデのちぎり 外・ナデ ガラス	軽き重量 底丸好	4
				尖端部	SYR6-2	SYR6-3	SYR6-2				尖端・コナデ		
99	222	重粘土器	破片	頭部	SYR6-3	SYR6-4	SYR6-5	SYR6-2	鐵砂粒を含む	セ・ウ・黒曜石	内・ナデ 外・工具によるナデ ナデのちぎり ガラス	軽き重量 底丸好	4
				尖端部	SYR6-2	SYR6-3	SYR6-2				尖端・コナデ		
100	229	重粘土器	破片	頭部	SYR6-4	SYR6-4	SYR6-3		鐵砂粒を含む	セ	内・工具によるナデ 外・ナデ ガラス	軽き重量 底丸好	4
				尖端部	SYR6-4						尖端・コナデ		
101	726	重粘土器	破片	頭部	SYR6-3	SYR6-4	SYR6-1	SYR6-3	鐵砂粒を含む	ウ	内・工具によるナデ 外・工具によるナデ ガラス	軽き重量 底丸好	4
				尖端部	SYR6-3	SYR6-4	SYR6-1	SYR6-3			尖端・コナデ		

第15表 第4層出土遺物観察表②

No.	取上No.	器種	石材	法徳(cm)	重量(g)	前面形状	調整・加工	化用例	層	備考
102	836	鰐石製加工品	鰐石	最大長:21 最大幅:38 最大厚:23	23.6			磨面	4	
103	736	鰐石製加工品	鰐石	最大長:21 最大幅:50 最大厚:22	12			磨面	4	
104	767	鰐石製加工品	鰐石	最大長:41 最大幅:50 最大厚:23	45	穿孔		磨面	4	
105	322	安山岩	台石	最大長:20.6 最大幅:19.2 最大厚:11.4	4700	磨面	磨面	磨面	4	

第16表 第4層出土遺物観察表③

⑥表探・一般遺物（第56図）

中尾追遺跡からは、約300点余りの表探遺物と各層からの一般遺物がある。

(i) 土器（第56図）

・脚台（第56図）

106は、いわゆる充実した脚台である。全体的な形態は、第3層下部出土の63（336）（第43図）の脚台と類似している。若干、106が細身である。外面は、カキアゲ状のヘラケズリをした後にナデが施されている。脚台の外端は、ヨコナデにより整形され、底面にいくに従い狹まる。底面は若干、上げ底である。内面底部は、ナデが施されている。北区調査区の北側隣接地にある畑地からの表探品である。

(ii) 輕石製加工品（第56図）

107は、不整形を呈する軽石製加工品である。a面右側面とb面下端部は、他の面と比較して滑らかであることから、磨面として利用されたものと考えられる。周辺には、剥離痕などの加工・整形は認められない。107は、第3層からの一般遺物である。

番号No.	取上No.	器種	残存部量(cm)	部位	色 赤 青 白 内 色 内 色 赤	胎土粒	調形材	調 整	その他 出土地点 標 名
106	洪深	弥生土器	破片1／1既存 直徑75	底部	7.5YR5/3 7.5YR5/2 7.5YR5/3		灰	内・ナデ 外・工具によるカキアゲのちナデ 工具によるナデのちナデ 底・工具によるナデのちナデ 底面・ヨコナデ	現成良好

第17表 表探遺物観察表

No.	取上No.	器種	石材	残量(cm)	重量(g)	打削形状	調整・加工	使用痕	備考
107	一枚	軽石製加工品	軽石	最大長：94 最大幅：72 最大厚：53	60	鋸面			

第18表 一般遺物観察表



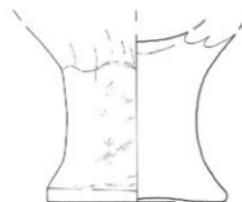
106



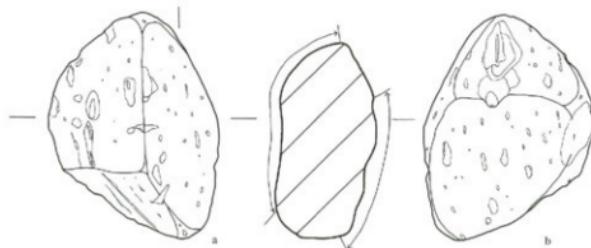
107

写真59 表探・一般遺物写真(外面・表面)

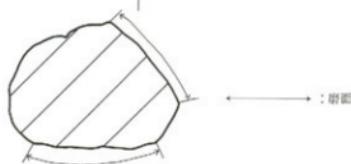
写真60 表探・一般遺物写真(内面・裏面)



106(表探)



107(一般)



第56図 表探・一般遺物実測図 (S = 1/2)

取上 番号	幅径	器種 番号	類別	器名	材質	高さ (×10 ⁻²) (mm)	底径 (mm)	口径 (mm)	厚さ (g)	X座標	Y座標	Z座標	接合	同一 組合	備考
1	3		土器	破片											
2	3		土器	破片											
3	3		土器	破片											
4	3		土器	腹部片											
5	3		欠番												
6	3		土器	破片											
7	3		土器	破片											
8	3		土器	破片											
9	3		土器	腹部片											
10	3		土器	破片											
11	3		土器	腹部片											
12	3		土器	变形土器口縫部片											
13	3		土器	腹部片											
14	3		土器	破片											
15	3		土器	变带部片											
16	3		土器	腹部片											
17	3		土器	腹部片											
18	3		土器	破片											
19	3		土器	突唇部片											
20	3	18	土器	变形土器口縫部片										54	
21	3		土器	腹部片											
22	3	7	土器	变形土器口縫部片											
23	3	5	土器	变形土器口縫部片											
24	3		土器	破片											
25	3		土器	腹片											
26	3		土器	口沿部片											
27	3		土器	变形土器突唇部片											
28	3	22	土器	变形土器腹部突唇部片											
29	3		土器	破片											
30	3	33	絆石	絆石板加工品	絆石	39.5	96	82	53	140					
31	3		土器	腹部片											
32	3		土器	破片											
33	3		土器	破片											
34	3		土器	腹片											
35	3		土器	破片											
36	3		土器	腹片											
37	3		土器	先形土器口縫部片											
38	3	1	土器	变形土器口縫部片											
39	3		石器	刮片	凝灰岩	65.6	79	62	23.6	105					
40	3		土器	破片											
41	3		土器	破片											
42	3		土器	腹片											
43	3	24	土器	变形土器腹部突唇部片											
44	3		鐵	鐵片	安山岩	34.4	21.2	18.7	14.2	10					
45	3		土器	变形土器腹部片											
46	3		土器	腹部片											
47	3		土器	腹部片											
48	3	23	土器	变形土器腹部突唇部片											
49	3		土器	突唇部片											
50	3		土器	突唇部片											

第19表 出土遺物台帳①

出土 番号	層位	陶器 番号	種別	器種名	材質	帶縮率 (X10 ⁻¹)	法蓋長 (mm)	法蓋幅 (mm)	法蓋厚 (mm)	重量 (g)	X座標	Y座標	Z座標	堆合	同一 個体	機等
51	3	21	土器	變形土器口部突唇部片												
52	3		土器	破片												20
53	3		土器	欠番												
54	3	18	土器	變形土器口部突唇部片												
55	3		土器	欠番												
56	3		土器	破片												
57	3		土器	變形土器口部突唇部片												
58	3		土器	剝片												
59	3	16	土器	變形土器口部突唇部片												
60	3	3	土器	變形土器口部突唇部片												
61	3		土器	突唇部片												
62	3		土器	變形土器口部突唇部片												
63	3		土器	剝片												
64	3		土器	剝片												
65	2		土器	變形土器口部突唇部片						-192309.342	-38427.917	98.528				
66	2		土器	破片						-192309.613	-38428.111	98.542				
67	2		土器	破片						-192309.525	-38428.276	98.541				
68	3		石器	剝片	安山岩	14.9	19.6	15.2	4.7	1.72	-192310.398	-38427.636	98.433			
69	3		土器	破片						-192310.417	-38427.628	98.417				
70	3		土器	破片						-192310.452	-38427.555	98.403				
71	粗土		土器	突唇部片						-192311.221	-38427.539	98.532				
72	3		土器	縫片						-192311.013	-38427.112	98.581				
73	3		土器	破片						-192311.278	-38426.791	98.588				
74	3		土器	破片						-192311.232	-38426.572	98.509				
75	粗土		土器	變形土器口部突唇部片						-192311.453	-38426.592	98.506				
76	粗土		石器	剝片	頁岩	0.7	26.5	20.6	3.6	2.64	-192311.915	-38427.596	98.718			
77	3		土器	破片						-192312.462	-38426.401	98.703				
78	3		土器	破片						-192312.687	-38426.698	98.762				
79	3		土器	破片						-192312.836	-38426.869	98.735				
80	3		石器	剝片	安山岩	23.8	26	17.3	10.9	10	-192313.593	-38427.331	98.883			
81	3		土器	破片						-192313.458	-38427.416	98.761				
82	3		土器	破片						-192314.026	-38427.718	98.798				
83	3		土器	破片						-192314.280	-38427.506	98.798				
84	3	28	土器	剝部突唇部片						-192314.375	-38429.232	98.704				
85	3		土器	縫片	安山岩	38.2	21.1	17.1	9.1	1.97	-192313.864	-38429.350	98.657			
86	粗土		土器	縫片						-192313.091	-38428.809	98.776				
87	3		土器	縫片						-192312.663	-38428.859	98.696				
88	3	13	土器	變形土器底部附近片						-192311.702	-38428.979	98.390				
89	2		土器	縫片						-192312.156	-38428.724	98.754				
90	3		土器	變形土器口部突唇部片						-192309.888	-38426.387	98.530				
91	3		土器	變形土器口部突唇部片						-192309.969	-38426.161	98.534				
92	3		土器	變形土器側部突唇部片						-192310.534	-38426.069	98.519				
93	3		土器	縫片						-192314.200	-38426.839	98.880				
94	3		土器	破片						-192314.733	-38426.289	98.869				
95	3		土器	縫片						-192315.279	-38426.976	98.933				
96	3		土器	剝片						-192314.691	-38424.745	99.102				
97	3		土器	破片						-192318.975	-38426.210	99.116				
98	3		土器	變形土器底部突唇部片						-192318.044	-38426.823	99.126				
99	3		土器	剝片						-192316.289	-38427.905	98.969				
100	3		土器	變形土器側部突唇部片						-192315.754	-38428.464	98.867				

第20表 出土遺物台帳②

出土 番号	柄位	陶載 番号	種別	器物名	材質	帶磁率 (X-15-U)	供量長 (mm)	法曲幅 (mm)	法量厚 (mm)	重量 (g)	X座標	Y座標	Z座標	接合 同一 部位	備考
101	3		土器	板部片		-192315.315	-38428.645	98.939							
102	3		土器	刷把片		-192315.283	-38428.888	98.778							
103	3		土器	破片		-192315.560	-38429.777	98.525							
104	3		土器	破片		-192313.800	-38429.823	98.530							
105	3		土器	刷把片		-192316.071	-38429.148	98.977							
106	3		土器	破片		-192316.395	-38429.473	99.021							
107	3		土器	破片		-192316.257	-38429.904	99.001							
108	4		土器	刷把片		-192311.050	-38424.296	98.837							
109	4		土器	破片		-192313.280	-38424.489	98.865							
110	4	81	土器	變形土器口沿部片		-192313.771	-38424.954	98.832							
111	4		土器	破片		-192312.750	-38425.131	98.865							
112	4		土器	刷把片		-192314.755	-38425.168	98.912	113						
113	4		土器	刷把片		-192314.660	-38425.229	98.919	112						
114	4		土器	刷把片		-192315.002	-38424.048	98.985							
115	4		土器	刷把片		-192315.222	-38423.805	99.012							
116	4		土器	破片		-192318.158	-38425.109	99.205							
117	4		土器	破片		-192318.757	-38426.011	99.192							
118	3	17	土器	小形敞口緣部片		-192332.766	-38425.184	100.218							
119	3		土器	刷把片		-192333.248	-38426.387	100.201							
120	3		土器	變形土器口沿部片		-192332.809	-38426.935	100.104							
121	3	20	土器	變形土器腹部夾帶部片		-192332.545	-38427.030	100.079							
122	3		土器	破片		-192332.276	-38426.894	100.146							
123	3		土器	破片		-192332.181	-38427.363	100.098							
124	3		土器	變形土器口緣部片		-192331.941	-38427.126	100.183							
125	3	8	土器	變形土器口幹部片		-192331.834	-38427.281	100.088							
126	3		土器	破片		-192331.352	-38427.599	100.007							
127	3		土器	變形土器刷把夾帶部片		-192330.835	-38428.040	99.836							
128	4		土器	刷把片		-192332.232	-38428.311	99.976							
129	4		土器	破片		-192331.740	-38428.444	99.887							
130	4		土器	刷片		-192332.037	-38426.760	100.045							
131	4		土器	刷把片		-192330.384	-38427.027	99.832							
132	3		土器	破片		-192330.070	-38426.403	99.937							
133	3		土器	刷把片		-192329.856	-38425.572	100.052							
134	3		土器	変形土器腹夾帶部片		-192329.664	-38426.373	99.842							
135	3		土器	破片		-192329.470	-38425.576	99.995							
136	3		土器	破片		-192328.755	-38426.011	99.890							
137	3		土器	刷片		-192328.697	-38425.762	99.827							
138	3		土器	刷把片		-192327.820	-38424.460	99.948							
139	4		土器	刷把片		-192328.301	-38424.417	99.834							
140	4		土器	底部附着片		-192327.922	-38424.139	99.847							
141	4		器	刷片	凝灰岩	75.7	47.5	33.1	23.3	53	-192326.770	-38424.152	99.746		
142	3		土器	破片		-192327.501	-38425.161	99.874							
143	4		土器	刷片		-192327.336	-38425.282	99.642							
144	3		土器	破片		-192327.351	-38425.543	99.671							
145	3	31	柱石	柱石製加工品	柱石	26.4	151	93	52	230	-192327.623	-38425.837	99.793		
146	3		土器	刷把片		-192327.590	-38426.233	99.697							
147	3		土器	變形土器口緣部片		-192327.928	-38426.293	99.758							
148	4		土器	刷把片		-192328.485	-38426.470	99.662							
149	3		土器	破片		-192328.506	-38427.236	99.669							
150	3	6	土器	變形土器口緣部片		-192328.540	-38427.999	99.642							

第21表 出土遺物台帳③

层位 番号	层位 番号	陶器 类别	器物名	材质	带盖单件量	底量	盖量	X座标	Y座标	Z座标	接合 部位	同一件 体	编号	
151	3	土器	罐片				-192338.545	-38427.802	99.772					
152	3	土器	罐片				-192339.183	-38427.656	99.713					
153	3	2 土器	宽形土器口沿部片				-192338.906	-38428.153	99.662	332				
154	3	土器	罐片				-192338.467	-38428.473	99.649					
155	3	土器	宽形土器颈部弯曲片				-192338.360	-38428.698	99.625					
156	3	土器	罐部片				-192338.096	-38428.569	99.603					
157	4	土器	罐片				-192338.499	-38429.041	99.565					
158	4	土器	口唇部片				-192338.114	-38428.319	99.566					
159	3	砾石	砾石	砾石	22.1	31.5	48.2	29.4	20	-192338.114	-38429.363	99.562		
160	3	土器	土块				-192337.534	-38429.360	99.403					
161	3	土器	破片				-192337.192	-38429.513	99.464					
162	3	黑	黑	不明	0.3	28.1	20.9	17	10	-192337.218	-38429.111	99.620		
163	3	土器	罐片				-192337.064	-38429.121	99.716					
164	3	68	土器	宽形土器			-192336.924	-38429.188	99.676	①				
165	3	土器	罐片				-192337.154	-38428.825	99.695					
166	3	土器	宽形土器腹部弯曲片				-192337.111	-38428.316	99.641					
167	3	68	土器	宽形土器			-192337.466	-38427.724	99.752	①				
168	3	土器	底部碎片				-192337.481	-38427.710	99.752					
169	3	土器	瓶片				-192336.721	-38428.558	99.500					
170	3	土器	破片				-192336.820	-38428.444	99.578					
171	3	土器	宽形土器口唇部片				-192336.807	-38428.371	99.643					
172	3	68	土器	宽形土器			-192336.725	-38428.324	99.623	①				
173	3	土器	破片				-192336.714	-38427.823	99.519					
174	3	灰陶	灰陶				-192336.642	-38427.744	99.667					
175	3	土器	瓶片				-192336.643	-38427.544	99.553					
176	3F	68	土器	宽形土器			-192336.427	-38427.402	99.619	①				
177	3F	68	土器	宽形土器			-192336.523	-38427.730	99.612	①				
178	3F	灰陶	灰陶				-192336.463	-38427.657	99.594					
179	3F	土器	陶柄片				-192336.410	-38427.757	99.578	①				
180	3F	68	土器	宽形土器			-192336.424	-38427.932	99.615	①				
181	3	34	石器	刮削片	砾石	0.2	38	12	13	3.33	-192336.326	-38427.905	99.720	
182	3F	土器	破片				-192335.768	-38426.866	99.602					
183	3F	砾石	砾石	砾石	23.5	88.4	75.3	44.1	110	-192335.041	-38425.142	99.623		
184	3F	砾石	砾石片	砾石	9.8	41.6	24.8	22	10	-192335.143	-38425.107	99.619		
185	3F	土器	陶柄片				-192336.328	-38425.329	99.618					
186	3F	土器	罐片				-192336.015	-38424.854	99.687					
187	3F	土器	罐片				-192335.392	-38424.423	99.700					
188	2	土器	破片				-192335.042	-38420.647	99.490					
189	3F	土器	破片				-192336.198	-38428.056	99.612					
190	3F	68	土器	宽形土器			-192336.103	-38428.512	99.440	①				
191	3F	土器	底部附近片				-192335.777	-38428.807	99.518	197				
192	3F	土器	破片				-192336.135	-38428.650	99.515					
193	3F	土器	陶柄片				-192336.239	-38428.841	99.469					
194	3F	土器	陶柄片				-192336.303	-38428.845	99.545					
195	3F	68	土器	宽形土器			-192336.309	-38428.943	99.517	①				
196	3F	土器	破片				-192336.181	-38429.108	99.495					
197	3F	土器	底部附近片				-192336.524	-38429.012	99.492	191				
198	3F	土器	罐片				-192336.449	-38429.316	99.520					
199	4	砾石	砾石	砾石	3.6	44.9	37.9	22.7	40	-192336.426	-38429.584	99.310		
200	3	土器	破片				-192335.749	-38429.703	99.533					

第22表 出土遗物台帳④

索引番号	層位	測量番号	標的	器種名	材質	帶幅率	法盤長	法盤幅	法盤厚	重量 (g)	X座標	Y座標	Z座標	接合	同一 個体	備考	
201	3		土器	破片						-192326.923	-38426.774	99.693					
202	2		土器	破片						-192325.506	-38429.838	99.541					
203	3		軽石	軽石質加工品	軽石	4.9	138.5	110.3	62.2	137	-192324.824	-38429.600	99.308				
204	3		土器	破片						-192324.935	-38429.638	99.439					
205	3		土器	破片						-192324.770	-38430.097	99.461					
206	3下	60	軽石	軽石質加工品	軽石	2.7	85	43	50	30	-192325.085	-38430.015	99.220				
207	3		軽石	軽石	軽石	19.4	35.2	27.1	24.9	10	-192324.238	-38430.367	99.056				
208	3		土器	破片						-192324.270	-38430.590	99.053					
209	3		土器	破片						-192324.291	-38430.688	99.066					
210	3	30	軽石	軽石質加工品	軽石	29	160	90	50	230	-192321.236	-38430.919	98.968				
211	3		土器	破片						-192323.064	-38430.477	99.004					
212	3		軽石	軽石質加工品	軽石	45.3	100.8	74.1	48.7	100	-192322.985	-38430.660	98.920				
213	3		土器	破片						-192322.343	-38429.596	99.222					
214	3		土器	口縁部片						-192321.618	-38430.300	99.142					
215	3		土器	破片						-192321.517	-38430.611	99.109					
216	3		土器	破片						-192321.275	-38429.815	99.056					
217	3		土器	彫形土器底部突起部						-192320.925	-38429.478	99.221					
218	3		土器	破片						-192320.876	-38429.156	99.057					
219	3		土器	破片						-192321.172	-38428.821	99.171					
220	3		土器	破片						-192321.839	-38428.214	99.216					
221	3		土器	破片						-192321.983	-38428.296	99.274					
222	4	99	彫形土器底部突起部							-192323.530	-38427.515	99.390					
223	3		土器	破片						-192323.689	-38427.899	99.397					
224	3下		軽石	軽石質加工品	軽石	3.8	73.3	65.6	45.4	35	-192323.450	-38429.520	99.147				
225	4		軽石	軽石質加工品	軽石	6.4	77.4	69	66.8	110	-192323.013	-38431.160	98.958				
226	3		土器	破片						-192322.614	-38431.821	98.988					
227	4		軽石	軽石質加工品	軽石	3.7	57.1	51	40.7	22	-192322.450	-38429.210	99.095				
228	4		土器	破片						-192320.979	-38427.481	99.640					
229	4	100	上器	彫形土器底部突起部						-192331.669	-38429.397	99.837				月造り	
230	3	10	土器	彫形土器底部突起部						-192330.072	-38428.824	99.689					
231	3		土器	破片						-192329.700	-38428.979	99.682					
232	4		土器	破片						-192328.189	-38429.389	99.610					
233	3		土器	彫形土器底部突起部						-192329.621	-38429.682	99.699					
234	4		土器	破片						-192329.104	-38429.872	99.575					
235	3	12	土器	彫形土器底部突起部						-192328.461	-38430.168	99.722				丹造り	
236	3		土器	破片						-192328.396	-38430.131	99.698				丹造り	
237	3下		土器	縫片						-192328.478	-38429.947	99.522					
238	3		土器	破片						-192328.377	-38430.789	99.566					
239	3	4	土器	彫形土器口縫部						-192328.874	-38430.528	99.566					
240	4		土器	縫片						-192329.578	-38430.581	99.601					
241	4		土器	破片						-192329.576	-38430.686	99.564					
242	3	11	土器	彫形土器底部突起部						-192329.676	-38430.621	99.630				灰あり	
243	3		土器	破片						-192329.893	-38430.544	99.682					
244	3		土器	縫片						-192330.062	-38430.447	99.714					
245	3		土器	縫片						-192330.441	-38430.169	99.674					
246	3		土器	縫片						-192330.648	-38430.612	99.704					
247	3		土器	縫片						-192330.310	-38430.741	99.671					
248	3		土器	彫形土器底部突起部						-192330.671	-38430.885	99.725					
249	4		土器	縫片						-192330.421	-38431.109	99.673					
250	4		土器	破片						-192331.619	-38430.662	99.713					

第23表 出土遺物台帳⑤

測定番号	測定位	測量番号	種別	器種名	材質	面組率	法量(±mm)	法量(±mm)	法量(±mm)	重量(g)	X座標	Y座標	Z座標	接合	同一個体	備考	
251	4		土器	圓底土器側面部片						-192331.259	-38430.252	99.683					
252	4		土器	側面部片						-192331.289	-38431.176	99.720					
253	3		土器	罐片						-192330.876	-38431.653	99.726					
254	3		土器	罐片						-192330.789	-38431.639	99.730					
255	3		欠蓋	欠蓋						-192330.333	-38431.654	99.716					
256	3	14	土器	燒形土器側面部片						-192330.150	-38431.410	99.684					
257	3		罐	罐	安山岩	42.3	87.3	66	44.4	205	-192329.999	-38431.821	99.608				
258	3	27	土器	圓底土器側面部片						-192329.803	-38431.645	99.596				沈祖あり	
259	3		土器	圓底土器頸部片						-192329.652	-38431.250	99.607					
260	3		土器	罐片						-192330.878	-38431.940	99.732					
261	3	25	土器	圓底土器頸部片						-192331.070	-38432.189	99.750				沈祖あり	
262	3	26	土器	圓底土器頸部片						-192331.040	-38432.246	99.745				沈祖あり	
263	3		土器	圓底土器頸部突唇部片						-192330.945	-38432.362	99.748					
264	3		鞋石	鞋石	鞋石	11.3	142.6	82.4	44.6	120	-192329.764	-38432.659	99.693				
265	3		土器	罐片						-192329.587	-38432.696	99.711					
266	3		鞋石	鞋石	鞋石	0.7	85.4	76.9	52.9	75	-192329.753	-38432.996	99.580				
267	3		土器	圓底土器側面部突唇部片						-192330.209	-38433.494	99.612					
268	3		土器	側面部片						-192330.021	-38434.307	99.557					
269	3	46	土器	圓底土器口唇部片						-192329.944	-38434.579	99.539	351				
270	3	19	土器	圓底土器側面部片						-192329.361	-38433.722	99.691	268				
271	3		土器	底部片						-192330.033	-38433.352	99.644					
272	3		土器	側面部片						-192330.072	-38433.574	99.660					
273	3		土器	底底部片						-192329.169	-38433.186	99.661					
274	3		土器	底底部附近片						-192328.689	-38432.866	99.666					
275	3		土器	破片						-192328.531	-38432.948	99.769					
276	3		土器	側面部片						-192328.258	-38432.840	99.639					
277	3		土器	側面部片						-192328.126	-38433.800	99.617					
278	3		土器	鐵片						-192327.751	-38434.166	99.666					
279	3		土器	破片						-192327.566	-38433.827	99.638					
280	3		土器	鐵片						-192327.489	-38433.315	99.678					
281	3		土器	破片						-192327.516	-38433.130	99.609					
282	3		土器	鐵片						-192327.008	-38432.690	99.630					
283	3		土器	鐵片						-192327.002	-38432.810	99.574					
284	3		土器	鐵片						-192326.852	-38432.916	99.642					
285	3		土器	鐵片						-192326.888	-38433.605	99.526					
286	3		土器	鐵片						-192326.297	-38433.879	99.523					
287	3		土器	圓底土器側面部突唇部片						-192326.014	-38433.875	99.536					
288	3	19	土器	圓底土器側面部片						-192326.887	-38434.323	99.532	270				
289	3		土器	側面部片						-192326.749	-38434.676	99.563					
290	3		土器	圓底土器側面部突唇部片						-192326.785	-38434.732	99.643					
291	3		土器	鐵片						-192326.608	-38435.044	99.573					
292	3		土器	鐵片						-192327.486	-38434.569	99.624					
293	3		土器	圓底土器口唇部片						-192327.427	-38433.151	99.716					
294	3	15	土器	圓底土器口唇部片						-192324.240	-38433.223	99.412					
295	3		土器	鐵片						-192327.295	-38432.037	99.712					
296	3		土器	鐵片						-192328.572	-38431.796	99.646					
297	3		土器	鐵片						-192328.720	-38431.693	99.641					
298	3		土器	鐵片						-192329.572	-38430.371	99.603					
299	3	32	鞋石	鞋石加工作品	鞋石	30.8	69	62	35	60	-192329.669	-38433.369	99.584				
300	4		土器	底部附近片						-192328.359	-38431.322	99.397					

第24表 出土遺物台帳⑥

取土 番号	層位 番号	測量 番号	器種名	材質	蓄温率 (×10.1)	汎長 (mm)	汎幅 (mm)	汎厚 (mm)	重量 (g)	X座標	Y座標	Z座標	接合 個体	符号	
301	4	77	土器	變形土器口沿部片					-19237.958	-38432.035	99.275				
302	3		土器	破片					-19239.695	-38431.057	99.550				
303	3		土器	破片					-19236.664	-38436.683	99.990				
304	3		土器	破片					-19239.969	-38429.065	98.033				
305	3		土器	破片					-19239.949	-38426.785	99.207				
306	3		土器	破片					-19239.194	-38436.891	99.267				
307	3		土器	破片					-19239.363	-38427.123	99.209				
308	3	29	土器	高环(虎川式土器)剥落片					-19230.852	-38428.196	99.132		月造⑨		
309	3		土器	破片					-19239.972	-38426.162	99.322				
310	3		土器	破片					-19230.628	-38426.321	99.345				
311	3F		土器	破片					-19230.761	-38425.902	99.325				
312	3		土器	破片					-19230.669	-38425.505	99.481				
313	3		土器	破片					-19233.975	-38425.452	99.453				
314	3		土器	變形土器腹部突起部片					-19230.528	-38429.010	99.048				
315	3F		土器	破片					-19233.954	-38429.527	98.946				
316	4		土器	底部附近片					-19234.719	-38429.472	98.988				
317	3F		土器	剥落片					-19233.808	-38434.710	99.478				
318	3F		土器	破片					-19231.101	-38424.677	99.481				
319	4		土器	剥落片					-19232.446	-38424.859	99.514				
320	3F	47	土器	變形土器口脣部片					-19232.706	-38424.733	99.558				
321	3F		土器	剥落片					-19232.562	-38434.123	99.592				
322	4	105	石器	石器	凝灰岩	181.6	208	192	114	4700	-19233.769	-38422.568	99.364		
323	4		土器	變形土器腹部片					-19232.708	-38424.322	99.585				
324	4		土器	破片					-19233.725	-38425.041	99.592				
325	3F		土器	破片					-19233.569	-38425.772	99.648				
326	3F		土器	破片					-19233.325	-38423.859	99.775				
327	4		土器	底部附近片					-19236.076	-38428.600	99.433				
328	4		土器	破片					-19233.221	-38428.876	99.455				
329	4		土器	破片					-19233.087	-38427.685	99.649				
330	4		土器	破片					-19230.971	-38426.728	99.848				
331	4		土器	破片					-19239.787	-38429.062	99.634	153			
332	4	2	土器	變形土器口縫部片					-19233.668	-38429.784	99.615				
333	4		土器	破片					-19233.243	-38430.438	99.645				
334	4		土器	破片					-19230.863	-38431.626	99.694				
335	3F	63	土器	變形土器底部					-19233.012	-38433.145	99.567	336			
336	3F	63	土器	變形土器破部片					-19230.346	-38433.201	99.604	335			
337	4		土器	破片					-19239.862	-38431.552	99.504				
338	3F		土器	剥落片					-19238.966	-38432.246	99.505				
339	3F		土器	破片					-19238.991	-38432.112	99.502				
340	3F		土器	破片					-19233.715	-38432.081	99.503				
341	3F		土器	破片					-19238.954	-38432.450	99.486				
342	3F		土器	破片					-19233.609	-38432.303	99.489				
343	3F		土器	破片					-19238.956	-38432.650	99.514				
344	3F		土器	破片					-19239.224	-38432.929	99.475				
345	3F		土器	破片					-19238.676	-38433.570	99.421				
346	3F		土器	破片					-19238.818	-38433.779	99.454				
347	3F		土器	破片					-19239.304	-38433.787	99.480				
348	3F	71	桂石	桂石試加工品	桂石	21.0	100	49	39	52	-19239.163	-38434.092	99.450		
349	3F		土器	剥落片					-19239.942	-38434.339	99.521				
350	3F		土器	破片					-19230.103	-38434.295	99.551				

第25表 出土遺物台帳⑦

器上 番号	層位	器種 番号	種別	器種名	材質 ($\times 10^{-3}$)	帶組率	法長	法寬	法厚	重量 (g)	X座標	Y座標	Z座標	集合	同一 個体	備考	
351	3F	46	土器	彌形土器口唇部片			-192329.377	-38435.177	99.435	269							
352	3F		土器	刷把片			-192329.521	-38435.892	99.448								
353	3F		土器	彌形土器腹部片			-192328.985	-38435.791	99.370								
354	3F		土器	破片			-192328.834	-38436.697	99.401								
355	3	9	土器	彌形土器口唇部片			-192328.332	-38436.451	99.442								
356	3F		土器	彌形土器腹部尖突部分			-192327.929	-38436.177	99.254								
357	4		土器	破片			-192329.421	-38437.472	99.356								
358	4		土器	破片			-192329.368	-38437.585	99.346								
359	4		土器	破片			-192328.354	-38438.678	99.266								
360	4		土器	破片			-192328.031	-38438.290	99.218								
361	4		土器	彌形土器颈部尖突部分			-192327.778	-38437.469	99.183								
362	3上		土器	破片			-192327.649	-38437.087	99.445								
363	3上		土器	破片			-192327.336	-38435.712	99.474								
364	3F		土器	破片			-192327.142	-38437.175	99.174								
365	3上		土器	破片			-192326.218	-38435.718	99.272								
366	3F		土器	彌形土器腹部片			-192328.397	-38435.027	99.333								
367	3F	55	土器	彌形土器口唇部片			-192328.039	-38434.957	99.271								
368	3上		土器	破片			-192327.682	-38434.437	99.402								
369	4		土器	破片			-192327.647	-38434.772	99.194								
370	4		土器	破片			-192327.525	-38434.635	99.201								
371	3F	43	土器	彌形土器口唇部尖突部分			-192327.538	-38433.175	99.235	650							
372	3上		土器	破片	安山岩	103.3 45.7 33.5 27.5 48	-192327.263	-38434.752	99.378								
373	3F		土器	破片			-192327.179	-38435.016	99.203								
374	3F		輕石	輕石	輕石	20.7 54.5 34.2 37.6 22	-192327.056	-38435.121	99.174								
375	3F		土器	彌形土器腹部尖突部分			-192327.214	-38433.298	99.187								
376	3F		土器	彌形頂近片			-192327.353	-38433.441	99.179								
377	3上		土器	破片			-192327.664	-38433.515	99.472								
378	3上		土器	破片			-192327.521	-38435.545	99.442								
379	3上		土器	破片			-192327.038	-38435.389	99.379								
380	3F		土器	破片			-192326.747	-38435.366	99.178								
381	3上		土器	破片			-192326.452	-38435.090	99.474								
382	3上		土器	破片			-192326.298	-38433.178	99.336								
383	3上		土器	彌形土器腹部片			-192326.101	-38435.647	99.458								
384	3F		土器	破片			-192325.753	-38434.670	99.106								
385	3F		土器	破片			-192325.833	-38434.355	99.048								
386	4		土器	彌形土器腹部尖突部分			-192325.668	-38434.563	98.979								
387	3上		土器	破片			-192326.150	-38433.882	99.395								
388	3上		土器	彌形土器口唇部片			-192325.806	-38433.402	99.366								
389	4		土器	破片			-192326.374	-38434.595	99.052								
390	4		土器	刷把片			-192326.480	-38434.477	99.057								
391	3F		土器	刷把片			-192327.035	-38433.381	99.184								
392	3F		土器	破片			-192326.817	-38433.188	99.257								
393	3上		土器	刷把片			-192326.604	-38432.988	99.368								
394	3F		土器	刷把片			-192327.618	-38432.644	99.289								
395	3F		土器	破片			-192326.501	-38431.697	99.355								
396	3F		土器	破片			-192326.415	-38431.859	99.213								
397	3F		土器	破片			-192326.164	-38431.899	99.225								
398	3F		土器	破片			-192326.091	-38431.983	99.269								
399	3F		土器	破片			-192325.723	-38431.585	99.164								
400	3F		土器	破片			-192325.226	-38431.905	99.070								

第26表 出土遺物台帳⑧

取上 番号	層位 番号	標識 番号	種別	番號名	材質	荷重率 (×10 ⁻³)	法量長 (mm)	法量幅 (mm)	法量厚 (mm)	重量 (g)	X座標	Y座標	Z座標	結合	同一 個体	備考
401	3下		土器	繩片			-192324.993	-38431.996	99.049							
402	3下		土器	變形土器口唇部片			-192325.976	-38433.019	99.121							
403	3下		土器	繩片			-192323.445	-38432.974	99.096							
404	3下		土器	繩片			-192324.398	-38432.331	98.980							
405	3上		土器	繩片			-192323.951	-38432.868	99.138							
406	3上		土器	變形土器口唇部片			-192324.174	-38433.268	99.254							
407	3下		土器	繩片			-192324.496	-38433.454	99.096							
408	3下		土器	繩片			-192324.363	-38433.995	99.075							
409	3上		土器	繩片			-192323.503	-38433.942	99.259							
410	3下		土器	繩片			-192323.831	-38433.222	98.844							
411	3下	54	土器	變形土器口唇部片			-192323.505	-38429.930	98.817							①
412	3下		土器	變形土器口唇部片			-192323.301	-38432.548	98.748							
413	2		土器	口唇部片			-192322.992	-38433.147	98.948							
414	4		土器	繩片			-192319.761	-38433.171	98.104							
415	4		土器	變形繩片			-192321.821	-38433.337	98.483							
416	4		土器	繩殘片			-192322.105	-38433.895	98.503							
417	2		土器	變形土器口唇部片			-192322.242	-38433.916	98.946							
418	4		土器	繩片			-192322.043	-38432.986	98.549							
419	3上		土器	底面附着片			-192324.830	-38433.988	99.303							
420	3上	36	土器	鉢形土器			-192325.318	-38435.876	99.158							
421	3下		土器	繩片			-192326.283	-38436.437	99.042							
422	4		土器	變形土器口唇部片			-192327.847	-38433.853	99.198							
423	3下		土器	繩片			-192326.866	-38437.781	99.093							
424	3下		土器	繩片			-192326.613	-38436.958	99.058							
425	4		土器	繩片			-192332.861	-38432.218	100.141							
426	4		土器	繩片			-192332.854	-38432.441	100.113							
427	2		土器	變形繩片			-192333.670	-38433.838	99.944							
428	4		土器	繩片			-192334.412	-38434.554	99.933							
429	4		土器	繩片			-192334.726	-38435.787	99.885							
430	4		土器	繩片			-192333.867	-38435.279	99.944							
431	4		輕石	輕石	輕石	24.1	76.4	59.3	51.2	85	-192334.265	-38437.501	99.886			
432	4		土器	繩片			-192332.729	-38437.389	99.737							
433	4		土器	繩片			-192332.978	-38438.526	99.678							
434	2		輕石	繩片	不明	5.6	29.4	25.6	18.6	10	-192332.770	-38440.331	99.770			
435	2		土器	繩片			-192332.422	-38440.484	99.790							
436	2		土器	繩片			-192332.473	-38440.985	99.786							
437	2		土器	變形土器口唇部片			-192332.457	-38440.877	99.635							
438	3		土器	繩片			-192332.154	-38440.113	99.727							
439	3		土器	繩片			-192332.633	-38439.887	99.724							
440	3下		土器	繩片			-192331.732	-38440.073	99.749							
441	4		土器	繩片			-192332.027	-38440.229	99.651							
442	4		土器	繩片			-192331.645	-38440.280	99.632							
443	3下		土器	繩片			-192331.894	-38439.781	99.776							
444	3下		土器	口唇部片			-192331.699	-38439.676	99.636							
445	3下		土器	繩片			-192331.370	-38439.795	99.649							
446	3下		土器	繩片			-192331.274	-38439.892	99.618							
447	3下		土器	繩片			-192330.686	-38439.845	99.674							
448	3下		土器	變形土器口唇部片			-192330.537	-38439.920	99.669							
449	3下		土器	變形土器口唇部片			-192330.605	-38440.224	99.669							
450	3下	42	土器	變形土器口唇部片			-192330.616	-38435.516	99.661							

第27表 出土遺物台帳(9)

取土 番号	層位	採取 番号	種別	器種名	材質	器皿半 径(×10 ⁻¹) (mm)	法盤長 (mm)	法盤幅 (mm)	法盤厚 (mm)	重量 (g)	X座標	Y座標	Z座標	接合 部一 個体	備考	
451	3下	48	土器	圓形土器口緣部片						-192331.452	-38435.796	99.721	663			
452	3下	44	土器	圓形土器口緣部片						-192331.527	-38436.482	99.664				
453	3下		土器	破片						-192332.304	-38436.455	99.818				
454	3下	66	土器	底部片						-192333.107	-38435.964	99.835				
455	3下		土器	破片						-192339.722	-38438.042	99.536				
456	3下		土器	破片						-192339.706	-38438.59	99.518				
457	3下		土器	破片						-192330.509	-38438.187	99.632				
458	3下		土器	破片						-192330.721	-38438.487	99.684				
459	3下	58	土器	圓形土器腹部帶把手片						-192331.033	-38438.542	99.739				
460	3下		土器	破片						-192331.500	-38438.819	99.648				
461	3下		土器	破片						-192331.518	-38438.867	99.740				
462	3下		土器	尖蒂部片						-192331.615	-38438.882	99.767				
463	3下		土器	圓形土器頂部片						-192331.471	-38438.222	99.735				
464	3下		土器	圓形土器頂部突蒂部片						-192326.534	-38438.785	99.088				
465	2		土器	尖蒂部片						-192335.612	-38433.806	100.019				
466	4		土器	破片						-192327.856	-38437.491	99.189				
467	4		土器	破片						-192327.364	-38437.749	99.088				
468	4	93	土器	圓形土器口緣部片						-192326.786	-38437.545	99.003				
469	3下		土器	破片						-192326.590	-38437.665	99.063				
470	3下		土器	底部附近片						-192323.607	-38435.162	99.027				
471	3下		土器	破片						-192223.061	-38434.563	98.999				
472			欠章	欠章						-192227.177	-38434.811	99.369				
473	3下		土器	土壤						-192221.722	-38435.016	99.003				
474	3下		土器	底部附近片						-192227.495	-38435.199	99.153				
475	3下		土器	破片						-192226.876	-38435.107	99.027				
476	4		土器	破片						-192226.225	-38434.865	98.959				
477	4		土器	尖蒂部片						-192225.667	-38435.319	98.933				
478	4		土器	破片						-192225.586	-38434.890	98.890				
479	4		土器	破片						-192225.914	-38436.938	98.851				
480	3下	59	土器	圓形土器頂部與把手片						-192225.556	-38436.303	98.920				
481	3下		土器	圓形土器口緣部片						-192225.375	-38436.072	99.064				
482	3下		土器	底部附近片						-192225.278	-38436.143	98.854				
483	3下		土器	破片						-192224.963	-38436.051	98.831				
484	3下		砾石	砾石	砾石	2	31.2	21.9	24.6	-192225.006	-38437.333	98.756				
485	3下		土器	底部附近片						-192224.975	-38437.461	98.812				
486	3下		土器	尖蒂部片						-192224.569	-38437.004	98.758				
487	3下		石器	刮片	安山岩	33.3	27.5	23.1	8.1	-192224.186	-38436.101	98.694				
488	4		土器	破片						-192224.840	-38435.709	98.790				
489	4		土器	破片						-192224.480	-38435.477	98.777				
490	4	84	土器	圓形土器口緣部片						-192224.108	-38435.556	98.661				
491	4		土器	破片						-192224.187	-38435.213	98.771				
492	3下		土器	破片						-192224.598	-38434.804	98.830				
493	3下		土器	破片						-192223.835	-38434.742	98.688				
494	3下	70	砾石	砾石製加工品	砾石	32.4	110	80	53	145	-192223.695	-38434.847	98.778			
495	3下		土器	破片						-192223.467	-38434.769	98.656				
496	3下		土器	破片						-192223.021	-38434.479	98.618				
497	3上		土器	圓形土器頂部夾蒂部片						-192222.888	-38434.825	98.763				
498	4		砾石	砾石	砾石	13.4	45.4	33.7	14.9	-192223.131	-38435.181	98.540				
499	4		土器	破片						-192222.959	-38435.567	98.520				
500	4		土器	尖蒂部片						-192223.000	-38435.732	98.516				

第28表 出土遺物台帳⑩

取上 编号	部位	揭取 编号	施面	器物名	材质	带细窄 法量窄 法量长 法量宽 法量厚 重量 (×10) ³ (mm) (mm) (mm) (mm) (g)	X座标	Y座标	Z座标	接合	同一 组合	像序
501	3下		土部	变形土器颈部壳带薄片		-192322.643	-38436.112	98.527				
502	4		土部	瓷片		-192322.370	-38435.100	98.448				
503	3下		土部	玻璃片		-192321.957	-38437.046	98.685				
504	4		土部	瓷片		-192321.401	-38432.669	98.765				
505	4		土部	玻璃片		-192321.825	-38432.709	98.721				
506	3下	62	土部	变形土器颈部壳带薄片		-19231.608	-38429.310	98.783				
507	3下		土部	玻璃片		-192330.551	-38426.841	99.796				
508	3下		土部	侧印片		-192329.870	-38426.990	99.784				
509	3下		土部	瓣片		-192329.443	-38426.330	99.805				
510	4		土部	玻璃片		-192328.487	-38426.262	99.645				
511	4		罐	罐	平明	7.9 21.6 16.8 14.9	-192328.374	-38428.434	99.557			
512	3下		土部	陶胎片		-192327.981	-38428.955	99.445				
513	3下	67	土部	陶胎片		-192327.704	-38428.121	99.443				
514	3下		欠香	欠香		-192326.655	-38428.406	99.455				
515	3下		欠香	欠香		-192326.527	-38428.442	99.403				
516	3下		欠香	欠香		-192326.692	-38427.886	99.430				
517	凹底3下		土部	玻璃片		-192326.899	-38427.719	99.158				
518	3下		欠香	欠香		-192325.317	-38428.628	99.443				
519	凹底3下	68	土部	变形土器		-192326.332	-38428.714	99.395	①			
520	凹底3下	68	土部	变形土器		-192326.511	-38427.660	99.457	①			
521	4		土部	玻璃片		-192326.486	-38427.332	99.269				
522	凹底3下		土部	瓣片		-192326.272	-38426.052	99.366				
523	凹底3下	41	土部	变形土器颈部壳带薄片		-192326.043	-38428.314	99.326				
524	凹底4		土部	瓣片		-192326.245	-38425.262	98.834				
525	凹底4下		土部	瓣片		-192326.867	-38425.850	99.568				
526	凹底3下		土部	变形土器颈部壳带薄片		-192325.755	-38425.182	99.363				
527	凹底3下		土部	瓣片		-192325.805	-38425.034	99.540				
528	凹底3下		土部	瓣片		-192326.027	-38424.914	99.534				
529	4	79	土部	变形土器口沿部分		-192326.592	-38424.647	99.576				
530	3上		土部	瓣片		-192322.026	-38426.022	99.500				
531	3上		土部	瓣片		-192322.059	-38426.243	99.549				
532	3下	72	砾石	砾石制加工品	砾石	36.2 100 90 50 150	-192321.022	-38426.519	99.136			
533	3下	73	砾石	砾石制加工品	砾石	35.1 148 74 51 225	-192322.539	-38429.670	98.917			
534	3下		土部	变形土器口沿部分		-192322.453	-38429.731	98.814				
535	3下		土部	砾片		-192322.046	-38429.452	98.918				
536	3下		砾	砾	安山岩	163.1 132.6 87.8 38 570	-192320.084	-38429.856	98.702			
537	3下		砾石	砾石片	砾石	20.3 61.8 51.9 23.6 20	-192321.865	-38430.915	98.685			
538	3下		土部	底部片		-192322.002	-38431.294	98.750				
539	4		砾	砾石	石英	41.8 28.6 22.3 30	-192321.443	-38431.254	98.575			
540	3下		土部	砾片		-192321.011	-38431.364	98.730				
541	3下		欠香	欠香		-192321.066	-38432.362	98.667				
542	3下		土部	砾片		-192321.471	-38431.712	98.526				
543	3下		土部	变形土器腹部片		-192321.030	-38431.293	98.626				
544	3下		砾石	砾石制加工品	砾石	2.8 85.2 67.8 25.3 25	-192321.063	-38432.338	98.661			
545	3下		土部	突脊部分		-192320.060	-38429.041	98.906				
546	3下		砾	砾	砾灰岩	58.4 67.7 67.3 53 260	-192320.964	-38430.212	98.685			
547	4		土部	底部分		-192319.840	-38431.144	98.769				
548	3下		土部	砾片		-192319.710	-38430.031	98.756				
549	3下		土部	砾片		-192319.777	-38430.325	98.605				
550	3下		土部	砾片		-192319.917	-38431.002	98.515				

第29表 出土遗物台帐①

取上 番号	単位	測定 番号	種類名	材質	含水率 (%)	法量 (mm)	長法量 (mm)	幅法量 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	X座標	Y座標	Z座標	適合 度合	同一 個体	備考
551	4		土器	破片						-19230.376	-38431.204	98.388				
552	3T	35	土器	變形土器						-19230.378	-38430.771	98.435	②			
553	3下		土器	破片						-19230.805	-38430.890	98.563				
554	3下		土器	破片						-19230.502	-38430.809	98.576				
555	3T		土器	破片						-19230.508	-38430.867	98.535				
556	3上	35	土器	變形土器						-19230.513	-38431.443	98.668	②			
557	3上	35	土器	變形土器						-19230.596	-38431.636	98.706	②			
558	3上	35	土器	變形土器						-19230.860	-38431.561	98.714	②			
559	3T		土器	破片						-19230.968	-38431.828	98.486				
560	3T	35	土器	變形土器						-19230.586	-38432.106	98.486	②			
561	3上	35	土器	變形土器						-19230.963	-38432.529	98.777	②			
562	3上	35	土器	變形土器						-19230.537	-38432.513	98.827	②			
563	3上	35	土器	變形土器						-19230.539	-38432.627	98.809	②			
564	3上	35	土器	變形土器						-19230.697	-38432.617	98.839	②			
565	3上	35	土器	變形土器						-19230.775	-38432.575	98.790	②			
566	3上	35	土器	變形土器						-19230.806	-38432.676	98.809	②			
567	3上		土器	破片						-19230.667	-38432.718	98.775	②			
568	3上	35	土器	變形土器						-19230.794	-38432.299	98.872	②			
569	3上	35	土器	變形土器						-19230.903	-38432.468	98.861	②			
570	3上	35	土器	變形土器						-19230.961	-38432.425	98.864	②			
571	3上		土器	變形土器						-19230.740	-38432.759	98.776	②			
572	3上	35	土器	變形土器						-19230.602	-38432.232	98.731	②			
573	3上	38	土器	鉢形土器口縫部片						-19230.919	-38433.376	98.726				
574	3上	35	土器	變形土器						-19230.480	-38432.493	98.843	②			
575	3上		土器	破片						-19230.259	-38432.435	98.761	②			
576	3上	35	土器	變形土器						-19230.173	-38432.496	98.784	②			
577	3上	35	土器	變形土器						-19230.188	-38432.586	98.766	②			
578	3上	35	土器	變形土器						-19230.246	-38432.623	98.756	②			
579	3上	35	土器	變形土器						-19230.038	-38432.523	98.687	②			
580	3上	35	土器	變形土器						-19230.987	-38432.637	98.670	②			
581	3上		土器	破片						-19230.197	-38432.795	98.701				
582	3上		土器	破片						-19230.329	-38432.942	98.616	②			
583	3T		土器	破片						-19230.203	-38432.960	98.688	②			
584	3上		土器	破片						-19230.234	-38432.120	98.703	②			
585	3上		土器	破片						-19230.220	-38432.644	98.703	②			
586	3上	35	土器	變形土器						-19230.917	-38432.206	98.685	②			
587	3上	35	土器	變形土器						-19230.922	-38432.201	98.642	②			
588	3上	35	土器	變形土器						-19230.970	-38433.460	98.610	②			
589	3上	35	土器	變形土器						-19230.736	-38432.469	98.590	②			
590	3T		欠器	欠器						-19230.382	-38432.324	98.570				
591	3T		土器	破片						-19230.650	-38432.938	98.734	②			
592	3上	35	土器	變形土器						-19230.833	-38432.846	98.643	②			
593	3上	37	土器	鉢形土器口縫部片						-19230.567	-38432.799	98.643				
594	3上		土器	破片						-19230.866	-38432.307	98.719	②			
595	3上	35	土器	變形土器						-19230.947	-38432.071	98.712	②			
596	3T		土器	破片						-19230.995	-38431.530	98.469				
597	4		土器	破片						-19230.569	-38432.767	98.126				
598	4	75	土器	變形土器口縫部片						-19230.978	-38434.405	98.098				
599	3T	50	土器	變形土器斜面突起部分						-19230.003	-38434.509	98.262				
600	3T	35	土器	變形土器						-19230.769	-38434.377	98.327	②			

第30表 出土遺物台帳⑫

記上番号	層位	測量番号	種別	器種名	材質	管通率 (×10 ⁻³)	法量長 (mm)	法量幅 (mm)	法量深 (mm)	重量 (g)	X座標	Y座標	Z座標	総合 得点	同一 個体	備考
601	3下		土器	變形土器縫縫底部片			-192318.758	-38434.342		98.329						
602	3上	39	土器	鉢形土器口縫部分			-192318.173	-38434.535		98.360						
603	3上	35	土器	變形土器			-192317.998	-38434.491		98.315						
604	3上		土器	破片			-192316.033	-38432.594		98.414						
605	3上		土器	破片			-192316.533	-38432.513		98.337						
606	3上		土器	尖唇部片			-192315.859	-38432.600		98.317						
607	3下		土器	破片			-192317.123	-38433.667		98.072						
608	3上		土器	破片			-192315.043	-38432.457		98.200						
609	3下		土器	破片			-192314.948	-38432.610		97.978						
610	3下		土器	尖唇部片			-192314.814	-38431.661		98.034						
611	3下		土器	破片			-192314.181	-38432.645		97.912						
612	3上		土器	破片			-192314.625	-38430.738		98.475						
613	3上		土器	口唇部片			-192314.730	-38430.469		98.447						
614	3下		土器	削刮片			-192313.381	-38431.074		97.943						
615	4	87	土器	變形土器縫縫底部片			-192312.824	-38431.111		97.824						
616	3下		土器	破片			-192313.491	-38430.148		98.327						
617	3下		石器	剥片	頁岩	0.1	28.6	16.3	1.9	-192313.494	-38430.200		98.233			
618	3下		土器	破片			-192312.905	-38429.921		98.152						
619	4		土器	削刮片			-192312.782	-38428.980		98.112						
620	3下		土器	破片			-192312.224	-38429.524		97.997						
621	3下		土器	破片			-192312.528	-38428.718		98.234						
622	4		土器	削刮片			-192312.324	-38428.391		98.179						
623	4		堅石	堅石	堅石	22.5	56.3	48.5	41.9	25	-192311.977	-38428.377		98.171		
624	3下		土器	破片			-192311.823	-38430.979		98.433						良付港
625	3下		土器	破片			-192316.972	-38430.947		98.208						耕削あり
626	3下		土器	底部附近片			-192317.454	-38430.049		98.518						
627	3下		土器	破片			-192316.844	-38429.845		98.440						
628	3下		土器	破片			-192316.625	-38429.978		98.314						
629	3下		土器	破片			-192316.352	-38429.872		98.418						
630	3下		土器	破片			-192315.863	-38430.070		98.316						
631	4		土器	破片			-192315.317	-38428.784		98.276						
632	4	74	土器	變形土器口縫部分			-192315.794	-38428.637		98.529						袖修丸あり
633	4	86	土器	彎形土器削刮尖唇部片			-192315.484	-38428.182		98.576						
634	3下		土器	破片			-192315.250	-38427.129		98.700						
635	4		土器	削刮片			-192316.605	-38427.453		98.769						
636	3下		土器	破片			-192314.487	-38427.322		98.664						
637	3下		土器	削刮片			-192314.439	-38426.921		98.678						
638	3下		土器	變形土器口縫部分			-192314.811	-38426.273		98.746						
639	3下		土器	破片			-192313.687	-38426.884		98.555						
640	3下		土器	破片			-192313.985	-38426.133		98.779						
641	4		土器	削刮片			-192322.085	-38430.358		98.771						
642	3下	56	土器	變形土器口谷部片			-192313.659	-38426.000		98.721						
643	3下		陶	圓片	安山岩	149.5	92.7	43.8	24	82	-192313.328	-38426.374		98.610		
644	3下		土器	破片			-192317.502	-38429.078		98.638						
645	3下		欠番	欠番			-192321.113	-38427.150		99.131						
646	3下		欠番	欠番			-192322.117	-38427.909		99.105						
647	3下		土器	破片			-192330.854	-38431.988		99.666						
648	3下		土器	破片			-192330.440	-38431.425		99.613						
649	3下		土器	破片			-192329.059	-38431.542		99.490						
650	3下	43	土器	變形土器口縫部分			-192328.941	-38431.685		99.506				371		

第31表 出土遺物台帳⑬

器上 部号	層位 番号	海級 番号	種別	器種名	材質	帶磁率 (X10 ⁻¹¹)	法盤長 (mm)	法盤幅 (mm)	法盤厚 (mm)	重量 (g)	X座標	Y座標	Z座標	複合 判定	同一 個体	備考
651	3F		土器	破片		-192328.624	-38431.600									
652	3F		土器	底部附近片		-192328.809	-38431.727									
653	3F		土器	突帶部片		-192328.753	-38431.770									
654	3F		土器	突帶部片		-192328.692	-38431.734									
655	3F		土器	削痕片		-192328.609	-38432.224									
656	3F		土器	破片		-192329.009	-38432.614									
657	3F		土器	底部附近片		-192328.918	-38432.347									
658	3F	60	土器	變形土器側部突帶部片		-192328.517	-38432.388									
659	3F		土器	變形土器側部突帶部片		-192328.554	-38431.531									
660	3F	49	土器	變形土器側部突帶部片		-192327.615	-38431.614									
661	3F		土器	破片		-192329.152	-3842.206									
662	3F		土器	破片		-192329.247	-3842.013									
663	3F	48	土器	變形土器口緣部片		-192329.836	-38433.851							451		
664	3F		土器	削痕片		-192329.756	-38433.882									
665	3F		土器	突帶部片		-192329.436	-38433.811									
666	4		土器	縫片		-192329.331	-38434.964									
667	3F	51	土器	變形土器側部突帶部片		-192328.444	-38434.670									
668	3F		土器	削痕片		-192327.999	-38434.809									
669	3F		土器	縫片		-192327.710	-38434.549									
670	4	94	土器	變形土器側部削痕片		-192327.223	-38434.524									
671	3F		土器	縫片		-192327.159	-38434.213									
672	4		土器	破片		-192326.361	-38434.395									
673	4		土器	破片		-192326.055	-38434.646									
674	3F		土器	變形土器側部突帶部片		-192326.161	-38434.100									
675	3F		土器	削痕片		-192326.322	-38433.677									
676	3F		土器	底邊附近片		-192325.829	-38433.539									
677	3F		土器	破片		-192325.912	-38433.370									
678	3F	61	土器	變形土器側部突帶部片		-192325.871	-38433.585									
679	4	89	土器	削痕片		-192325.455	-38434.424								黒井アリ	
680	4		土器	破片		-192325.567	-38433.162									
681	3F		土器	縫片		-192325.270	-38433.117									
682	3F		土器	削痕片		-192325.167	-38433.125									
683	3F		土器	破片		-192325.480	-38432.279									
684	3F	65	土器	底邊片		-192325.834	-38431.940									
685	4		土器	破片		-192325.453	-38431.954									
686	4	85	土器	變形土器側部突帶部片		-192325.153	-38431.737									
687	3F		土器	縫片		-192324.834	-38432.325									
688	4		土器	縫片		-192327.450	-38435.250									
689	4		土器	縫片		-192327.374	-38435.881									
690	4		土器	破片		-192327.509	-38435.931									
691	4		土器	削痕片		-192327.937	-38436.427								灰岩着	
692	4		土器	破片		-192328.272	-38437.193									
693	4		土器	突帶部片		-192328.053	-38437.342									
694	4		土器	變形土器側部突帶部片		-192327.529	-38437.475									
695	4		土器	縫片		-192327.320	-38437.770									
696	4		土器	縫片		-192326.818	-38437.689									
697	4		土器	縫片		-192326.919	-38437.281									
698	3F		土器	縫片		-192326.746	-38436.557									
699	3F		土器	變形土器口緣部片		-192325.375	-38435.878									
700	4		土器	縫片		-192326.483	-38432.959									

第32表 出土遺物台帳④

取上 番号	番位	彌數 番号	種別	器物名	材質	高さ率 (X/添)	法量長 (mm)	法量幅 (mm)	法量深 (mm)	重量 (g)	X座標	Y座標	Z座標	撮合	同一 個体	備考
701	4		土器	縫部片			-192326.622	-38432.928	99.090							
702	4		土器	亮光土器縫部突起部片			-192326.642	-38432.176	99.112							
703	4		土器	縫部片			-192321.671	-38433.298	98.421							
704	3下	57	土器	亮光土器縫部突起部片			-192312.632	-38426.041	98.513							
705	3下		土器	縫片			-192312.698	-38425.764	98.530							
706	3下		土器	破片			-192312.338	-38425.444	98.520							
707	4		土器	縫片			-192312.088	-38426.567	98.429							
708	4		土器	破片			-192312.677	-38426.513	98.439							
709	4		土器	縫片			-192311.136	-38426.958	98.109							
710	4		土器	破片			-192311.389	-38426.625	97.913							
711	3下	64	土器	底薄			-192316.938	-38429.184	97.805							
712	3下		土器	剝離片			-192311.334	-38429.595	97.858							
713	3下		土器	剝離片			-192311.698	-38429.456	97.925							
714	4		土器	縫片			-192312.094	-38428.870	98.043							
715	4	97	土器	亮光土器縫部突起部片			-192315.310	-38429.660	98.272							
716	4		土器	縫片			-192315.612	-38430.263	98.193							
717	4		土器	破片			-192315.259	-38431.058	98.063							
718	4		土器	縫片			-192315.323	-38431.326	98.043							
719	4		土器	口唇部片			-192314.855	-38431.592	97.975							
720	4		土器	縫片			-192313.821	-38431.810	97.837							
721	4		土器	剝離片			-192313.687	-38432.173	97.790							
722	4	80	土器	亮光土器口唇部片			-192314.272	-38432.567	97.844							
723	4	90	土器	亮光土器縫部突起部片			-192314.983	-38432.488	97.883							
724	4		土器	破片			-192315.178	-38431.943	97.943							
725	3下		土器	縫片			-192315.813	-38432.643	98.073							
726	4	101	土器	亮光土器縫部突起部片			-192316.243	-38432.731	98.019							
727	4		土器	縫片			-192316.610	-38432.951	98.057							
728	4		土器	破片			-192317.132	-38433.164	98.071							
729	4		土器	縫片			-192316.671	-38433.255	97.979							
730	4		土器	突起部片			-192317.000	-38433.480	98.016							
731	4		土器	縫片			-192316.820	-38429.878	98.374							
732	4	76	土器	亮光土器口唇部片			-192318.092	-38429.346	98.601							
733	3下		土器	縫片			-192318.274	-38429.678	98.632							
734	4	88	土器	亮光土器縫部突起部片			-192317.039	-38430.702	98.173							
735	3下		土器	底薄附近片			-192318.804	-38430.856	98.449							
736	4	103	鐵石	鐵石製加工品	鐵石	13.4 41 50 22 12	-192317.666	-38431.954	98.133							
737	4		土器	縫片			-192319.681	-38431.969	98.329							洪村南
738	3下		土器	縫片			-192322.049	-38432.022	98.548							
739	4		土器	亮光土器縫部突起部片			-192321.871	-38431.994	98.478							
740	3下		土器	剝離片			-192321.390	-38432.350	98.037							
741	3上		土器	欠壠			-192320.555	-38432.539	98.736							
742	3上		土器	塑形土器			-192319.846	-38432.420	98.604							
743	3上		土器	剝離片			-192319.834	-38432.338	98.748							
744	3上	35	土器	塑形土器			-192319.812	-38432.492	98.669	②						
745	3上		土器	縫片			-192319.799	-38432.556	98.742							
746	3上	35	土器	塑形土器			-192319.636	-38432.909	98.703	②						
747	3上	35	土器	亮光土器			-192319.803	-38432.989	98.636	②						
748	3上		土器	欠壠			-192319.723	-38432.794	98.706							
749	3上		土器	塑形土器			-192319.698	-38432.730	98.690	②						
750	3上	35	土器	塑形土器			-192319.718	-38432.730	98.664	②						

第33表 出土遺物台帳

造上 番号	部位	測量 番号	種別	器物名	材質	帶面寸 (mm)	法量長 (mm)	法量幅 (mm)	法量厚 (mm)	重量 (g)	X座標	Y座標	Z座標	接合 部	同一 個体	級号
751	3上	35	土器	變形土器						-192319.611	-38432.701	96.699		②		
752	3上	35	土器	變形土器						-192319.669	-38432.616	98.693		②		
753	3上	35	土器	變形土器						-192319.752	-38432.628	98.740		②		
754	3上	35	土器	變形土器						-192319.664	-38432.568	98.721		②		
755	3上		欠番	欠番						-192319.717	-38432.521	98.698				
756	3上	35	土器	變形土器						-192319.732	-38432.594	98.706		②		
757	3上	35	土器	變形土器						-192319.776	-38432.308	98.735		②		
758	3上	35	土器	變形土器						-192319.859	-38432.175	98.723		②		
759	3上	35	土器	變形土器						-192320.123	-38433.035	98.731		②		
760	3上	35	土器	變形土器						-192319.945	-38432.804	98.675		②		
761	3F		土器	破片						-192320.144	-38431.145	98.391				
762	3F		土器	剥片						-192320.129	-38432.612	98.396				
763	3F	52	土器	變形土器頭部突唇部片						-192319.925	-38432.173	98.662				
764	3F	53	土器	變形土器頭部突唇部片						-192319.901	-38432.090	98.448				
765	3F		土器	突唇部片						-192319.900	-38431.827	98.479				
766	3F		土器	縫片						-192319.579	-38432.338	98.446				
767	4	104	燧石	燧石製加工品	燧石	22.5	79	50	38	45	-192329.042	-38436.979	99.344			
768	4		土器	破片						-192328.716	-38436.899	99.257				
769	4		土器	縫片						-192328.574	-38437.356	99.368				
770	4		燧石	燧石	燧石	18.6	47	38.9	31	20	-192328.449	-38437.684	99.227			
771	4		土器	縫片						-192328.348	-38437.732	99.308				
772	4		土器	破片						-192328.035	-38438.032	99.187				
773	4		土器	縫片						-192327.996	-38437.507	99.117				
774	4		土器	破片						-192328.257	-38437.077	99.187				
775	4		土器	破片						-192328.446	-38436.869	99.224				
776	4		土器	縫片						-192328.318	-38436.768	99.149				
777	4	82	土器	變形土器口部片						-192327.519	-38437.877	99.035				
778	4		土器	破片						-192327.998	-38436.688	99.147				
779	4		土器	縫片						-192329.926	-38433.891	99.395				
780	4	91	土器	變形土器頭部片						-192328.964	-38431.728	99.383				
781	4		土器	破片						-192328.753	-38433.694	99.372				
782	4		土器	底部附近片						-192328.973	-38433.284	99.384				
783	4		土器	突唇片						-192330.637	-38431.419	99.385				
784	4		土器	縫片						-192330.824	-38430.928	99.626				
785	4		土器	破片						-192330.741	-38430.585	99.624				
786	4	95	土器	變形土器頭部突唇部片						-192330.249	-38430.199	99.625				
787	4		土器	縫部片						-192330.152	-38430.019	99.577				
788	4		土器	變形土器頭部突唇部片						-192329.923	-38430.110	99.570				
789	4		土器	縫片						-192329.548	-38430.631	99.546				
790	4		土器	底部附近片						-192329.570	-38430.464	99.525				
791	4		燧石	燧石製加工品	燧石	9.5	114.7	88.5	87.8	182	-192329.075	-38430.892	99.332			
792	4	98	土器	變形土器頭部突唇部片						-192328.764	-38431.224	99.397				
793	4	92	土器	變形土器口部片						-192328.531	-38429.275	99.525				
794	4		土器	縫片						-192329.681	-38438.543	99.632				
795	4		土器	縫部片						-192324.509	-38432.204	98.817				
796	4		土器	縫片						-192323.144	-38435.252	98.530				
797			欠番	欠番						-192326.690	-38428.515	99.666				
798	3F	68	土器	變形土器						-192326.296	-38428.665	99.446	①			
799			欠番	欠番						-192326.576	-38428.031	99.431				
800	3F		土器	縫片						-192326.317	-38428.689	99.430				

第34表 出土遺物台帳⑩

取上 番号	層位	掘載 番号	種別	器種名	材質	帶範率 (X:Y:1)	法量(長) (mm)	法量(高) (mm)	法量(厚) (mm)	重量 (g)	X座標	Y座標	Z座標	接合 箇所	同一 個体	備考
801	3下		土器	罐片			-192327.903	-38428.049		99.480						
802	3下		土器	變形土器附鉢中央部片			-192328.270	-38428.011		99.569						
803	4	83	土器	變形土器口沿部分片			-192327.835	-38425.596		99.496						
804	4		土器	罐片			-192327.760	-38428.294		99.589						
805	3下		土器	罐片			-192327.224	-38425.140		99.489						
806	3下		土器	罐片			-192327.157	-38425.082		99.581						
807	3下		土器	罐片			-192325.808	-38425.837		99.464						
808	凹槽3下		土器	罐片			-192328.264	-38428.360		99.221						
809	凹槽3下		土器	罐片			-192326.501	-38425.462		99.282						
810	凹槽3下		土器	罐片			-192326.218	-38424.864		99.273						
811	凹槽3下		土器	罐片			-192325.739	-38425.146		99.290						
812	4		土器	罐片			-192324.437	-38424.694		99.430						
813	3下		土器	罐片			-192319.969	-38425.819		99.120						
814	3下		土器	罐片			-192319.907	-38426.706		99.047						
815	3下		土器	罐片			-192318.834	-38426.999		98.850						
816	3下		土器	變形土器口唇部片			-192320.731	-38429.618		98.627						
817	4	96	土器	變形土器頸中央部分片			-192320.956	-38430.868		98.605						
818	4		土器	頸部尖頂片			-192320.947	-38431.527		98.532						
819	4		土器	底部附着片			-192320.104	-38430.873		98.519						
820	3下		土器	罐片			-192328.079	-38427.317		99.569						
821	4		土器	罐片			-192318.252	-38431.778		98.256						
822	4		土器	罐片			-192317.991	-38432.185		98.170						
823	4		土器	罐片			-192317.602	-38431.840		98.172						
824	3下		土器	變形土器頸桿片			-192318.250	-38429.696		98.561						
825	4		土器	罐片			-192317.743	-38429.069		98.386						
826	3下		土器	罐片			-192317.681	-38428.234		98.818						
827	3下		土器	罐片			-192316.954	-38428.557		98.773						
828	4		土器	罐片			-192315.437	-38427.063		98.714						
829	4	78	土器	變形土器口谷部分片			-192316.033	-38426.163		98.914						
830	3下		土器	變形部片			-192321.494	-38428.161		99.146						
831	3下		土器	罐片			-192329.454	-38437.430		99.304						
832	4		土器	頸部片			-192331.463	-38431.442		99.769						
833	3上	35	土器	變形土器			-192319.569	-38432.653		98.377	②					
834	3上		土器	罐片			-192319.738	-38432.884		98.515	②					
835	4		土器	頸部片			-192319.931	-38432.880		98.329						
836	4	102	糧石	穀石製加工品	穀石	21 38 23 23.6	-192319.848	-38432.842		98.335						
837	4		土器	罐片			-192326.531	-38431.559		99.072						
838	凹槽3下	40	土器	變形土器頸中央部分片			-192324.449	-38425.180		99.527						

第35表 出土遺物台帳⑯

凡例

記 会① : 164, 167, 172, 176, 177, 180, 190, 195, 519, 520, 798
 記 会② : 532, 556, 557, 558, 560, 561, 562, 563, 564, 565, 566, 568, 569, 570, 572, 574, 576, 577, 578, 579, 580, 586, 587, 588, 589, 592, 595, 600, 603, 744
 746, 747, 750, 751, 752, 753, 754, 756, 757, 758, 759, 760, 833
 同一箇体① : 179, 413, 618
 同一箇体② : 567, 571, 575, 582, 583, 584, 585, 591, 594, 749, 834

(4) 発掘調査写真



写真61 中尾追跡空塹写真①(北東側から)



写真62 中尾追跡空塹写真②(西北側から望む)



写真63 発掘調査状況写真



写真64 西壁地層断面(SP5-SP6)①写真



写真65 西壁地層断面(SP5-SP6)②写真



写真66 北壁地層断面(SP7-SP8)写真



写真67 第3層土器集中部①ベルト南壁断面写真
(紫色のブロックは、暗紫コラ火山灰)



写真68 調査区西側地層堆積状況写真
(最下層は、清見岳火山性噴火物)



写真69 南区土坑67・68・69完掘状況写真(南側から)



写真70 土坑49～63検出状況写真(南西側から)

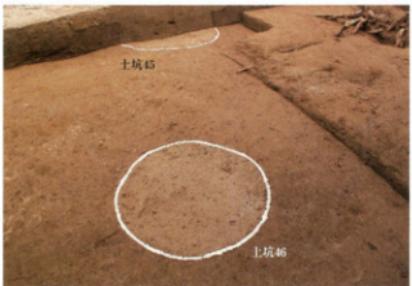


写真71 土坑45・46検出状況写真(南西側から)

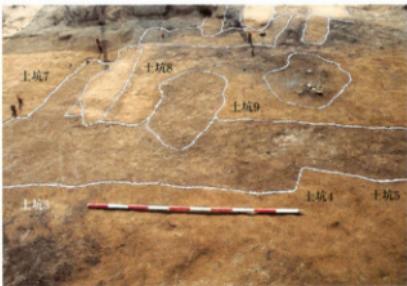


写真72 土坑3・4・5・7・8・9検出状況写真(西北側から)



写真73 土坑3・4・5・7・8・9完掘状況写真



写真74 土坑1完掘状況写真(北東側から)



写真75 第3層土器集中部①検出状況写真①(南西側から)



写真76 第3層土器集中部①検出状況写真②(西側から)



写真77 第3層土器集中部①検出状況写真③(西北側から)
※紫色の土壤は、暗紫コラ火山灰



写真78 第3層土器集中部②検出状況写真(西北側から)



写真79 第3層遺物出土状況写真



写真80 第3層遺物(No.210)出土状況写真

発掘調査写真④



写真81 第4層遺物(No.322)出土状況写真



写真82 弥生時代 ピット42・43断面検出写真(南西側から)



写真83 弥生時代 ピット25断面検出写真(西北側から)



写真84 弥生時代 ピット23・24完掘状況写真(東南側から)



写真85 弥生時代 土坑完掘状況写真①(南西側から)



写真86 弥生時代 土坑完掘状況写真②(東南側から)

発掘調査写真⑤



写真87 弥生時代 土器焼成坑完掘状況写真①(東側から)



写真88 弥生時代 土器焼成坑完掘状況写真②(北側から)



写真89 弥生時代 土器焼成坑完掘状況写真③(南側から)
土坑内底面は、赤色に変色し、灰土や炭化物が認められる。



写真90 弥生時代 土器焼成坑先行トレンチ断面写真①
(EP-WPの東半分)※丸つき数字は、第13図と一致



写真91 弥生時代 土器焼成坑先行トレンチ断面写真②
(EP-WPの東半分)※丸つき数字は、第13図と一致



写真92 弥生時代 土器焼成坑内写真
(中央部は、Ⓐ:被熱した粘土塊, Ⓑ:Ⓐの下位には炭化物混在土壤、Ⓒ:土器片、粘土塊混在土壤、Ⓓ:赤色化した底面)

発掘調査写真⑥

第



編

遺 構 保 存 編

Ruins preservation section



第二編 遺構保存編

中尾追遺跡では、先述したとおり弥生時代の帰属する土器焼成坑、土坑、ピットが検出されている。この土器焼成坑については、第3層を主体とする埋土から、鹿児島県内初例の弥生時代の土器焼成坑として位置づけた。中尾追遺跡の発掘調査範囲は、調査終了後、路線内の谷地を埋めるための土砂として削り出される計画となっていた。指宿市教育委員会としては、この遺構保存処置について協議・検討した結果、移設保存を行うこととなった。

土器焼成坑を中尾追遺跡地内から国指定史跡指宿橋牟礼川遺跡隣接地に移動させ、さらに、歴史公園内への移設保存が終了するまでの作業工程を、下記に段階毎に説明する。

- ・写真93：中尾追遺跡で検出された弥生時代に帰属する土器焼成坑を、移設保存処置を目的として国指定史跡指宿橋牟礼川遺跡歴史公園内へ移設いるために、発泡ウレタンを用いて遺構の保護処理を行っている写真である。土器焼成坑の周辺を掘り下げてコンパネ板により周辺を開む準備作業を行っている。
- ・写真94：土器焼成坑の周辺を掘り下げてコンパネ板により周辺を開む準備作業を行っている。
- ・写真95：土器焼成坑の周辺を掘り下げ、遺構自体のみを島状に残して、コンパネ板により周辺を開む作業が終了した段階である。コンパネ板の固定には、ワイヤーを用いている。
- ・写真96：土器焼成坑をコンパネ板により周辺を開む作業後、遺構直下に鉄板を差し込んでいくためのレールを2本設置する作業である。鉄板は、島状に残した遺構と下位の地盤とを離すためと、移設する際の底板として用いる。
- ・写真97：土器焼成坑の直下に鉄板を差し込んでいく作業である。島状に残した土器焼成坑が破損しないように慎重に重機を用いて押し込んでいった。
- ・写真98：土器焼成坑の直下に鉄板が差し込まれた状態である。
- ・写真99：鉄板とレールを固定し、その四隅にワイヤーを結びつける。そのワイヤーを用いて重機で、土器焼成坑を吊り上げる。ダンプに積み乗せる作業である。
- ・写真100：土器焼成坑を重機で吊り上げ。ダンプに積み乗せる作業である。
- ・写真101：土器焼成坑をダンプに積み、国指定史跡指宿橋牟礼川遺跡歴史公園隣接地の管理用プレハブ前に仮置きが終了した段階である。
- ・写真102：国指定史跡指宿橋牟礼川遺跡歴史公園内に保存処置を目的とした移設が行われまで、この状態で保管されることとなった。
- ・写真103：国指定史跡指宿橋牟礼川遺跡歴史公園に移設保存された土器焼成坑。雨露を防ぐため、遺構上には覆屋を設置した。また、土器焼成坑の両側には、国指定史跡指宿橋牟礼川遺跡が層位的に証明した縄文土器と弥生土器の移りわりと、中尾追遺跡で検出された土器焼成坑の説明と推定復元による土器の焼成方法を図示している説明板を設置した。
- ・写真104：国指定史跡指宿橋牟礼川遺跡歴史公園に移設保存された土器焼成坑。



写真93 遺構保存処置作業状況写真①



写真94 遺構保存処置作業状況写真②



写真95 遺構保存処置作業状況写真③



写真96 遺構保存処置作業状況写真④



写真97 遺構保存処置作業状況写真⑤



写真98 遺構保存処置作業状況写真⑥

遺構保存作業写真①



写真99 遺構保存処置作業状況写真⑦



写真100 遺構保存処置作業状況写真⑧



写真101 遺構保存処置作業状況写真⑨



写真102 遺構保存処置作業状況写真⑩



写真103 遺構保存処置状況写真⑪



写真104 遺構保存処置状況写真⑫

遺構保存作業写真⑬

第

三

編

自然科学分析編

Natural scientific analysis section



第三編　自然科学分析編

中尾迫遺跡の報告書作成に伴い、下記の目的のため植物珪酸体分析、樹種同定分析、蛍光X線（胎土）分析、年代測定分析を、株式会社 古環境研究所へ委託した。分析結果は、株式会社 古環境研究所からの自然科学分析結果をそのまま掲載している。なお、蛍光X線（胎土）分析資料と年代測定分析資料については、指宿市教育委員会で撮影し掲載した。

1. 自然科学分析の目的

自然科学分析の目的としては、中尾迫遺跡で確認された近世と弥生時代の生活当時の周辺環境を探る為に植物珪酸体分析を行った。

中尾迫遺跡で検出された土器焼成坑については、土器焼成坑内の粘土塊（土器焼成窯の粘土壁）と各遺物包含層から出土している土器の胎土と比較することで、遺構と遺物との関連から帰属時期認定の一助となるデータ収集を目的としている。土器焼成坑は第3層上部層が埋土の主体であり、時期認定については、年代測定分析と粘土壁と同質粘土で作成したであろう土器との比較で胎土分析を用いて考えていく。さらに、土器焼成坑内から出土した炭化物の樹種を同定することで、当時の土器焼成時に用いる燃料としての材木を想定する為に樹種同定分析を行った。

蛍光X線（胎土）分析と年代測定分析のサンプルは、下記のとおりである。また、胎土分析サンプルS P 1からS P 11と、年代測定分析サンプルS P 3は、後頁にそのサンプル写真を掲載している。

①蛍光X線（胎土）分析（11点）

S P 1：弥生時代に帰属する土器焼成坑内から出土した粘土塊の一部です。土器を焼成する際の粘土壁の一部と想定できる。接合する部分の内面には、植物痕跡と思われる表面的な凸凹が認められる。

S P 2：S P ①と同様に土器焼成坑内から出土した粘土塊である。

S P 3：第3層上部出土の台付鉢形土器〔No.420〕で、掲載遺物番号36である。

S P 4：第3層上部出土の壺形土器〔No.593〕で、掲載遺物番号37である。

S P 5：第3層上部出土の壺形土器〔No.749+No.571〕で、土器集中部①で一括資料として取り上げた中津野式土器〔掲載遺物番号35〕と同一個体である。

S P 6：第2層出土の壺形土器の口縁部破片〔No.413〕である。出土層は第2層であるが、第3層上部から下部にかけて出土した土器集中部②で一括資料として出土した中津野式土器〔掲載遺物番号68〕と接合する。

S P 7：第3層下部出土の壺形土器の胴部突帯部片〔No.704〕で、掲載遺物番号57である。

S P 8：第3層下部出土の壺形土器の口縁部片〔No.642〕で、掲載遺物番号56である。

S P 9：第4層出土の壺形土器の口縁部片〔No.529〕で、掲載遺物番号79である。

S P 10：第4層出土の壺形土器の胴部突帯部片〔No.633〕で、掲載遺物番号86である。

S P 11：第3層出土の壺形土器の口縁部片〔No.20+54〕で、掲載遺物番号18である。

②年代測定分析（3点）

S P 1：土器焼成坑内から採集したカーボンである。

S P 2：土器焼成坑の先行トレンチから採集した一般カーボンである。

S P 3：第3層下部出土の土器底部片〔No.485〕の内面に付着している炭化物である。

指宿市、中尾迫遺跡における自然科学分析

株式会社 古環境研究所

I. 中尾迫遺跡における植物珪酸体分析

1. はじめに

植物珪酸体は、おもにイネ科植物の細胞内にガラスの主成分である珪酸(SiO_2)が蓄積したものであり、植物が枯れたあとも微化石(プラント・オパール)となって土壤中に半永久的に残っている。植物珪酸体分析は、この微化石を遺跡土壤などから検出する分析であり、イネをはじめとするイネ科栽培植物の同定および古植生・古環境の推定などに応用されている(杉山, 1987)。

2. 試料

分析試料は、西堀セクションおよび土器焼成坑から採取された計10点である。試料採取箇所を分析結果図に示す。

3. 分析法

植物珪酸体の抽出と定量は、プラント・オパール定量分析法(藤原, 1976)をもとに、次の手順で行った。

- 1) 試料を105°Cで24時間乾燥(絶乾)
- 2) 試料約1gに直径約40 μm のガラスピーブを約0.02g添加(電子分析天秤により0.1mgの精度で秤量)
- 3) 電気炉灰化法(550°C・6時間)による脱有機物処理
- 4) 超音波水中照射(300W・42KHz・10分間)による分散
- 5) 沈底法による20 μm 以下の微粒子除去
- 6) 封入剤(オイキット)中に分散してプレパラート作成
- 7) 検鏡・計数。

同定は、イネ科植物の機動細胞に由来する植物珪酸体をおもな対象とし、400倍の偏光顕微鏡下で行った。計数は、ガラスピーブ個数が400以上になるまで行った。これはほぼプレパラート1枚分の精査に相当する。試料1gあたりのガラスピーブ個数に計数された植物珪酸体とガラスピーブ個数の比率をかけて、試料1g中の植物珪酸体個数を求めた。

また、おもな分類群についてはこの値に試料の仮比重と各植物の換算係数(機動細胞珪酸体1個あたりの植物体乾重、単位:10 ^{-3}g)をかけて、単位面積で層厚1cmあたりの植物体生産量を算出した。ススキ属(ススキ)の換算係数は1.24、メダケ節は1.16、クマザサ属(チシマザサ節・チマキザサ節)は0.75である。

4. 分析結果

(1) 分類群

分析試料から検出された植物珪酸体の分類群は以下のとおりである。これらの分類群について定量を行い、その結果を表1および図1、図2に示した。主要な分類群について顕微鏡写真を示す。

[イネ科]

キビ族型、ススキ属型(おもにススキ属)、ウシクサ族A(チガヤ属など)、Bタイプ

[イネ科-タケア科]

メダケ節型(メダケ属メダケ節・リュウキュウチク節、ヤダケ属)、クマザサ属型(チシマザサ節やチマキザサ節など)、未分類等

[イネ科-その他]

表皮毛起源、棒状珪酸体(おもに結合組織細胞由来)、未分類等

[樹木]

ブナ科(シイ属), クスノキ科, その他

(2) 植物珪酸体の検出状況

1) 西壁セクション

4層, 3下層(弥生時代中期), 3上層(弥生時代後期), 中世黒色帯について分析を行った。その結果, 4層(SP14)では, クスノキ科やブナ科(シイ属)などの樹木(照葉樹)が比較的多く検出され, ススキ属型やウシクサ族Aなども少量検出された。樹木は一般に植物珪酸体の生産量が低いことから, 少量が検出された場合でもかなり過大に評価する必要がある。3下層(SP13)から3上層(SP12)にかけてもおおむね同様の結果であるが, メダケ節型が出現しており, 樹木は減少している。中世黒色帯(SP10')では, ススキ属型が大幅に増加しており, 樹木は見られなくなっている。

2) 土器焼成土

焼けた粘土, 粘土, 埋土について分析を行った。その結果, 焼けた粘土(SP4, SP10, SP11)では, クスノキ科などの樹木(照葉樹)が多量に検出され, ススキ属型やウシクサ族Aなども少量検出された。埋土(SP2, SP3)と粘土(SP6)でも, 同様の分類群が検出されたが, 樹木は比較的の少量である。

5. 考察

1) 西壁セクション

4層の堆積当時は, 遺跡周辺にクスノキ科やブナ科(シイ属)などの照葉樹林が分布していたと考えられ, 部分的にススキ属やチガヤ属なども見られたものと推定される。弥生時代中期とされる3下層から弥生時代後期とされる3上層にかけては, 照葉樹林がしだいに縮小したと考えられ, メダケ節などの竹笹類も見られるようになつたものと推定される。中世黒色帯の堆積当時は, ススキ属などが多く生育する草原的な環境であったものと推定される。

表1 指宿市、中尾迫遺跡における植物珪酸体分析結果

分類群	学名	成土坑						西壁セクション			
		理土	粘土	泥土	4	10	11	10'	12	13	14
イネ科	Gramineae (Grasses)				7		7	8			
セイヨウ型	Panicoid type	8	8		15	15	122	15	7	8	
ススキ型	Miscanthus type	15	23	30	8	15	43	31	33	8	
シシクサ族A	Andropogoneae A type										
B型	B type				15						
タケ科	Bambusoideae (Bamboo)										
メダケ節型	Pleistostachya sect. Medake								8	7	
クマザサ型	Sasa (except Miyakosasa)								8		
其分類等	Others										8
その他のイネ科	Others										
茎皮毛起源	Husk hair origin			8	8		7				
棒状珪酸体	Rod-shaped	23		8	15	73	43		7		
其分類等	Others	75	45	114	30	161	122	38	140	45	
樹木遺跡	Araeal										
ブナ科(シイ属)	Castanopsis	15		15	29	8		20	30		
クスノキ科	Laureaceae	38	30	61	106	103	128	46	33	83	
その他	Others	15		38	15	29	53	23	60	83	
植物珪酸体総数	Total	188	105	273	182	448	294	343	175	397	264

計もな分類群の推定生産量 (単位: kg/m²·cm)

ススキ型	Miscanthus type	0.09	0.09		0.18	0.19	1.51	0.19	0.08	0.09
メダケ節型	Pleistostachya sect. Medake						0.59		0.08	
クマザサ型	Sasa (except Miyakosasa)						0.06			

タケ系群の比率 (%)

メダケ節型	Pleistostachya sect. Medake				61	100
クマザサ型	Sasa (except Miyakosasa)				39	

表1 指宿市、中尾迫遺跡における植物珪酸体分析結果

2) 土器焼成坑

土器焼成坑の焼けた粘土では、クスノキ科が10,300~12,800個/gと高い密度で検出された。これは、埋土の3,000~3,800個/g、粘土の6,100個/gと比較して明らかに高い値である。このことから、土器焼成坑ではクスノキ科の葉が燃料の一部として利用されていた可能性が考えられる。これは、土器焼成坑の底部付近から出土した炭化材が、樹種同定(第Ⅲ章参照)によりクスノキ科と同定されたことと符合している。当時は遺跡周辺にクスノキ科などの照葉樹林が分布しており、そこから燃料として樹木の枝や葉などが収集されたものと推定される。なお、今回の分析では、燃料としてスキヤやチガヤなどのイネ科草本類が利用されていた可能性は認められなかった。

文献

杉山真二(1987)遺跡調査におけるプランツ・オパール分析の現状と問題点。植生史研究、第2号、p.27-37。

杉山真二(1999)植物珪酸体分析からみた九州南部の照葉樹林発達史。第四紀研究、38(2)、p.109-123。

藤原宏志(1976)プランツ・オパール分析法の基礎的研究(1)－数種イネ科栽培植物の珪酸体標本と定量分析法－。考古学と自然科学、9、p.15-29。

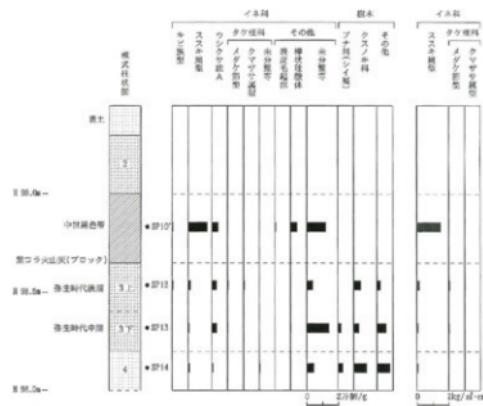


図1 中尾追遺跡、西壁セクションにおける植物珪酸体分析結果

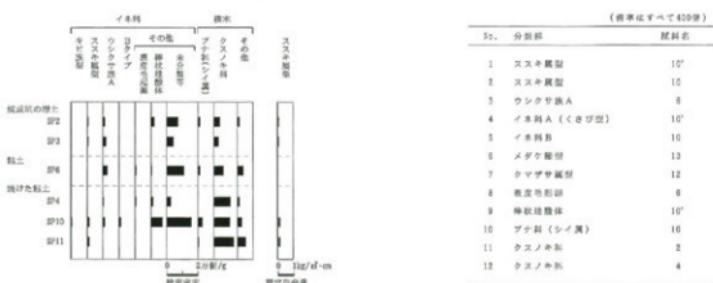
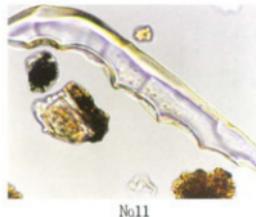
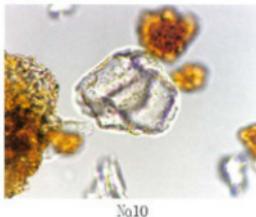
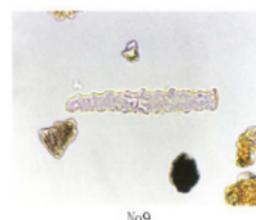
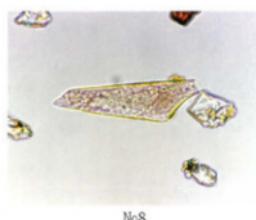
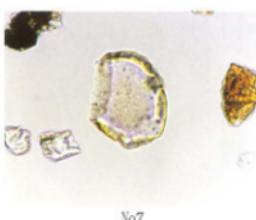
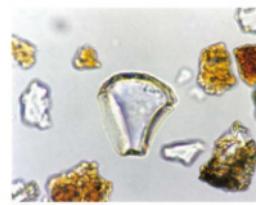
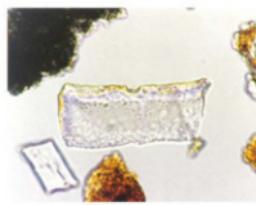
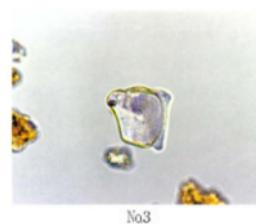
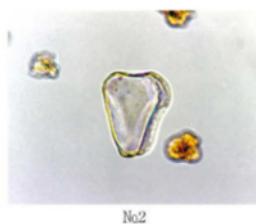
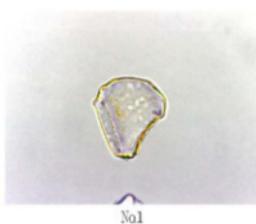


図2 中尾追遺跡、土器焼成坑における植物珪酸体分析結果

植物珪酸体(プランツ・オパール)の顕微鏡写真

検出部位		(標準値すべて400個)
No.	試料名	
1	スキニ型	10'
2	スキナ型	10
3	ウシクサ族A	8
4	イネ科A (くさび型)	10'
5	イネ科B	10
6	メダカ型	13
7	クマザサ型	12
8	根元形	6
9	根状茎體	10'
10	ブナ科 (シイ属)	10
11	クスノキ	2
12	クスノキ	4



II. 中尾追遺跡における樹種同定分析

1. 試料

試料は、土器焼成坑の底部付近から出土した炭化材（SP 1, SP 5）である。

2. 方法

試料を割折して新鮮な基本的三断面（木材の横断面、放射断面、接線断面）を作製し、落射顕微鏡によつて75～750倍で観察した。樹種同定は解剖学的形質および現生標本との対比によって行った。

3. 結果

結果を表1に示し、主要な分類群の顕微鏡写真を示す。以下に同定根拠となった特徴を記す。

表1 中尾追遺跡出土炭化材の樹種同定結果

試料	樹種（和名／学名）
SP 1	クスノキ科 Lauraceae
SP 5	クスノキ科 Lauraceae

a. クスノキ科 Lauraceae

横断面：中型から小型の道管が、単独および2～数個放射方向に複合して、散在する散孔材である。道管の周囲を輪状に柔細胞が取り囲んでいる。

放射断面：道管の穿孔は單穿孔のものが存在する。放射組織はほとんどが平伏細胞で上下の縁辺部のみ直立細胞からなる。

接線断面：放射組織は異性放射組織型で1～3細胞幅で、上下の縁辺部のみ直立細胞である。

以上の形質よりクスノキ科に同定される。クスノキ科には、クスノキ、ヤブニッケイ、タブノキ、カゴノキ、シロダモ属などがあるが、本試料は極めて小片で広範囲の観察が困難であるため、クスノキ科の同定にとどめた。

4. 所見

土器焼成坑の底部付近から検出された炭化材はクスノキ科と同定された。クスノキ科は下部温帯域に分布する照葉樹林の主要構成要素となる樹種を多く含み、照葉樹林には豊富に存在する樹木である。

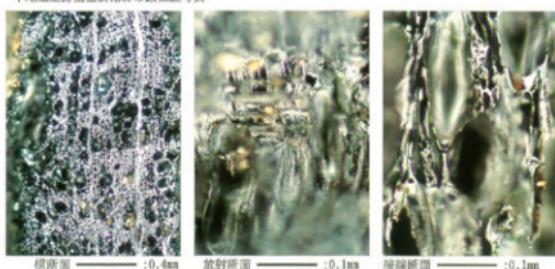
文献

佐伯浩・原田浩(1985)針葉樹材の細胞。木材の構造、文永堂出版、p.20-48。

佐伯浩・原田浩(1985)広葉樹材の細胞。木材の構造、文永堂出版、p.49-100。

図版1

中尾追遺跡出土炭化材の顕微鏡写真



III. 中尾追遺跡における蛍光X線分析

1. はじめに

土器（胎土）に含まれる元素のうち、カリウム（K）、カルシウム（Ca）、ルビジウム（Rb）、ストロンチウム（Sr）の4元素は、土器胎土の地域性を示す有効な因子とされており、CaO-K₂O分布図やSrO-Rb₂O分布図を主な指標として土器の産地同定が行われている（三辻,1999）。

ここでは、土器焼成坑から出土した粘土塊（SP 1, SP 2），および遺物包含層から出土した土器（SP 3～SP11）について蛍光X線分析を行い、土器の産地や流通等に関する情報の収集を試みた。

2. 分析方法

エネルギー分散型蛍光X線分析システム（日本電子（株）製、JSX3201）を用いて、元素の同定およびファンダメンタルパラメータ法（FP法）による定量分析を行った。以下に分析の手順を示す。

- 1) 土器片の分析面を研磨洗浄
- 2) 絶乾後、分析装置の固定試料ステージに固定
- 3) 測定時間300秒、照射径20mm、電圧30keV、試料室内真空の条件で測定

なお、X線発生部の管球はロジウム（Rh）ターゲット、ベリリウム（Be）窓、X線検出器はSi（Li）半導体検出器である。

3. 分析結果

各元素の定量分析結果（wt%）を表1に示し、図1にCaO-K₂O分布図およびSrO-Rb₂O分布図を示す。

4. 考察

（1）粘土塊と土器の関係について

土器の産地同定を行う際の指標の一つとされているCaO-K₂O分布図によると、土器焼成坑の粘土塊（SP 1, 2）は、カルシウム（CaO）含量が4.33%および9.66%であり、土器（SP 3～SP11）の0.86～2.39%と比較して明らかに高い値である。また、CaO/K₂Oの値は5.7および11.9であり、土器の0.5～2.1と比較して明らかに高い値である。

SrO-Rb₂O分布図によると、粘土塊（SP 1, 2）はストロンチウム（SrO）含量が0.039%および0.064%であり、土器の0.015～0.032%と比較して明らかに高い値である。また、SrO/Rb₂Oの値は5.6および10.7であり、土器の0.7～5.3と比較して明らかに高い値である。

以上の結果から、土器焼成坑の粘土塊と遺物包含層から出土した土器は、素材となった粘土の給源が異なっている可能性が高いと考えられる。

（2）土器の胎土について

遺物包含層から出土したSP 3～SP11の土器のうち、SP 5とSP 7はカリウム（K₂O）の含量が1.92%であり、その他の土器の0.41～1.81%と比較して明らかに高い値である。また、CaO/K₂Oの値は0.5であり、その他の土器の0.9～2.1と比較して明らかに低い値である。

SrO-Rb₂O分布図によると、SP 5とSP 7はルビジウム（Rb₂O）の含量が0.028%および0.021%であり、その他の土器の0.005～0.013%と比較して明らかに高い値である。また、SrO/Rb₂Oの値は0.7であり、その他の土器の1.5～5.3と比較して明らかに低い値である。

以上の結果から、遺物包含層から出土したSP 3～SP11の9点の土器のうち、SP 5とSP 7はその他の土器とは素材となった粘土の給源が異なっている可能性が考えられる。

5.まとめ

蛍光X線分析の結果から、土器焼成坑の粘土塊と遺物包含層から出土した土器は、素材となった粘土の給源が異なっている可能性が高いと考えられる。また、遺物包含層から出土したSP3～SP11の9点の土器のうち、SP5とSP7はその他の土器とは素材となった粘土の給源が異なっている可能性が考えられる。

今後このような基礎的なデータを蓄積することで、土器の生産地や流通等に関する具体的な情報が得られるものと期待される。

文献

三辻利一（1998）元素分析による古代土器の胎土研究。人類史研究第10号、p.11-39。

三辻利一（1999）元素分析による須恵器の产地推定。考古学と自然科学（4）。同成社、p.294-313。

単位: wt (%)

地点・試料	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
原子No.	化学式	粘土塊	粘土塊	土器36	土器37	土器35	土器68	土器57	土器56	土器79	土器86
11	Na ₂ O	1.296	2.637	0.735	0.652	0.917	0.714	0.641	0.966	1.707	0.818
12	MgO	1.421	2.290	0.311	0.280	1.037	0.969	0.754	0.374	0.788	0.309
13	Al ₂ O ₃	27.534	20.634	31.613	28.030	24.866	39.172	25.641	26.207	24.749	26.339
14	SiO ₂	47.962	46.170	54.337	56.087	59.800	44.248	60.374	57.779	60.298	60.501
15	P ₂ O ₅	0.973	0.622	1.261	1.033	1.132	0.847	1.140	0.987	1.214	1.224
16	SO ₃	0.209	0.000	0.211	0.035	0.340	0.118	0.023	0.059	0.052	0.000
19	K ₂ O	0.766	0.814	0.890	1.127	1.920	0.408	1.920	1.152	1.142	1.349
20	CaO	4.329	9.658	1.317	1.037	1.046	0.864	0.976	1.706	2.393	1.435
22	TiO ₂	1.437	1.231	1.611	1.402	1.524	2.403	1.577	1.448	2.039	1.738
23	V ₂ O ₅	0.067	0.074	0.041	0.043	0.038	0.117	0.050	0.068	0.064	0.039
25	MnO	0.379	0.292	0.211	0.193	0.191	0.174	0.388	0.477	0.161	0.136
26	Fe ₂ O ₃	13.582	13.509	7.387	10.007	7.130	9.875	6.438	8.701	5.305	6.044
37	Rb ₂ O	0.007	0.006	0.005	0.011	0.028	0.009	0.021	0.010	0.013	0.008
38	SrO	0.039	0.064	0.021	0.017	0.019	0.028	0.015	0.024	0.031	0.023
40	ZrO ₂	0.000	0.000	0.048	0.047	0.013	0.056	0.044	0.044	0.044	0.039

表1 指宿市、中尾追遺跡における蛍光X線分析結果

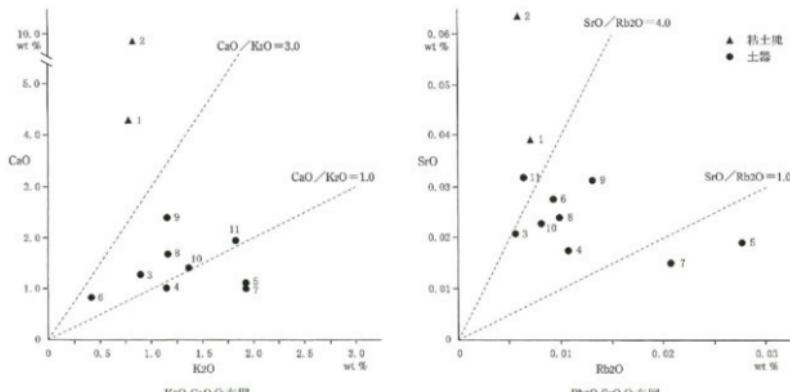


図1 指宿市、中尾追遺跡出土土器等のK₂O-CaO分布図およびRb₂O-SrO分布図



写真105 蛍光X線分析資料



写真106 分析資料SP1(土器焼成坑内出土遺物)



写真107 分析資料SP2(土器焼成坑内出土遺物)



写真108 分析資料SP3(掲載番号36)



写真109 分析資料SP4(掲載番号37)



写真110 分析資料SP5(掲載番号35と同一個体)



写真111 分析資料SP6(掲載番号68)



写真112 分析資料SP7(掲載番号57)



写真113 分析資料SP8(掲載番号56)



写真114 分析資料SP9(掲載番号79)



写真115 分析資料SP10(掲載番号86)



写真116 分析資料SP11(掲載番号18)

IV. 中尾追遺跡における放射性炭素年代測定分析

1. 試料と方法

試料名	地點・層準	種類	前処理・調整	測定法
No 1	土器焼成坑内	炭化物	酸-アルカリ-酸洗浄, 石墨調整	AMS
No 2	土器焼成坑の先行トレンチ	炭化物	酸-アルカリ-酸洗浄, 石墨調整	AMS
No 3	3層下部, 土器片No485	土器内面付着物	酸-アルカリ-酸洗浄, 石墨調整	AMS

AMS : 加速器質量分析法 (Accelerator Mass Spectrometry)

2. 測定結果

試料名	測定No	¹⁴ C年代	$\delta^{13}\text{C}$	補正 ¹⁴ C年代	暦年代(西暦)
(Beta-)	(年BP)	(%)			(1σ : 68%確率, 2σ : 95%確率)
No 1	197463	1320±40	-23.8	1340±40	交点 : cal AD 670 1 σ : cal AD 660~690 2 σ : cal AD 640~770
No 2	197464	1390±40	-23.8	1360±40	交点 : cal AD 660 1 σ : cal AD 650~680 2 σ : cal AD 630~710
No 3	197465	2260±40	-25.2	2260±40	交点 : cal BC 370 1 σ : cal BC 390~360, 290~230 2 σ : cal BC 400~200

(1) ¹⁴C年代測定値

試料の¹⁴C/¹²C比から、単純に現在（AD1950年）から何年前かを計算した値。¹⁴Cの半減期は、国際的慣例によりLibbyの5,568年を用いた。

(2) $\delta^{13}\text{C}$ 測定値

試料の測定¹⁴C/¹²C比を補正するための炭素安定同位体比 (¹³C/¹²C)。この値は標準物質 (PDB) の同位体比からの千分偏差 (‰) で表す。

(3) 補正¹⁴C年代値

$\delta^{13}\text{C}$ 測定値から試料の炭素の同位体分別を知り、¹⁴C/¹²Cの測定値に補正值を加えた上で算出した年代。試料の $\delta^{13}\text{C}$ 値を-25(‰)に標準化することによって得られる年代である。

(4) 暦年代

過去の宇宙線強度の変動による大気中¹⁴C濃度の変動を較正することにより算出した年代（西暦）。calはcalibrationした年代値であることを示す。較正には、年代既知の樹木年輪の¹⁴Cの詳細な測定値、およびサンゴのU-Th年代と¹⁴C年代の比較により作成された較正曲線を使用した。最新のデータベースでは約19,000年

BPまでの換算が可能となっている。ただし、10,000年BP以前のデータはまだ不完全であり、今後も改善される可能性がある。

曆年代の交点とは、補正¹⁴C年代値と曆年代校正曲線との交点の曆年代値を意味する。 $1\sigma^{\text{ラグ}}$ (68%確率) と 2σ (95%確率) は、補正¹⁴C年代値の偏差の幅を校正曲線に投影した曆年代の幅を示す。したがって、複数の交点が表記される場合や、複数の 1σ ・ 2σ 値が表記される場合もある。

3. 所見

加速器質量分析法(AMS法)による放射性炭素年代測定の結果、No.1の炭化物では 1340 ± 40 年BP (1σ) の曆年代でAD660～690年)、No.2の炭化物では 1360 ± 40 年BP (同AD650～680年)、No.3の炭化物(土器内面付着物)では 2260 ± 40 年BP (同BC390～360, 290～230年) の年代値が得られた。なお、No.3では放射性炭素年代測定値よりも曆年代の年代幅がかなり大きくなっているが、これは該当時期の曆年代校正曲線が不安定なためである。

文献

Stuiver et al. (1998), INTCAL98 Radiocarbon Age Calibration, Radiocarbon, 40, p.1041-1083.

中村俊夫 (1999) 放射性炭素法. 考古学のための年代測定学入門. 古今書院, p.1-36.



写真117 年代測定分析資料NO.3
(第3層下部出土遺物: No.485)

第

四

編

発掘調査成果編

Result of excavation investigation



第四編 発掘調査成果編

広域営農団地農道整備事業に伴い、平成9年度に実施した中尾迫遺跡の発掘調査によって、近世・近代と弥生時代中期・後期の遺物包含層を確認した。以下、それらの発掘調査成果をまとめる。

①近世・近代

中尾迫遺跡の第2a層では、近世・近代の遺物包含層を確認した。埋土が第2a層である遺構が、第8図や別図1に示しているとおり、調査区全体から検出されている。検出された遺構は、土坑、溝状遺構、ピットである。

土坑や溝状遺構は、発掘調査区内でもその検出状況(分布)が偏っている傾向が看取できる。

楕円形を呈している土坑Aは、北区の西北側に偏在している。土坑Aの主軸方向は、概ね、東北—南西方向と東南—西北方向の2軸看取できる。前者を主軸とする土坑Aには、土坑3・4・5・10・11等のようにはほぼ主軸位置も重なり、互いに切り合っているものがある。それに対して、後者を主軸とする土坑Aは、主軸方向は同じであるものの、互いに切り合っているものはほとんどない。

円形を呈している土坑Bは、北区と南区の東南側に偏在し、北区中央付近にも点在している。特に、北区東南側で検出された土坑Bは、ほぼ、東北—南西方向の直線上に位置し、土坑51・52・54・55・56のように互いに切り合っている。さらに、南区では土坑70・72・73・74・75が、ほぼ東南—西北方向の直線上に位置している。これは、先述した東北—南西方向に主軸をもつ土坑Aと同じ状況を呈している。

溝状遺構は、北区中央部付近と南区西北端で認められる。主軸はほぼ東北—南西方向である。

土坑Aと土坑B、溝状遺構が、ほぼ東北—南西方向の直線上に位置している理由としては、それらの用途と、掘られた位置の空間的なあり方が関与するものと考えられる。推測の域を出ないものの、区割りされた土地の端部あるいは隣接する土地との境界付近とも考えることも可能である。

また、土坑Bについては、その形状等から、現在いわゆる「イモ穴」と呼称される根茎類の保存・貯蔵用穴に類似するものと推測できよう。なお、現在「イモ穴」は、畑地内の端部に設けられていることが多いようである。

ピットは、北区中央部付近の限られた範囲から17基検出されたが、建物や上部構造を類推されるような配置関係はつかめなかった。

これらの遺構検出状況から、中尾迫遺跡での近世・近代においては、土地の区割りなどに起因して土坑や溝状遺構を掘り込む位置を選択されていたものと考えられる。

②弥生時代

中尾迫遺跡では、第3層上部、第3層下部、第4層で、弥生時代の遺物包含層を確認した。

第3層上部は、中津野式土器を主体とする弥生時代後期終末期の遺物包含層である。組成は、壺形土器、台付鉢形土器、鉢形土器が認められ、点数的にも86点と少ない。土器焼成坑の形成時期と考えられる。

第3層下部は、山之口式土器と入来Ⅱ式土器が混在している弥生時代中期の遺物包含層である。組成は、壺形土器、壺形土器が認められ、261点出土している。土坑の形成時期と考えられる。

第4層は、入来Ⅱ式土器を主体とする弥生時代中期の遺物包含層である。また、確実なものは1点であるが高橋式土器の出土から弥生時代前期も含まれる。組成は、壺形土器、壺形土器が認められ、205点出土している。

このように、第4層→第3層下部→第3層上部と移るにつれ、弥生時代前期・中期・後期とひとつの遺跡で時期変遷を追うことができる。なお、これまでに指宿市内の遺跡では、早馬迫遺跡で高橋式土器が出土している。尾長谷迫遺跡や横瀬遺跡、早馬迫遺跡では入来Ⅱ式土器を、また、南追田遺跡では、山之口式土器を主体とする遺物包含層が確認されている。上吹越遺跡では、中津野式段階の壺棺が出土している。

中尾迫遺跡における弥生時代に帰属する遺構としては、土器焼成坑と土坑、ピットが検出されている。

土器焼成坑は、第4層上面で検出し、埋土は第3層を主体としている。埋土の第3層の上部には、開闢岳の火山性噴出物の暗紫コラの火山レキが混在している。よって、土器焼成坑の帰属時期は、暗紫コラ噴出・堆積以

降から第3上部層堆積までの時期と考えられる。土器型的には、第3層上部に主体的に包含層されている中津野式土器の時期を考えることができよう。遺物取上番号530と531が^g、土器焼成坑内の第3層上部から出土している。また、株式会社古環境研究所による土器焼成坑内検出の炭化物の樹種同定分析と植物珪酸体分析によると、弥生時代の遺物包含層(第3層上部・下部、第4層)のみで検出されたクスノキ科であることが確認された。よって、当時周辺に広がっていた照葉樹林のクスノキ科の樹木を燃料として、土器を焼成していたことが伺えられる。

土坑の埋土の主体は第3層上部であり、若干、第4層も混在している。その埋土下部には、暗紫コラの火山レキが堆積している。また、中國聰氏より、土坑の埋土出土遺物中に、入来「式土器の範疇に含まれる壺形土器類部突部片(61頁・第38図)」があると御教示頂いた。さらに、土坑がほぼ埋没した後に、弥生時代後期終末に位置付けられている中津野式土器(掲載遺物番号68)が出土した土器集中部②(37頁・第24図)が廃棄・遺棄されている。これらの状況から、土坑の帰属時期は、暗紫コラの火山レキ降下・堆積以前から土器集中部②の遺棄・廃棄以前であると考えられる。よって、土器焼成坑と土坑とは、若干帰属時期が異なるものであることが言えよう。

ピットは、北区西北側に偏在する状況で68基検出されている。ピット内の埋土は、第3層、第3層上部、第3層下部、第4層、暗紫コラのブロックである。ピットは、ある程度までは埋土層の分別によって帰属時期別に分類することは可能である。各ピットを第3層上部と第3層下部、第4層の各埋土別で分類し、その各時期別のピット配置関係からは、建物跡や柵状等の何らかの上部構造を彷彿させるようなプランは確認できない。しかしながら、ピット25・31・40・42・54等のように、検出面からピットの底面までの深さが50cmを超えるものもあることから、ピットを有してある程度の強度を必要とする何らかの遺構があったことは確かであろう。

中尾追遺跡における弥生時代の石器組成は、総出土点数838点の内42点であり、5%弱しか占めていない。その器種別の内訳は、軽石素材のもの23点、剥片7点、台石1点、礫6点、礫片4点、鉱石1点である。軽石素材のものは後述するとして、他の19点の層別石器組成は次のとおりである。第3層は8点(剥片4点、礫2点、礫片2点)、第3層上部は1点(礫1点)、第3層下部は5点(剥片2点、礫2点、礫片1点)、第4層は4点(台石1点、礫1点、礫片1点、鉱石1点)、土坑埋土は1点(剥片1点)である。

このように、石器組成中には、打製・磨製の石斧や石鎌。それらの製作に伴う調整剥片や砥石等が1点も含まれないという特徴を持っている。確実な石器としては、第3層出土の黒曜石製の剥片1点(掲載遺物番号34)と、第4層出土の中央部が窪んでいる安山岩製の台石1点(掲載遺物番号105)である。

軽石素材の出土遺物は、第3層から10点(軽石製加工品6点、軽石4点)、第3層下部から12点(軽石製加工品7点、軽石3点、軽石片2点)、第4層から11点(軽石製加工品6点、軽石5点)の合計23点出土している。

軽石製加工品の表裏面の状態から、その両面を磨面として利用していたことが伺える。特に、第3層下部出土の軽石製加工品(掲載遺物番号73)の表裏面で認められる磨面の主軸は、加工品自体の長軸とは重ならず右側にぶれている。その両面の磨面の断面形態は、円弧状を呈している。さらに、掲載遺物番号69・104は、欠損しているものの表裏面のほぼ中央部を貫く穿孔があったことが認められる。さらに、掲載遺物番号71の両面には、穿孔を貫通させる意図があったと思われる窪みが認められ、祭祀的な用途も含め注視する必要がある。

発掘調査によって、標高100m前後の丘陵地に広がっている中尾追遺跡では、弥生時代前期、中期、後期の生活道具をはじめピット等の遺構が発見され、生活空間として利用されていたことが確認された。また、後期終末期の中津野式土器段階では、土器を焼成して製作していたことが確認された。株式会社古環境研究所による植物珪酸体分析によると、弥生時代全般を通して、クスノキ科やブナ科(シイ属)などの照葉樹林の樹木が広がり、ススキ属型やウシクサ属A、メダケ属型(第4層以外)などが繁茂している環境であったと推測されている。

今後は、このような標高100m前後の丘陵地での生活基盤等について、自然科学分析も含め検討していく、当時の生活風景を垣間見れる能够ができるように努めていく必要があろう。

(文責 錦田)

報告書抄録

ふりがな	なかおざこいせき
書名	中尾追遺跡
副書名	広域営農団地南蔵東部地区整備事業に関わる埋蔵文化財発掘調査報告書
卷次	
シリーズ名	指宿市埋蔵文化財発掘調査報告書
シリーズ番号	第38集
編著者名	鎌田洋昭 中摩浩太郎 渡部徹也
編集機関	鹿児島県指宿市教育委員会(指宿市考古博物館 時遊館C O C C O はしむれ)
所在地	〒891-0403 鹿児島県指宿市十二町2290 TEL:0993-23-5100
発行年月日	平成17年3月31日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東經	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
なかおざこいせき 中尾追遺跡	いのすきしおざこいせきにしたた かみごうちからおざこ 小字中尾追	46210	2-57	31°15'54"	130°35'48"	19970616 ~ 19971015	1,040m ²	広域営農団地 農道整備事業

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
中尾追遺跡	包含地	近世・近代 弥生時代後期 〔第3層上部〕 弥生時代中期 〔第3層下部〕 〔第4層〕	土坑・ピット 土器焼成坑 土坑・ピット ピット	陶磁器片 中津野式土器 山之口式土器・入来II式土器 入来II式土器・高橋式土器	鹿児島県内初の 弥生時代の土器 焼成坑の検出

中尾迫遺跡

Nakaozako-Archaeological site

平成17年 3月
2005 March

発行
指宿市教育委員会

The Ibusuki Board of Education
鹿児島県指宿市十二町2290
Junicho2290 Ibusuki-city,Kagoshima Pref.Japan
TEL 0993-23-5100

印刷所
調上印刷株式会社
鹿児島市樋之口町6-6
Tenokuchicho6-6 Kagoshima-city,Kagoshima Pref.Japan
TEL 099-225-2727
